

150

27

辯

護

士

齋

藤

正

毅

著

法學博士  
パリストール

岡 郵 輝 彦 校 閱

# 日本手形法解釋

東京 大倉書店發行



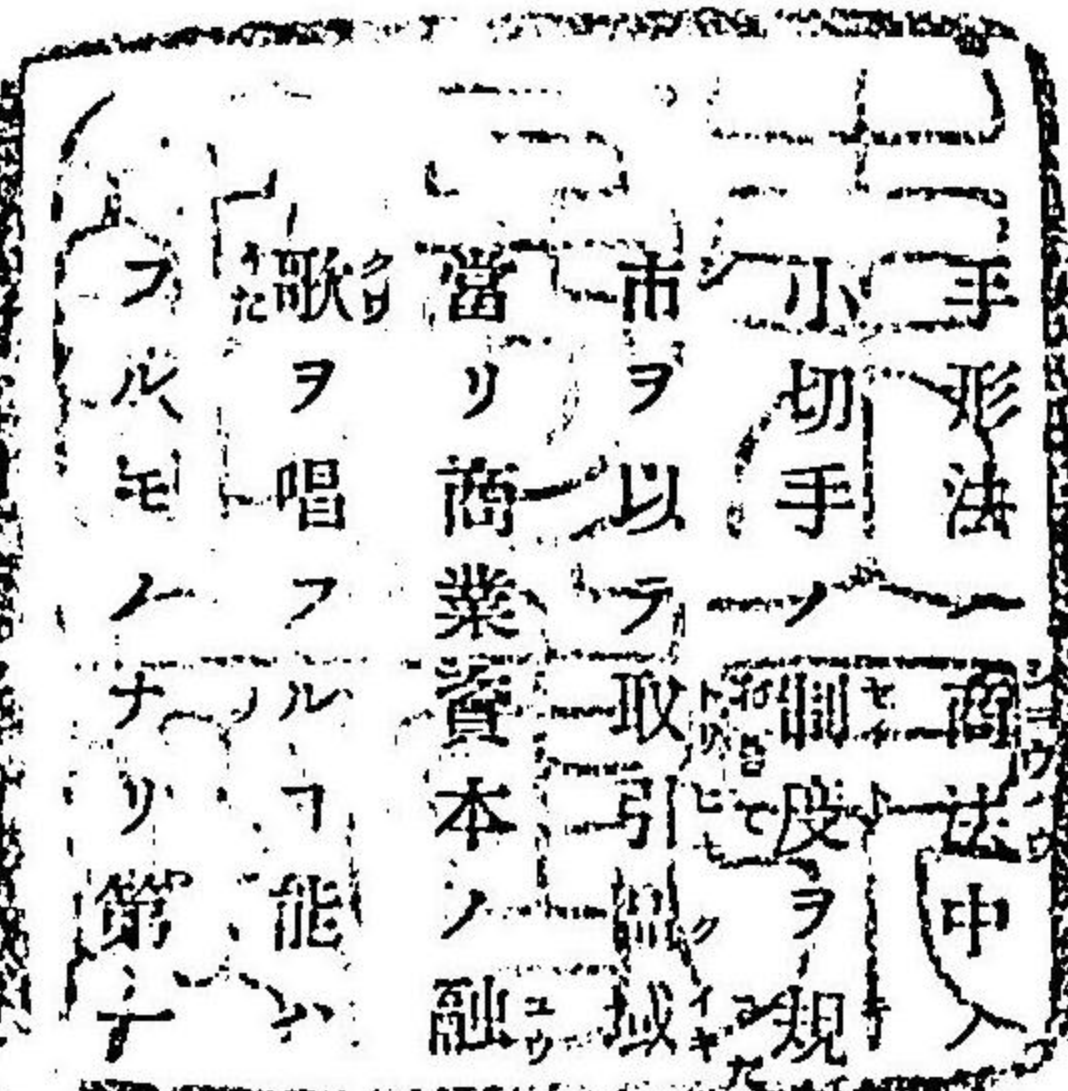
特15  
625

# 日本手形法解釋

日本法學博士 岡村輝彦  
英國バリストール 辨護士 齋藤正

## 第十二章

### 手形及小切手



手形法 商法中 一部ニシテ 商業上尤モ 必要ナル 爲替手形 約束手形 及ヒ  
 小切手 規定セラレタルモノナリ 今ヤ 商業大ニ 進歩シ 僅カ一 郷一  
 市ヲ以テ 取引ノ 域ニ 甘セス 遙カニ 海外ノ 得意ト 商戰ヲ 開キ 優劣ヲ 競フニ  
 當リ 商業資本ノ 融通者タル 手形ノ 性質ヲ 知盡スルニ アラサレハ 最終ノ 凱  
 歌ヲ 唱フルヲ 能ハサルヘシ 蓋シ 手形ハ 商業社會ニ 對シ 左ノ 二大利益ヲ 與  
 フルモノナリ 第一 現金授受ノ 便宜 第二 商業資本ノ 融通之レナリ

第一 現金授受ノ 便宜トハ 例ヘハ 東京ノ 商人 大坂ニ 於テ 取引ヲ ナシタル 際  
 東京ノ 商人 大坂ノ 商人ニ 對シ 引取物品ノ 代價ヲ 正金ニテ 大坂迄 送致スル  
 トスレハ 途中ニ 於テ 紛失盜難等ノ 危險アルノ ミナラス 態々 正金ヲ 持參セ

總則



シメ大坂へ人ヲ遣ハサザレハ取引ヲナスコト能ハサルヘシ然ルニ手形ハ東京ノ甲銀行ニ現金ヲ振込其銀行ノ爲替手形ヲ以テ大坂ナル乙銀行ヨリ現金ヲ受取ルコトヲ得ルモノナレハ送金ノ入費ヲ省ク而已ナラス途中ニ於テ粉失盜難等ノ場合ニハ速ニ支拂人ニ對シ其通知ヲナシ其他防禦ノ手續ヲ運フニ於テハ損失ヲ負擔スルノ危険ヲ免ルコトヲ得ルモノナリ且手形ハ正金ト同シク支拂方ハ確實ナルモノナレハ信用アル者ノ振出シタル手形ハ貨幣ト少シモ異ナルコトナク流通スルニ至ルベシ且ツ斯ル場合ハ尤モ利益アルモノトス例ヘハ東京ノ商人甲ハ大坂ノ商人乙ヨリ商品代價千圓ノ借用アリ然ルニ大坂ノ商人丙ハ却テ東京ノ商人甲ヨリ千圓ノ借用アリ此時ニ際シ東京ノ商人甲ハ丙ニ對シ何月幾日支拂ヒノ爲替手形ヲ振出シ乙ニ交付スルニ於テハ東京ヨリ大坂ニ送金スル費用及ヒ大坂ヨリ東京ニ送金スルノ手數並ニ費用ヲ免レ丙者ハ同大坂區内ノ乙者ニ千圓支拂ヘハ一時ニ二個ノ債務ヲ解除スルニ至ルモノナリ第二商業資本ノ融通トハ例ヘハ生糸

又ハ木綿ノ賣物アリ之レヲ買取ルニ於テハ非常ナル利益ヲ得ヘキ場合ニ甲ナル商人之ヲ買取ラントスルモ資本ニ乏シク金額直ニ支拂ヲナスコト能ハサル時ニ於テ六十日間後ニ支拂フヘキ定期拂ノ約束手形ヲ發行シ之ヲ買取ルコトヲ得ヘシ之ノ手形ヲ受取リタルモノ現金ヲ望ムルハ裏書流通シテ直ニ現金ト引替ラルコトヲ得ヘシ故ニ譬ヘ一錢ノ貯金ナキモ信用ヲ有スルニ於テハ幾萬圓ノ現金取引モ手形ノ力ヲ假リ取結ブコトヲ得ルカ如キ至大至便ナル商業機關ナリ

第六百九十九條 手形ハ或ル金額カ支拂ハル可キ旨ヲ明託

シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券タリ

第二項 手形ニハ條件ヲ附スルコトヲ得ス

本條ノ手形ト云フモノ、性質ヲ說明セラレタル條ニシテ手形ニハ或ル一定シタル金額ヲ支拂フヘキ旨ヲ明記セザルベカラザルモノナリ換言スレハ手形ニハ金額ノミ支拂ハル可キモノニシテ物品引換ノ爲メ手形ヲ作ル



總則

四

一ヲ得サルモノナリ若シ物品ヲモ支拂フヘキ手形ノ發行ヲ許スニ於テハ  
 金錢ト異リ物質品位等ニ付キ種々ノ爭論ヲ生シ爲メニ手形ノ信用ヲ害ス  
 ルニ至ルヘキヲ以テナリ又手形ハ現金ヲ代表スルモノナレ元來合意ヨ  
 リ由來スル契約ノ表示則チ證據ニ過キサルモノナレハ其ノ契約ニシテ法  
 ニ合フタル處ノ原因ナキニ於テハ一ノ廢紙タルヘキ筈ナレ此讓受人  
 ヲシテ其原因ヲ調査セシムルニ於テハ手形ノ流通上大ニ防害トナリ且ツ  
 到底爲ス能ハサルモノナレハ法律ハ其手形面ニ原因例ヘハ現金預タル上  
 發行シ又ハ借金ノ爲メ振出スト云フ如キ原因ヲ明示セサルモ當然適當ナ  
 ル原因アリテ發セラレタルモノト推定スルモノナリ蓋シ如此推定ヲ與ヘ  
 ザレハ支拂上不准确トナリ手形ノ信用ヲ害スルヲ以テナリ又タ此ノ理由  
 ヨリシテ手形ニハ或ル未定ナル事實ノ到來シタルトキニ於テ手形面ノ權利  
 ノ發生又ハ消滅スルカ如キ尤モ不確實ナル事項則チ條件ヲ掲載スルヲ許  
 サルモノトス又タ手形ハ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スルヲ得ルモノナリ

指圖式

金	番號	印	番號	支拂人	受取人	日附	期限

右金額何月幾日某殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御  
 支拂可被成候也

年月日  
 何某殿  
 何府縣何郡區何町村何番地  
 .....何ノ.....某印

總則

五



無記名式

金				
番號				
印				
一金				
右金額何月幾日此手形持參人ハ手形引換ニ御支拂可被 成候也				
年月日				
何某殿				
何府縣何郡區何町村何番地				
.....某印				
期 限	日 附	受 取 人	支 拂 人	番 號

右ノ如ク受取人ヲ記名シ其受取人ヨリ指圖セラレタル人ニ支拂フ手形又  
ハ受取人ヲ指示セス單ニ手形ノ持參人へ支拂フヘキ手形其ノ何レノ式ニ  
シテモ發行スルコトヲ得ヘキモノトス

第七百條 商ヲナスコトヲ得ル各人ハ爲替義務ヲ負フコトヲ得

爲替手形ノ發行ハ商業資本ノ融通及運轉スルモノナレハ一ノ商取引タル  
コトハ商法第四條

(參考)第四條商取引トハ賣買貸貸又ハ其他ノ取捌ノ方法ニ因リ產物商品又ハ有價證  
券ノ轉換ヲ以テ利益ヲ得又ハ生計ノ爲ニスル旨趣ニテ直接又ハ間接ニ行フ處ノ總  
テノ權利行爲ヲ云フ殊ニ左ニ掲クルモノハ商取引ニ屬ス

- 第一 產物ノ交換販賣ヲ目的トス取引
- 第二 製造工業及ヒ手職業ニ係ル作業及ヒ取引
- 第三人及ヒ物ノ運送ニ係ル作業及ヒ取引
- 第四 航漕ニ係ル作業及ヒ取引
- 第五 建築ニ係ル作業及ヒ取引
- 第六 銀行營業ニ係ル作業及ヒ取引



第七 流通シ得ヘキ信用證券ノ發行及流通ニ係ル作業及ヒ取引  
 第八 商ノ爲メニ爲メ又ハ受クル倉庫寄託及ヒ其他ノ寄託ニ係ル作業及ヒ取引  
 第九 船舶ノ賣買買入抵當構造修繕積裝及ヒ乗組ニ係ル作業及ヒ取引  
 第十 取引所ノ取引  
 第十一 保險ニ係ル作業及ヒ取引

ノ規定ニヨリ明瞭ナリ如此商取引タル以上ハ其資格モ又タ商ヲナスヘキ  
 モノナラザル可カラズ例ハ後見人ナキ處ノ未丁年者又ハ夫ヨリ明カニ又  
 ハ暗ニ承諾ヲ受ケザル婦人ノ如キ商ヲナスノ資格ナキモノ

(參考)第十一條 男女ヲ問ハス未成年者ニシテ年齡十八才ニ滿チ且父母又ハ後見人  
 ノ承諾ヲ得テ獨立ノ生計ヲ立ツル者ハ商ヲナスコトヲ得右ノ未成年自己ノ爲メ  
 商ヲナサント欲スルトキハ幾項ノ要件ヲ明記シ且自己及ヒ父母又ハ後見人ノ署名  
 捺印シタル陳述書ヲ管轄裁判所ニ差出シ登記ヲ受ク可シ然ルトキハ其登記ノ  
 日ヨリ商事ニ於テ權利及ヒ義務ニ關シ成年者ト全ク同一ナルモノトス  
 (參考)第十二條 婦ハ其夫ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲スコトヲ得此承諾ハ  
 其婦カ夫ニ遺棄セラレ又ハ夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケザルトキハ之ヲ得ルコトヲ  
 要セス婦カ其夫ノ商業ヲ助ケルノヨニテハ之ヲ商人ト看ナス

ナレバ手形ニ關シテモ又タ無能力トナルモノナリ然レモ此ノ無能力ハ爲  
 替義務負擔ニ付テノ無能力ニシテ權利者トナリ請求ヲナスコトハ勿論出來  
 得ルモノトス蓋シ無能力者ヲシテ爲替義務負擔者トスルコトヲ許サ、ルハ  
 爲替義務支拂上確實ヲ欲スルカ故ナリ

第七百一條 手形ニ爲替無能力者ノ署名アルモ其他ノ署名  
 ノ効力ハ此カ爲妨ケラル、コトナシ

本條ハ手形ニ無能力者ノ署名アル時ハ其署名シタル無能力者又ハ義務ヲ免  
 カル、モ其ノ他ノ能力者ハ之カ爲メ其手形ヲ無効トシ義務ヲ免カル、コ  
 能ハサルモノトス例ハ幼者有夫ノ婦又ハ瘋癲人ノ如キ無能力者ガ手形ヲ  
 振出シ支拂人ガ其支拂ヲ引受ケタル片ハ無能力者ノ振出シタル手形ナル  
 ヲ以テ支拂人ノ引受迄モ無効トハセザルナリ如何トナレハ爲替上ノ義務  
 ハ各獨立ノ者ナレハ一人ノ無能力者署名セシトテ他ノ有能者履行ヲナス  
 能ハサル理由アラサレハナリ



第七百二條 手形ノ要件ヲ外觀ノ爲ニノミ記入シタル手形

ハ其情ヲ知リタルモノ、爲ニハ之ヲ手形ト看做サス

元來書面契約ハ吾人カ不完全ナル念慮ノ記憶ニ放任スルコトヲ欲セス故ニ  
契約ノ事項ヲ書面ニ記載シ置キ後日口頭ヲ以テ是非ヲ争フコトヲ禁ス然レ  
モ書面ヲ以テ反對スルコトハ勿論出來得ルモノナリ然ルニ爲替契約ハ法式  
ヲ以テ而已設定スルコトヲ得ルモノニシテ法式ニ於テ欠クル處ナケレハ口頭  
ヲ以テ反證ヲ舉クルコトヲ許サ、ル而已ナラス後日書面ヲ以テモ尙ホ知ラ  
サル人ニ對シテハ舉證スルコトヲ許サ、ルモノトス例ハ普通契約ノ場合ニ金  
百圓ノ借用證書ヲ入レ置クハ其當時實際五十圓ヨリ借用セサリシトノ  
コトヲ口頭ヲ以テ争フコトヲ禁スレモ若シ書面ニテ金百圓ノ貸借契約セシモ  
都合アリテ五十圓ヨリ用立テサリシト明記セシ證據アル時ハ其借用證書  
何人ノ手ニ有ルモ五十圓ヨリ支拂フ義務無キモノトス然ルニ爲替ハ之レ  
ニ反シ手形表面ニ百圓ト記入シアレモ實際五十圓支拂フヘキモノナリト

ノ書面アルモ其手形カ知ラサル人ノ手ニ渡ル時ハ百圓支拂ハサルヘカス  
要スルニ手形ハ法定要件ヲ具フル時ハ其事情ヲ知ラサルモノニ對シテハ  
反證ヲ舉ケ手形ノ効力ヲ争フコトヲ許サ、ルモノトス本條ハ之ノ元則ニ  
基キ手形ノ要件ヲ完フセンカ爲メ死亡シタル人ヲ以テ支拂人ト定メ外觀  
ノ法式ヲ具ヘタルハ其情ヲ知ラサル第三者ニ移轉セシキハ裏書讓渡人  
又ハ振出人ハ勿論爲替上ノ義務ヲ負擔スヘキモノナレモ之等ノ事情ヲ知  
リタル人ノ利益ノ爲メニハ手形ト看做サル旨規定シタルモノナリ

第七百三條 他人ヨリ殊ニ委任ヲ受クルコト無ク又ハ代理ノ

事實ヲ明記スルコト無クシテ他人ノ爲メニ手形ニ署名スル  
者ハ此ニ因リテ自己ニ責任ヲ負フ

元來他人ノ爲メ或ルコトヲ爲スニ於テハ其結果タル權利義務ハ依頼セシ本  
人ニ歸スルモノナリ故ニ契約ノ對手タル第三者ハ初メ本人アルコトヲ知ラ  
ス契約セシモ後日本人ヲ見出シタル時ハ其本人ニ對シ權利ヲ主張シ義務



ヲ負ハシムルヲ得ルモノトス然ルニ爲替ハ方式上嚴格ナルモノナレハ此ノ元則ニ反シ譬へ正當ニ本人ヨリ委任ヲ受ケ署名スルモ代理ノ爲メ署名スルトノコトヲ記載スルニ非ラサレハ其結果タル爲替義務ハ自分ニ於テ負擔スヘキモノトス然レ如何ニ方式ヲ重スルモ全ク關係ナキモノニ義務ヲ負ハシムルヲ能ハス故ニ時々委任ヲ受ケタルヲナキモノニシテ代理ノ爲メ署名スルト記載スルモ他人ハ之レカ爲メ束縛セラレ、ナク代理人ニ於テ其責任ヲ負フモノトス例ハ甲野由兵衛ナル人ヨリ乙野善兵衛ナルモノカ白米買受ノ委任ヲ受ケ丙田傳兵衛ニ引合白米百俵買受クルヲニ契約セリ此ノ際商家ノ慣習トシテ内金何分ニ向ケ手附ヲナスニ當リ乙野ハ甲野ヨリ別段現金ノ預リナキヲ以テ不得止甲野由兵衛代理人乙野善兵衛ノ名義ニテ百圓ノ爲替手形ヲ振出シ手付ニ充テタルコトアリタル片甲野ハ白米買取ハ委託セシモ手形振出ヲ委託セシヲナキヲ以テ代理人ナル乙野善兵衛ニ於テ之ノ手形ノ責任ヲ負フモノトス然シテ又々甲野カ始メ

乙野ニ對シ白米買買ノ調ヒタル節ハ手附トシテ手形振出スヘキヲ委託シ置キタルモ其振出ノ當時甲野ノ代理ナル明記ナキニ於テハ矢張り乙野ニ於テ其手形ノ責任ヲ負フヘキモノトス

第七百四條

手形ノ受取人ハ直チニ振出人ニ對シ又其後ノ

各所持人ハ其前者ヲ經由シテ振出人ニ對シ番號ヲ記シタ

ル同文ノ手形數通ノ交附ヲ求ムルヲ得手形ノ各所持人

ハ需用ニ應シテ自ラ手形ノ贖本ヲ作ルコトヲ得

手形ハ同一ノモノ幾通振出スモ爲替義務者ニ於テハ一通ヲ支拂セハ夫ニテ義務辨濟トナルモノナリ然レ所持人ハ二通又ハ三通ノ必要ヲ來ス間々アリ例へハ海外ニ送ル際途中粉矢及ヒ盜難或ハ難破等ノ危險ヲ慮リ一通ヲ甲ノ船ニ送り他ノ一通ヲ乙ノ船ニ送り以テ万一ノ危難ヲ防クア

リ或ハ又々一通ヲ以テ支拂人ニ對シ支拂ヲ請求スル際他ノ一通ヲ裏書讓渡ヲナス等ノコトアルベシ此際義務者ニ於テ別段責任ヲ重ヌルコトナク處持



人ハ非常ナル利益アルヲ以テ法律ハ受取人又ハ受取人ヨリ裏書讓渡ヲ受ケタル讓受人ニ於テ振出人又ハ其讓渡シタル人ノ手ヲ經テ幾通モ請求スルヲ得ル者ナリ俗ニ此ノ手形ヲ組手形ト云ヒ其式ハ左ノ如ク調成スヘシ

爲替手形

5ノ一號  
一金千圓也

右金額廿六年五月三十日丙野傳兵衛殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御支拂可被成候也

但此手形御支拂ノ上ハ5ノ二5ノ三號ハ無効タルヘキ

年月日

住所

甲所  
甲野由兵衛殿

住所  
乙野善兵衛

尤モ此ノ手形5ノ二號ナル時ハ但書ハ5ノ一號5ノ三號無効云々ト記シ5ノ三號ナル時ハ5ノ一5ノ二號云々ト記載スヘシ

如此同番ノ手形ヲ組手形ト稱スルモノナク此ノ手形ハ幾通ニテモ全文同一ナルヲ要ス且ツ番號ノ落記ナキニ注意スベシ若シ文体ニ異ナル處アルカ又ハ番號ノ記載ヲ落スニ於テハ獨立ノ者ト看做サレ一ノ手形ニ再度ノ支拂ヲナサ、ル可カラサルヲアルヲ以テナリ

又所持人ハ必用ノアリタル片例へハ拒證書作成ノ義務免除セラレタル手形ノ償還請求ヲ爲スニ當リ手形ノ贖本ヲ添ヒ償還請求ヲナス等ノ場合ハ自分ニテ贖本ヲ作ルヲ得ルモノトス

第七百五條

手形ハ其文言ニ因リテ

直接ニ其義務ヲ負ハシ

ム但法律又ハ商習慣ニ依リテ例外ト爲スヘキモノハ此ノ

限りニ非ラス

凡證據ハ事實ノ反影ナリ故ニ事實ナキニ於テハ如何ニ立派ナル影ノ存在スルモ其影タルヤ真正ナル事實ニ對スル影ニアラサルヲ以テ少モ効ナキモノトス故ニ如何ニ立派ナル證據アル其事實ニ反對シ又事實ノ消滅シタ



ル後ノ證據ハ少シモ利益アラサルモノトス例ヘハ千圓借用證書アリトスルモ千圓借リタル事實ナキハ返濟スヘキ義務ナキモノトス又タ千圓借用セシモ既ニ返金セシハ再ヒ支拂ノ義務ナキハ勿論ナリ然ルニ手形ハ之ニ反シ手形面ノ文言ニ依ツテ直チニ義務ヲ負フモノトス例ヘハ受取人ノ依頼ヲ受ケ又ハ支拂人ノ依頼ヲ受ケ千圓ノ手形ヲ振出シ世間ニ見セシ信用ヲ得ル爲メニ供シタル時ハ勿論千圓不渡トナルモ振出人ニ於テ支拂ノ義務ナキモノノ如シト雖モ若シ其情ヲ知ラサル第三者ニ轉スル時ハ本條ノ規定ニヨリ文言ニ於テ其義務ヲ負擔スヘキモノトス是レ通常證據ト異ナリ譬ヘ實ナキ影ニテモ其情ヲ知ラサルモノニ對シテハ故障スルヲ得ス蓋シ如此隠レタル瑕瑾ニモ尙ホ故障スルヲ得ルトスレハ手形ハ最モ危險ナルモノ故何人モ之ヲ受取ルヲ肯セサルニ至リ手形ハ一ノ廢紙タルニ止マル可シ然レモ若シ商ヲナス能力ナキモノ及法律又ハ商習慣ニ於テ之ガ例外トナルヘキ事柄ハ夫レニ隨ヒ有効無効ヲ定ムヘキモノトス例

ヘハ幼者又ハ有夫ノ婦振出シタル手形ノ如ハ文言而已ニヨリテ幼者又ハ有夫ノ婦ニ爲替上ノ責任ヲ負ハンムルヲハ(第七百條)出來サルモノナリ

**第七百六條** 法律上ノ要件ヲ掲ゲサル手形又ハ其要件ト共ニ違法ノ事項ヲ掲ケタル手形又ハ文言カ互ニ抵觸シ其抵觸ヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クコトヲ得サル手形ハ無効タリ

本條ハ手形ニ記載スヘキ必要條件例ヘハ振出ノ月日及ヒ場所爲替金額支拂人ノ氏名受取人ノ氏名満期日并ニ支拂地振出人ノ署名捺印ヲ掲ケサルカ又ハ此等要件ハ記載セラレタルモ違法ノ事柄例ヘハ支拂ニ條件ヲ附記シタルカ如キ又ハ支拂ハ一定ノ金額ニ非ラサルモ物品ニテ支拂フモ宜シキ旨ヲ記載セラレタル手形等ハ無効ナルモノトス又タ手形ノ文言カ互ニ抵觸シタル場合例ハ支拂期日ハ三月十日ニシテ振出期日ハ三月廿日ナルカ又ハ金額支拂フヘキ旨ヲ記載シ置キナカラ物品ニテ引渡スヘキ旨ヲ



記シタルカ如キ場合ニシテ法律ニテ許シタル方法ニヨリ取除ク<sup>トク</sup>ノ出來サル時ハ其手形ハ無効<sup>ムカウ</sup>トナルモノナリ

第七百七條 手形上ノ重要<sup>ヂヤウ</sup>ナラサル附記<sup>フキ</sup>ハ法律上ノ要件ニ適スル手形ノ文言ノ効力ヲ妨クル<sup>フサグ</sup>ヲ無ク又爲替上<sup>カワヒ</sup>ノ義務ヲ生セシムル<sup>ナ</sup>ヲ無シ

本條ハ手形ニ必要條件ヲ具備<sup>クダヒ</sup>シ居ル時ハ重要ナラサル<sup>ナ</sup>ヲ記載スルモ手形ノ文言ノ効力ヲ妨ケル<sup>フサグ</sup>ヲナク又タ其無用ナル<sup>ム</sup>ヲ記載シタルカ爲メ爲替上ノ義務ヲ生スル<sup>ナ</sup>ヲナキモノトス例ハ此手形不渡<sup>フワカシ</sup>ノ<sup>ワカセ</sup>ハ年幾分ノ利子ヲ添ヒ償還スルトカ又ハ利子及費用ニ付キ負擔セストカ姓名ノ外ニ屋號ナトヲ記載シアルモ手形ノ効力ヲ妨ケサルモノトス又若支拂人ニ於テ支拂ハサル<sup>ケ</sup>ニ於テモ振出人ハ何十年經過スルモ償還義務ヲ負擔スルトカ又ハ元金ノ外利子何程及ヒ費用ハ豫算<sup>ヨサン</sup>何程負擔スルト記載スルモ之カ爲メ爲替上ノ義務則チ正當ナル規定<sup>キタイ</sup>ノ外生スヘキ者ニアラス蓋シ爲替上ノ義務ハ法律上確定<sup>クワコク</sup>シ居ルモノナレハ其附記タル無用ノ記載ニヨリ増減<sup>ゾウケン</sup>セラ

ルヘキモノニアラサレハナリ

第七百八條

偽造<sup>キソウ</sup>又ハ變造<sup>ヘンソウ</sup>ノ手形ハ手形トシテ其効ヲ有ス

然レモ偽造變造ニ因リテ義務ヲ生スル<sup>ナ</sup>ヲナシ但シ一旦生

シタル義務ハ變更<sup>ヘンコウ</sup>セサルモノトス

偽造變造ニ就テノ異義<sup>イギ</sup>ハ偽造變造ヲナシタルモノ又ハ其ノ情ヲ知リテ手形ヲ取得<sup>シュツトク</sup>シタル者ニ對シ之ヲ起ス<sup>ナ</sup>ヲ得

本條モ一般ノ法則ニ牴觸<sup>タイシュツ</sup>スル特定<sup>トクテイ</sup>ノ法條ナリ抑モ偽造又ハ變造ノ證券ハ手形ヲ除キ有効トナルヘキモノニ非ス例ハ甲者ノ實印ヲ偽造シ土地賣渡<sup>チウヂウリダク</sup>證書<sup>シヨウシヨ</sup>ヲ作り乙者ニ賣渡乙者其詐欺<sup>サキ</sup>タル<sup>ナ</sup>ヲ知ラスシテ丙者ニ讓渡<sup>ユヅリダク</sup>シ登記<sup>トキ</sup>ヲ受ケタル<sup>ナ</sup>ニ於テモ普通證書ナル故其買賣ノ有効トナル<sup>ナ</sup>ヲナシ又甲者ハ乙者ニ千圓ノ貸金有リ隨テ借用證書ヲ受取り置キタルニ丙者ハ其事實ヲ知リ借用證書ヲ甲者ヨリ竊取<sup>セツシュ</sup>シ更ニ甲者ノ實印ヲ偽造<sup>キソウ</sup>シ千圓ノ借用



證書讓渡證ヲ偽造シ以テ丙者ニ迫リ千圓ノ返金ヲ受ケタリトスルモ普通證書ナル故其千圓ノ支拂ハ甲者ニ對シ無効ニシテ再ヒ甲者ニ支拂フ義務アルモノトス如此普通ノ場合ハ如何ニ巧妙ニ偽造スルモ偽造ハ偽造ニシテ何等ノ効力ヲ生スルコトナシ然ルニ手形ハ之ニ反シ偽造手形變造手形ハ手形トシテ効力アルモノ故一旦引受ラルルカ又ハ裏書讓渡ニナルニ於テハ爲替上ノ義務ヲ負擔スルモノトス例ヘハ甲野由兵衛ノ名義ヲ偽リ乙野善兵衛カ丙田傳兵衛ヲ受取人トシテ丁田長兵衛宛千圓爲替手形ヲ振出シタルニ丁田ハ乙野カ偽造シタル手形タルコトヲ知ラス甲野ハ信用アル商人ニシテ始終取引ヲナス商店故其手形ノ受取人丙田傳兵衛ニ向テ支拂ヲ引受タルハ後日ニ至リ手形ハ偽造ナルコト發見スルモ一旦引受ケタル爲替上ノ義務ハ免ル、コトヲ得サルモノトス然レモ若シ丁田ニ於テ千圓ノ手形支拂ヲ引受ケタルニ後日丙田ハ千圓ヲ二千圓ト變造スルモ其變造ニヨリテ丁田ハ二千圓ノ義務ヲ負フモノニアラス如何ントナレハ前例ハ偽造

ナルモ一旦引受ケタル故其引受ニヨリ義務ヲ負擔セサル可カラサルモノナレモ後例ハ貳千圓ノ手形ヲ引受ケタルコトアラサレハ此ノ關知セサル事柄ニヨリテ支拂義務ノ生スヘキ理由ナケレハナリ又一旦偽造又ハ變造セラレタル手形タルコトヲ知ラスニ引受ケタルモ其偽造セシ人又ハ其情ヲ知リタル人ニ對シテハ故障ヲナスコト出來ルモノナリ蓋シ此場合ノ受取人ハ全ク詐欺者ニシテ不正ノ利得ヲ占ムメントスルモノ故故障ヲナスコトヲ許シタルモノナリ抑々此如キ手形ハ偽造又ハ變造ニテモ一旦爲替義務ノ生シタルハ履行ノ義務アルモノトセシ理由ハ手形ハ商業資本融通ノ爲流通スヘキ様ニ作ラル、モノ故其署名者ノ眞否又ハ記載セラレタル事項ノ眞否ヲ調査スヘキモノトスルニ於テハ懸繁ナル商事ニ適スルモノニアラス隨テ折角流通セシメントスル手形ハ滯滞シ手形ノ効能ヲ顯スコト能ハサルニ至ヘシ故ニ法律ハ方式ヲ嚴定シ其法式サヘ具備スルニ於テハ偽造又ハ變造ノ手形ニテモ手形トシテ効力アルモノト定メタル所以ナリ



第七百九條 爲替義務ハ其負擔ニ關シテハ手形ニ記載シタル地ノ法律ニ從ヒテ若シ其地ヲ記載セサルトキハ債務者ノ住所ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定メ又其履行ニ關シテハ履行ヲ爲ス可キ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定ム  
爲替上ノ權利ヲ行使シ及ヒ保全スル爲メニスル行爲ハ其行爲ノ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス但手形ニ其他ノ地ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

本條ハ手形ノ一國內ニ止マラス他國ニ迄流通シタル時ハ何レノ國ノ法律ニヨリ其効力ヲ判定スヘキヤ豫メ定メ置カサル時ハ爭論ノ生シタルトキ判決ノ標據ナキヲ以テ茲ニ萬國私法ノ元則ニ基キ設ケラレタルモノナリ先ツ手形ニ明ニ其義務負擔ハ日本國又ハ英國ノ法律ニ從フト明記シアル時ハ勿論其國ノ法律ニ從フヘキモノトス若シ如此明記ナキニ於テ債務者ノ住處ノ法律ニ從フヘキモノトス又々其手形義務履行ニ關シテハ履行ヲナ

スヘキ地ノ法律ニ從ヒテ之レヲ定ムヘキモノトス例ヘハ東京ノ甲野由兵衛ナル者ヨリ横濱居住ノ丙田傳兵衛ニ對シ英國倫敦ナル乙野善兵衛カ支拂フベキ五千圓ノ爲替手形ヲ振出シタル時ニ乙野カ其支拂ヲ引受タル後更ニ所持人丙田ハ巴黎ノ丁田長兵衛ニ裏書讓渡ヲナシ丁田ハ支拂ヲ受ケントスル場合ニハ履行地ナル英國法ニ從ヒ倫敦ナル乙野由兵衛ニ呈示スルモノトス而シテ乙野ハ其支拂ヲナササル場合ニハ債權者タル丁田ハ何國ノ法律ニ從ヒ丙田并ニ甲野ニ對シ償還義務ヲ請求シ得ルヤト云フニ此ノ手形ニハ別ニ義務負擔地ノ明記ナキヲ以テ丙田及甲野ノ居住地ナル日本ノ法律ニ從フモノトスル類ナリ

又第二項ノ爲替上ノ權利行使例ヘハ手形ノ裏書讓渡ヲナス同一手形ノ數通ヲ求ムル行爲及ヒ權利保全スル爲メノ行爲例ヘハ拒證書作成スルノ償還請求ヲナス等ハ其行爲ヲナス處ノ法律ニ從フヘキモノトス尤モ手形面ニ別段ノ記載アリタル時ハ其記載セラレタル地ノ法律ニ從フハ勿論ナ



リトス

第七百十條 手形又ハ小切手ノ占有者ニシテ正當ノ方法ニ

依リ且甚ダシキ怠慢ニ出テスシテ其之レヲ取得シタル者

ハ其手形又ハ小切手若クハ其代金ノ引渡ノ請求ニ應スル

義務ナシ但其占有ノ原因消滅シタルハ此限りニ在ラス

本條ハ手形ノ占有者ヲ保護スル爲メ規定セラレタルモノナリ則チ正當ニ

シテ且ツ甚ダシキ怠慢ナクシテ手形ノ占有ヲ得タルモノハ手形ノ代金又

ハ手形ノ引渡ヲ請求セラル、モ之ニ應スル義務ナキモノトス蓋シ本條ハ

即時期滿効ノ原則ヲ適用セラレ占有ハ所有ニ均シキトノ意味ヲ嚴格ニ應

用セラレタルモノナリ

譬へハ甲者カ詐欺ニ陥リ丙者ニ宛テ手形ヲ振出シ乙者ニ渡シタルニ乙者

ハ之レニ裏書ヲナシ丁者ニ讓渡リタル場合ニ於テ譬へ後日其詐欺ナルヲ

證明シ丁者ニ對シ手形取戻ヲ請求スルモ丁者ニ於テ甚ダシキ過失アリ

テ其詐欺タルヲ知ルヘキ位地ニ居リナカラ知ラサルカ又ハ其詐欺ニヨ

リテ得タルモノナルヲ知リタル時ノ外其手形ノ取戻ノ請求ヲ受クルモ

之ニ應スル義務ナキモノトス尤モ其手形ノ占有ヲ得タル原由ノ消滅シタ

ル時ハ別段トス例へハ手形ヲ貸金ノ抵當トシテ受取り置キタルニ貸金ノ

返濟ヲ受ケタル時ハ最早ヤ占有ノ原由消滅シタルヲ故引渡ヲ請求セラレ

タル時ハ之ヲ返戻スヘキ義務アルハ當然ノコトス

第七百十一條 盜取セラレ又ハ紛失シ若シクハ滅失シタル

手形及ヒ小切手ニ付テハ第四百三條ノ規定ヲ適用ス

(參考)第四百三條盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル指圖證券ハ裏書讓渡アリ

タルト否トナ間ハ民事訴訟法ニ從ヒテ權利者之ヲ無効トス人手續ヲナスコトヲ得

本條ハ手形ヲ竊マレ又ハ紛失シタル時或ハ手形ヲ毀シタル時ニ權利ノ所

有主ハ第四百三條ノ規定ノ通り其手形ヲ無効トスルコトハ出來得ルモノナ

リ然シテ之ノ手續ハ是レ迄單ニ新聞紙ニ廣告スルヲ以テ足レリトスレモ



以後ハ民事訴訟法ニ從ヒ左ノ書面ヲ手形履行地アル時ハ其地若シ其履行地記載ナキ時ハ手形發行人ノ住地ノ裁判所ニ差出スモノトス  
手形竊難又ハ紛失若クハ滅失ニ付公示催告之申立

東京市京橋區銀座四丁目一番地

平民米商

申立人 田中由兵衛

明治廿六年二月十日午後十二時頃裏口ヨリ盜賊忍ビ入り兼テ丙田傳兵衛ヨリ裏書讓渡シヲ受ケタル別紙謄シ手形懷中ニ入レ置キ候處懷中ト共ニ竊取サレ候間若シ右手形裏書讓渡ヲ受ケタルモノアル時ハ來ル五月十五日迄(此期日ハ少クモ二ヶ月間ヲ要ス)債權ノ届出ヲナスヘク若シ同日迄届出テサル時ハ失權スヘキ旨公示催告ノ手續ニヨリ公示相成度手形法第七百一十一條ノ規定ニ基キ此段申立候也

右申立人

明治廿六年三月一日

甲野由兵衛

京橋區裁判所

判事某殿

右ノ如キ書面ニ手形ノ謄本ヲ添へ差出シ五月十五日經過スルモ債權者ノ届出テザル時ハ更ニ左ノ書面ヲ差出シ除權判決ノ申立ヲナスヘキモノトス

除權判決申立書

東京市京橋區銀座四丁目一番地

平民米商

甲野由兵衛

右明治廿六年二月十一日公示債告手續ニヨリ東京市京橋區銀座二丁目乙野善兵衛カ振出シタル金壹千圓ノ爲替手形全市日本橋區通四丁目一番地丙田傳兵衛ヨリ裏書讓渡ヲ受ケ所待中盜難ニ罹リ候ニ付右手形ニ



付債權ヲ主張スルモノハ本月十五日迄ノ期間内ニ届出スヘキ旨御催告  
 相成候得共何タル届出無之候ニ付キ除權ノ御判決被成下度民事訴訟法  
 ノ規定ニ基キ此段申立候也

右申立人

明治廿六年五月廿日

甲野由兵衛

京橋區裁判所

判事某殿

右ノ申立ヲナス除權判決ヲ受ケ始メテ無効トスルコトヲ得ルモノトス

第七百十二條 爲替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ  
 對スル爲替上ノ請求權ハ滿期日ヨリ三ヶ年ヲ以テ時効ニ  
 罹リ又所持人若クハ裏書讓渡人ヨリ振出人若クハ前裏書讓  
 渡人ニ對スル償還請求權ハ請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ  
 三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ル

時効ハ訴ヲ起シ其地各箇ノ裁判上ノ手續ヲ爲スニ因リテ  
 中斷セラレ又裁判所ノ判決ニ依リ又ハ書面ニ明示シテ債  
 務ヲ承認シ新債務ト爲シタル因リテ消滅ス

本條ハ手形請求權ノ時効ヲ規定セラレタルモノナリ時効トハ或ル一定ノ  
 期日ヲ經過スレハ法律上確定ノ推測ヲ下シ請求權ヲ消滅セシムルモノナ  
 リ而シテ時効ニハ二種アリ第一免責時効(例ヘハ本條ノ如ク三年間經過ス  
 レハ債務辨濟ノ義務ヲ免ル、モノヲ云フ)第二獲得時効(例ヘハ何人ノ處有  
 タルコトヲ知ラレサル物品ヲ三十年間占有スレハ後日取戻ノ請求ヲ免ル、  
 コトヲ云フ)之レナリ而シテ爲替上ノ權利ニ二様アリ第一支拂請求權(第二償  
 還請求權)支拂請求權トハ處持人カ爲替手形支拂引受人又ハ約束手形ノ振  
 出人ニ對シ手形金ノ支拂ヲ請求スル場合ヲ云フ此ノ請求權ハ手形カ滿期  
 日即チ支拂期日ヨリ滿三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ルモノトス又償還請求權例  
 ヘハ所持人カ爲替手形ノ支拂人又ハ自拂手形ノ振出人ヨリ支拂拒絶セラ



レタルニヨリ自分ヨリ前ナル裏書讓渡人ニ對シ請求スル場合ニハ所持人カ償還請求ヲ受ケ度旨ヲ通知シタルヨリ三年ヲ以テ免責時効トナルモノナリ

元來商事上ノ免責時効ハ第三百四十九條ニ於テ滿期日ヨリ六年ヲ以テ制限ト定メラレタルモ手形ニ就テハ本條特ニ三ヶ年ニ短縮セラレタルハ如何ナル理アルカト云フニ手形ハ現金ノ代表ト看做シ且ツ其經由シタル人々ハ總テ連帶義務ヲ生スルモノ故各自貸借ノ計算ヲナスヘキモノトス例ヘハ其手形カ満足ニ支拂ハレス償還請求ヲ受ケタル時ハ自分ヨリ前ノ讓受人ニ對シ再ヒ償還ヲナサ、ルヲ得サルモノ故澤山ナル貸金ヲナスニ於テ満足ナル辨濟ヲ受クルコト能ハサルニ至ルヘシ故此際可成引締メ貸ヲナサ、ル様注意スルヲ要ス之レガ爲メ自然取引ニ澁滞ヲ來スコトアリ又手形ハ現金同様ノモノナレハ尤モ危險多ク且ツ爲替義務者ハ手形カ支拂濟ニナル迄ハ何時請求ヲ受クルヤモ難斗其迄爲替資金ヲ貯ヘ置キ金融ヲ妨ク

ルノ恐レアリ故ニ如此キ手形ニ關シテハ一般商業ノ債務時効ヨリ短縮シ三ヶ條ト規定セラレタルモノナリ  
尤モ本條第二項ノ手續例ヘハ本國ニ於テ訴ヲ起シ又ハ外國ニ於テ裁判上ノ手續ヲナスニ於テハ其時ヨリ再ヒ期日ヲ起算シ三ヶ年ヲ經テ免責トナルモノトス中斷トハ其手續以前經過セシ期間ヲ斷チ切り繼續ノ利益ヲ失フモノヲ云フ

又タ裁判ヲ受ケタル時或ハ別段ニ明記シタル書面ヲ以テ爲替手形ノ債務ヲ承諾シ新ナル債務トナシタル時ハ時効ノ利益ハ茲ニ消滅スルモノトス  
第七百十三條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ在テハ時効ハ呈示ニ付キ規定アラレタル期間ノ滿了ヨリ始マル但其滿了前ニ呈示ヲ爲シタルトキハ此限リニ在ラス

本條ハ一覽拂又ハ一覽後定期拂手形ノ時効起算ノ日ヲ定メラレタルナリ蓋シ一覽拂ノ手形ハ手形ノ性質トシテ滿期日即チ支拂期日ハ豫メ定メ置カ



サルモノナリ故ニ此ノ手形ハ第七百三十五條ニヨリ振出日付後滿二ケ年ヲ經過シテ始メテ時効ヲ計算スヘキモノトス故ニ爲替手形ノ支拂人又ハ自拂手形(約束手形ヲ云フ)ノ振出人ニ對シテハ振出ノ日ヨリ五ケ年目ニテ免責時効トナルモノトス尤モ二ケ年以内ニ引受ノ爲メ支拂人又ハ振出人ニ呈示シ支拂期日確定シタル時ハ其支拂期日ヨリ計算スルモノトス一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形トハ左ノ如ク記載セラレタルモノヲ云フ

爲替手形

番號

一金何圓也

右金額(御一覽次第)一覽後十日目乙野善兵衛殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御支拂可被成候也

東京日本橋區通四丁目一番地

明治廿六年三月十日

甲野由兵衛

丙田傳兵衛殿

右ノ如ク一覽拂手形トハ御一覽次第云々ト指圖セル手形ヲ云ヒ一覽後定期拂手形トハ御一覽後十日目ニ御支拂云々指圖シタル手形ヲ云フ

第七百十四條

手形ヨリ生スル請求權ヲ時効ニ因リ又ハ法律ニ規定シタル行爲ヲ怠リタルニ因リテ失ヒタル者ハ其

失ヒタルニ拘ハラヌ支拂人振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ

此等ノ者カ支拂ハサル爲替資金若クハ取戻シタル爲替資

金ニ因リテ已レテ利シタル限度ニ於テ右請求權ヲ主張ス

ルコトヲ得第七百十一條ノ場合ニ係ルモノト雖モ亦同シ

本條ハ前二條ノ期日ヲ徒過シ又ハ爲替權利保全ノ行爲ヲ怠リ請求權ヲ失ヒタル時ノ不幸ナル所持人ヲ救助スル規定ナリ抑モ手形ニハ種々嚴格ナル方式アリテ普通人ニ於テハ容易ニ了解シ難ク爲ニ其手續ヲ誤解シ期間



ヲ徒過スル事アルヘキ而已ナラス商業上一般ナル債權ノ時効ト異リ僅カ  
 三ケ年ヲ以テ免責ニ係ルモノ故不幸ナル處持人數多輩出スルニ至ルヘシ  
 加之ナラス元來手形ハ自分ノ金ヲ甲處ニ拂込ミ乙處ニ於テ支拂ヲ受ルモ  
 ノナレハ爲替元金ノ處有權ハ支拂人又ハ振出人ニアラズシテ手形處持人  
 ニアルモノトス然ルニ如此嚴格ナル方式ヲ怠リ又ハ最モ短期ナル期間内  
 ニ請求セサルカ爲メ其處有權ヲ消滅セシメ他ニ救済スルノ途ヲ設ケサル  
 時ハ偏重ナル規定ニシテ不幸ナル處持人層出スルニ至ルヘシ故ニ本條ニ  
 於テ如此時効ヲ失ヒタルモノ及ヒ懈怠シタル者ニテモ支拂人又ハ振出人  
 若クハ裏書讓渡人ニ於テ手形ノ支拂ハレサルヨリ利益ヲ得タル丈請求ス  
 ルヲ得ルモノトス故ニ其利子費用等ハ勿論若シ既圓ノ手形ナルモ其實  
 伍陌圓ヨリ利益ヲ受ケサル時ハ伍陌圓丈ケヨリ請求スルヲ能ハザルモノ  
 トス此ノ條ハ第七百十一條ノ場合則チ手形ノ粉失盜難又ハ滅失シタル場  
 合ニモ適用セラルルモノトス

第七百十五條

總テ手形ニ署名ヲ爲シタル者ハ此ニ因リ連

帶シテ義務ヲ負擔ス然レトモ此連帶義務ハ各義務者ニ於  
 テ特立ノモノトス

爲替ノ訴ハ其總員ニ對シ又ハ其一人ニ對シテ之ヲ起スコ  
 トヲ得

本條ハ形手署名者ノ責任ヲ定メルモノニシテ振出人裏書讓渡人保證人ノ  
 如キ引受人ハ手形所持人ニ對シテ連帶ノ義務ヲ負フモノトス連帶義務ト  
 ハ手形面ニ記載セラレタル金額ニ對シ署名者ハ各自ニ分割シテ義務ヲ負  
 擔セス全部ヲ一人ニテモ支拂フ義務アルモノヲ云フ營ヘハ三百圓三人ニ  
 テ借用スル時ハ連帶義務ニアラサルヲ以テ一人百圓宛支拂ヘハ其義務免  
 レ若シ他ノ一人カ支拂ヲナサル時モ之レカ爲メニ自分ノ負擔カ重クナ  
 ルモノニアラス然ルニ若シ三百圓三人連帶義務ナル時ハ自分丈ノ分則チ  
 百圓支拂フモ其借用ノ義務ヲ免ル、モノニアラスシテ若シ他人カ辨償セ



ナル時ハ自分ニ於テ三百圓支拂ハサレハ義務ヲ免カル、コト能ハサルモ  
 ノヲ云フ手形ハ此後例ニヨル義務則チ連帶義務ヲ負フモノ故譬へ幾人ノ  
 裏書人アルモ全部支拂フヘキ義務ヲ負擔スルモノトス而シテ連帶義務ニ  
 モ完全ノ連帶不完全ノ連帶ノ二種アリ完全ノ連帶ハ債務者ハ各自代理權  
 ヲ有スルモノト法律上ノ推測アル連帶ヲ云フ例へハ連帶者ノ一人ニ對シ  
 訴訟ヲ起セハ残りノ連帶者ニ對シテモ時効ヲ中斷シ又ハ一人ニ對シ利子  
 請求ノ訴訟相立時ハ他ノ連帶者モ其時ヨリ利子支拂ヒノ義務アル如キモ  
 ノヲ云フ如此完全ナル連帶ハ債務者カ相互ニ代理權ヲ有スルモノト認ム  
 レハ不完全ノ連帶ハ各自獨立シテ代理權ナキモノ故連帶者總体ニ對シ  
 出訴スルニアラサレハ連帶者一同ノ時効ヲ中斷スル能ハス又ハ利子請求  
 モ同シキモノナリ則チ爲替署名者ノ連帶義務ハ其後例ニヨル不完全則チ  
 獨立ノ義務テアルト云フナリ然シ其完全ナルト不全ナルトヲ問ハス  
 一人ニシテ全部爲替面ノ義務ヲ負擔スル事ニ於テハ差異ナキ故一人ニ對

シ全額請求ノ訴ヲ起スモ總体ニ對シ訴ヲ起スモ債權ナル所持人ノ選擇ニ  
 任シタルモノナリ

第一節 爲替手形

第一款 振出

全体手形ニハ二種アリ爲替手形約束手形之ナリ爲替手形ハ三人ノ關係者  
 アルヲ要ス則チ振出人支拂人及ヒ受取人之ナリ約束手形ハ一名自拂手形  
 トモ云フ振出人ト支拂人ト兼体ノ手形ナリ然レハ適用スヘキ原則ニ至リ  
 テハ爲替手形約束手形ト殆ト同一ニシテ差異ナキモノナリ手形ハ振出ニ  
 ヲリテ發生シ支拂ヲ受ケ後活用ヲ止ムルモノナリ而シテ其發生ヨリ活用ヲ  
 止ムル間ニ於テ商業上幾多ノ利益ヲ與フルヤ實ニ枚舉スルニ遑アラズ若  
 シモ適當ニ使用シ得ル時ハ殆ト資本ナキノ商業家ニシテ尙ホ手形ノ力ヲ  
 假リ何百万圓ノ現金賣買ヲモナシ得ヘキ宏大ナル利便ヲ享ルヲ得ルモ



ノナリ如此手形ハ商業資本融通ノ機關トシテ無量ノ利益ヲ與フルモノナ  
レハ嚴格ナル法律ノ保證ナキニ於テハ之ノ利益ハ却テ姦者ノ巧器トナリ  
害毒ヲ社會ニ流カシ良者ハ其危險ヲ慮リ取引ヲナスニ至ラサルヘシ故ニ  
法律ハ手形ノ信用ヲ保護センカ爲メ可成的嚴格ナル方式ヲ定メ其方式ニ  
合フタルモノハ有効トス法式ヲ欠キタルハ無効トスルモノ故尤モ注意  
ヲ要スヘキモノナリ則チ本款第七百十六條ヨリ第七百二十一ニ至ル各條  
ニ於テハ振出ニ關スル法則ヲ定メラレタルモノナリ

### 第七百十六條 爲替手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルヲ要ス

- 第一 振出ノ年月日及場所
- 第二 爲替金額但文辭ヲ以ス可シ
- 第三 支拂人ノ氏名
- 第四 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨及滿期日并ニ支拂地

### 第五 振出人ノ署捺印

本條ハ爲替手形ヲ作成スル必要條件トシテ記載スヘキ事柄ヲ第一項ヨリ  
第五項迄分ケテ規定セラレタル條ナリ

第一項爲替手形振出ノ年月日及其振出ノ場所ヲ記載スヘキモノトス振出  
ノ年月日ハ時効ヲ起算スル爲メ必要ノモノナリ又振出ノ場所ハ他所拂手  
形ナルヤ否ヲ調査スルニ必要アルヲ以テ如此記載スヘキヲ定メタルモ  
ノナリ

第二項爲替ニハ爲替金額ヲ記載スヘキモノトス然シテ其記載スル字体ハ  
數字ニアラスシテ文字ヲ以テスヘモノトス例ハ一二三ト數數ヲ以テセス  
壹貳參ノ文字ヲ以テ記入スヘキモノトス如何トナレハ一二三ノ數字ハ誤  
記シ易キ而已ナラス詐欺者ノ爲メ加筆セラル、恐レアリテ手形ノ信用ヲ  
害スルカ故斯ク定メラレタルモノナリ

第三支拂人ノ氏名爲替手形振出人ニヨリ振出サレ支拂人カ支拂フモノナ



レハ若シ支拂人ノ氏名ナキ時ハ何人ノ支拂ヲスルヤ不明ニシテ支拂確實  
ヲ專一トスル手形法ノ原則ニ背キ勿論無効ノ手形トナルヘキヲ以テ斯ク  
明カニ記入スヘキモノトス

第四受取人ノ氏名又ハ振出人ヨリ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂  
フヘキ旨并ニ支拂期日支拂地等ヲ記入スヘキモノトス蓋シ本項手形ノ作  
成ヲ明瞭ニシ受取人ヲ確實ニシ及ヒ支拂期日及ヒ支拂ノ場處ヲ明ニシ可  
成後日ノ爭論ヲ防キ傍ラ手形ノ信用ヲ維持スルカ爲メ記入スヘキモノト  
ス

第五振出人ノ署名捺印振出人ニ於テ相違ナク振出シタルヲ保證スル爲  
メ署名捺印ス可キモノトス

右一項ヨリ五項ニ至ル條件ヲ具備セシメ左圖ノ如ク手形ヲ作成スヘシ  
爲替手形

甲第號

印紙

一金伍阡圓也

右金額明治二十六年三月三十一日甲野由兵衛殿又ハ同人指圖人へ此ノ  
手形引換ニ御支拂可被成候也

東京市京橋區銀座四丁目一番地

明治廿六年三月十日

乙野善兵衛

丙田傳兵衛殿

右ノ如ク作成セラル、爲替手形ニ數種アリ指圖式ノ手形無記名式ノ手形  
(第三四ページ參考スヘシ)

定期拂手形(前記書式ノ如キ三月三十一日ト支拂期日ヲ豫定シタル手形)一  
覽拂手形一覽後定期拂手形(第七百十三條參考)如此種類アルニヨリ讓渡ノ  
手續及所持人ノ權利保全ニ關シ盡スヘキ手續ニ差異アレハ各本條ニ就キ  
詳細説明スヘシ



第七百十七條 振出人ハ爲替手形ヲ自己ノ指圖ニテ振出レ  
又ハ自己ニ宛テ振出スコトヲ得

爲替手形ハ約束手形ト異ナリ振出人支拂人及ヒ受取人ノ關係アリテ發行  
セラル、モノナリ然レモ此ノ三名ハ必シモ別人タルコトヲ要セス例ハ東京  
ノ甲野由兵衛大阪ノ乙野善兵衛ニ對シ貸金壹萬圓アル時ハ甲野ハ手形ノ  
振出人トナリ受取人ハ自分又ハ自分ノ指圖人ニ支拂フヘキ手形ヲ乙野ニ  
向ケ發行スルコトヲ得ルモノトス

又甲野由兵衛ハ乙野善兵衛ニ對シ支拂フヘキ金員アル時ニ甲野ハ大坂ナ  
ル自分支店ニ對シ乙野殿又ハ其指圖人ニ支拂フヘキ旨ヲ大坂ノ甲野則チ  
自分ニ宛テ振出スコトヲ得ルモノナリ然レモ必シモ振出人支拂人受取人ノ  
記名アルヲ要ス否ラサレモ爲替手形ニアラスシテ約束手形トナレハナリ  
第七百十八條 爲替手形ノ金額貳拾五圓以上ナルキハ無記  
名式ニテ振出スコトヲ得

本條ハ第六百九十九條ニ於テ式ヲ示シタル無記名式手形ハ金高貳拾伍圓  
以上ナル時ニ於テ振出スコトヲ得ルト云フ事ナリ抑モ無記名式手形ハ裏書  
ヲ要セス手渡ヲ以テ讓渡ヲ得ル事ナレハ僅少ノ金額ニテハ深く注意セス  
信用アル人ノ振出ニ係レハ輕卒ニ受授ヲナスコトアルベシ例ヘハ三井銀行  
ノ振出ニシテ金高四圓ノ無記名手形ナルキハ三井銀行ヲ信用スルノ餘リ  
所持人ノ信用如何ニ關セズ讓受クルコトアリ然シテ期日ニ至リ支拂ヲ請求  
スルニ三井銀行ニ於テ曾テ振出シタルコトナキ手形則チ偽造手形ナルヲ以  
テ支拂ヲ謝絶セリ然ルニ商業社會ハ種々ノ關係アルモノ故一度三井銀行  
ノ振出手形ニシテ偽造ノ者アルト流布セラル、ニ於テハ同銀行ノ振出手  
形ノ信用地ニ墮チ譬ヘ真正ナル再手形ヲ振出スモ流通スルコトナキニ至ル  
ヘシ故ニ豫メ貳拾伍圓以上ノ大金ヲ無記名式ニテ振出コトヲ禁シタルモ  
ノナリ

第七百十九條 滿期日ハ定マリタル日又ハ日附ノ後定マリ



タル期間又ハ一覽ノ時又ハ一覽后定マリタル期間ニ於テ  
ノミ之ヲ定ムルヲ得

本條モ爲替手形ノ信用ヲ維持スル爲メ支拂期日ヲ確實ニシタル規定ナリ  
抑モ手形ノ支拂日ハ何月幾日定リタル日又ハ振出ヨリ幾週間目日附ノ後  
定マリタル期日又ハ手形ヲ支拂フ爲メ呈示セラレタル時一覽拂ノ時又ハ  
其呈示セラレタルヨリ幾週間目且一覽後定リタル期內ニ支拂フト云フカ  
如ク確實ナル日ニ定メ不慥ナル日ニ支拂フト約束ヲ結ブヲ得サルモノ  
トス例ヘハ自分ニ於テ結婚シタル時ヨリ幾日目又ハ自分ノ父ノ死亡シタ  
ルヨリ幾周日目ニ支拂フト云カ如キ結婚及死亡ノ不慥ナル事項ヨリ起算  
シテ支拂日ヲ定ムルカ如キハ出來サルモノナリ

第七百二十條 爲替手形ニ滿期日ヲ記載セサルトキハ其手  
形ハ一覽ノ時ニ滿期ト爲ル  
手形面ニハ前條ニ規定セラレタルカ如ク不確ナル日ヲ記載スルヲ能ハス

キモノハ督促ヲ受ケタル時ヲ以テ返済日トスルモノアレハ手形ニ支拂期  
日ヲ記載セサレハ双方共此一般原則ニ基キタル支拂日ニ合意アリタリト  
スルハ至當ノ事ナレハナリ

第七百一十一條 支拂人ノ住地又ハ其他ノ地(他所)拂爲替手  
形ハ支拂地トシテ之ヲ記載スルヲ得他ノ地ヲ記載シタ  
ル場合ニ在テハ其記載シタル地ニ於テ支拂ヲ爲スヲ要  
ス

本條ハ手形ニ支拂地ヲ記定シ置クハ出來ルナリ則チ支拂人甲野由兵衛  
殿住地ニ於テ御支拂又ハ甲野由兵衛殿大阪支店ニ於テ御支拂云々ト支拂  
地ヲ定ムルハ出來ルモノナリ而シテ如此定メタル時ハ支拂人一己ノ意  
見ヲ以テ爲替義務ヲ變更スルヲ能ハザルヲ以テ甲野由兵衛ハ營東京ニ住  
スルモ必ス大坂ノ支店ニ於テ支拂フヘキ義務アルモノトス



第二款 裏書

本款ハ手形裏書ノ法式ヲ定メラレタルモノナリ然シテ手形ト普通證書トノ差異ハ手形ノ義務者ノ承諾又ハ告知スルノ手續ナリ所持人ヨリ所有權ヲ直チニ第三者ニ轉付スルコトヲ通常證書ハ義務者ニ告知シ承諾ヲ受クルニアラサレハ權義トモ移轉スルコトナシ以下各條ハ此ノ特性タル轉付ノ法式則チ裏書ノ原則ヲ指示シタルモノナリ

第七百二十二條 爲替手形ノ受取人及ヒ其後ノ各所持人ハ

若シ其手形ニ反對ヲ明記セサルキハ裏書ヲ以テ之ヲ他人

ニ轉付スルコトヲ得

爲替手形ノ受取人又ハ其受取人ヨリ裏書讓渡ヲ受ケタル處持人ハ別段手形面ニ第三者ニ流通スルコトヲ禁スルト記載ナキ以上ハ裏書ヲ以テ他人ニ轉付スルコトヲ得ルモノナリトス

第七百二十三條 裏書ニハ其年月日場所裏書讓渡人ノ署名

捺印及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルコトヲ要ス然レトモ裏書讓

渡人ノ署名捺印ノミナ以テモ亦裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

本條ハ手形ヲ裏書流通スルモ記載スヘキ事項ヲ定メラレタルモノニシテ左ノ如ク記載スヘシ(以下別紙)

表面ノ金額甲野由兵衛又ハ同人指圖人ニ即支拂可被成候也

東京市日本橋區通四丁目一番地

明治廿六年三月十日

乙野善兵衛 印

此記載セラレタル手形ヲ甲野ニ於テ再ヒ代人ニ讓渡ス時ハ又タ前同様裏書スヘキモノトス然レモ若シ單ニ

東京市日本橋區四丁目一番地

乙野善兵衛 印

氏名捺印而已ヲ以テ讓渡シ受ケタル手形ハ甲野ハ裏書ヲ要セス共ニ他人ニ讓渡コトヲ得ルモノトス何トナレハ讓受人ヲ指名セサル裏書ハ無記



名式手形ト同シク手渡ヲ以テ處有權移轉スルモノナレハナリ

第七百二十四條 裏書ニハ其日ヨリ前ノ日附ヲ爲スヲ禁

ズ之ニ違フトキハ偽造變造ノ刑ニ處ス

本條ハ裏書ノ日附ニシテ實際讓渡以前ノ日附ヲナスヲ嚴禁シ若シ之ニ違フモノアレハ偽造變造ノ刑ニヨリ處分スヘキモノトセラレタリ蓋シ法律ハ裏書ノ月日ニ重キヲ置キタル一端ヲ見ルニ足ルヘシ何故ニ如此裏書ヲ月日ヲ以テ重要ナルモノトスルカト云フニ手形ハ法律上正當ノ原因アリテ且ツ少シモ瑕瑾ナキモノト推定スルモノナレモ若シ裏書ニシテ既ニ支拂ノ期日後ニ轉付セシトキハ讓受人ハ讓渡人ノ權利ヨリ受ルコト能ハサル故完全ナル權利ト云フヲ能ハサルナリ又タ手形ハ他ノ債權讓渡ト異ナリ債務者ニ相談ナリ自分一己ノ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得ルニヨリ所持人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル時ニ債主ヲ欺キ破産以前ノ月日ヲ以テ讓渡等ノ姦計ヲ防クカ爲メ嚴刑ヲ定メタルモノナリ

ズ之ニ違フトキハ偽造變造ノ刑ニ處ス

本條ハ裏書ノ日附ニシテ實際讓渡以前ノ日附ヲナスヲ嚴禁シ若シ之ニ違フモノアレハ偽造變造ノ刑ニヨリ處分スヘキモノトセラレタリ蓋シ法律ハ裏書ノ月日ニ重キヲ置キタル一端ヲ見ルニ足ルヘシ何故ニ如此裏書ノ月日ヲ以テ重要ナルモノトスルカト云フニ手形ハ法律上正當ノ原因アリテ且ツ少シモ瑕瑾ナキモノト推定スルモノナレモ若シ裏書ニシテ既ニ支拂ノ期日後ニ轉付セシトキハ讓受人ハ讓渡人ノ權利ヨリ受ルコト能ハサル故完全ナル權利ト云フヲ能ハサルナリ又タ手形ハ他ノ債權讓渡ト異ナリ債務者ニ相談ナク自分一己ノ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得ルニヨリ所持人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル時ニ債主ヲ欺キ破産以前ノ月日ヲ以テ讓渡等ノ姦計ヲ防クカ爲メ嚴刑ヲ定メタルモノナリ

第七百二十五條 無記名式ニテ振出シ又ハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ交附ノ



ミテ以テ之ヲ轉スルヲ得  
 爲替手形ノ流通ハ裏書ニヨリテ轉輸スルモノナリ則チ手形ノ所持人第三  
 者ニ轉付セント欲セハ第七百二十二條ノ規定ニ從ヒ裏書ヲナスニアラサ  
 レハ第三者ニ所有權ノ移轉スルヲナシ然レトモ若シ爲替手形ノ方式指圖  
 式ニアラスシテ無記名式(俗ニ持券人)ナルカ又ハ指圖式ナルモ單ニ讓渡人  
 ノ署名捺印而已ヲ以テ裏書讓渡ヲ受ケタル手形ナル時ハ其手形ハ別段ノ  
 法式ヲ要セス手渡而已ニシテ所有權ヲ轉付スルコトヲ得ルモノトス

第七百二十六條 爲替手形ハ滿期後ト雖モ裏書讓渡ヲ爲ス

コトヲ得又代理若クハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得  
 本條ハ普通手形ノ場合ニアラサル特種ノ場合ニモ尙ホ裏書讓渡ヲナシ得  
 ルコトヲ定メ第一支拂期日後ノ手形ト雖モ裏書讓渡ヲナシ第二他人ノ爲メ  
 代理トシテ裏書讓渡ヲナスコトヲ許シ第三或ル債務ノ爲メ擔保トシテ裏書  
 讓渡ヲ許シタルモノナリ

第七百二十七條 支拂ノ爲ニスル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ

事情ニヨリテ正當期內ニ爲スコトヲ得サル爲替手形ノ裏  
 書讓渡ハ滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ニ同シ  
 手形ハ尤モ有益至便ナル商業機關ニシテ正當ニ之ヲ發行使用セハ如何ニ  
 不便ノ地ニ住スル商家又ハ薄資ナル商家モ盛大ナル商業ヲナシ得ルモノ  
 ナリ如此至便有益ナルモノ故法律ハ宜シク手形ノ擴張ヲ勸誘スル様規定  
 スヘキモノトス然シテ手形ハ全ク商家ノ信用ニヨリテ流通スルモノナレ  
 ハ信用ヲ維持スルカ爲メ嚴格ナル規定ヲ要ス本條ハ則チ此ノ理由ニヨリ  
 警ヘ事情アリテ支拂呈示又ハ拒證書ノ作成カ正當時期內ニ爲スコトヲ得サ  
 ル手形ノ裏書讓渡モ假借スルコトヲナク滿期後ノ手形ノ裏書讓渡ト同様前所  
 持者ノ權利義務丈ヨリ讓渡スコトヲ得サルモノトセリ是レ信用ヲ維持シ詐  
 害ニ陥ルヲ避ケンカ爲メノ規定ナリ

第七百二十八條 滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ハ其裏書讓



渡人ノ權利及ヒ義務ノミチ裏書讓受人ニ轉付スルモノトス然レモ裏書讓受人ハ滿期後ニ替爲手形ノ讓渡ヲ爲シタル各人ニ對シテ如何ナル方式ニモ羈束セラレヌ且ツ獨立シタル償還請求權ヲ取得ス

本條ハ手形普通ノ例外ニシテ滿期後ノ裏書讓受人ニハ其裏書讓渡人カ有シタル權利義務丈ヲ移轉スルモノトノ規定ナリ凡ソ手形法ヲ除キ他ノ法律ニ於テ債權移轉スルニハ本條ノ如ク前權利者ノ權利ヲ繼承スルニ止マリ如何ナル場合ニテモ前權利者ヨリ優等ノ權利ヲ受クルコトナシトス譬ヘハ百圓ノ貸金證書ヲ有スル權利者第三者ニ金百圓ノ證書ヲ讓渡シタル場合ニ義務者タル借主ニ對シ百圓ノ請求ヲナシ得ルハ勿論ナレモ若シ前權利者ニ於テ借主ナル義務者ヨリ内金五十圓受取リタル時ハ假令第三者ニ百圓證書移轉スルモ義務者ニ於テ百圓支拂フカ如キ不幸ヲ來タスコトナシ然ルニ手形ノ場合ハ之ニ反シ譬ヘ支拂人カ前裏書讓渡人ニ對シ内金五十

圓支拂ヲシタルモ正當ノ法式ヲ履行シ支拂期日內ニ第三者ニ移轉シタル片ハ其内金ノ支拂ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス必ス手形面金額ノ支拂ヲナサ、ル可カラス然レモ若シ支拂滿期後ニ移轉シタル時ハ之ニ特別保護ヲ與ヘス一般法律ノ原則ニ遡リ前權利者ノ權利及ヒ義務ヨリ取得スルコトナキ旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ商業家ハ今日支拂人ニ對シ百万圓以上貸方トナルモ明日却テ借方トナリ又タ今日迄親密ナル取引ヲナスモ俄然翌日ニ至リ取引謝絶スルカ如キ總テ商業上ノ驅引ハ疾風モ唯タナラサルモノナレハ既ニ支拂期日ヲ經過シ振出人支拂人間計算結了シタル後迄モ完全ナル爲替上ノ權利ヲ與フルニ於テハ爲メニ不測ノ損害ヲ受クルモノアルニ至ルヘキヲ以テナリ

然レモ譬ヘ支拂滿期后ノ手形讓受人ナルモ自分ヨリ以前ニ滿期后ニ裏書シタル讓渡人ニ對シテハ如何ナル方法ニモ束縛セラル、コトナク獨立シテ其金員ノ償還ヲ請求スル權利アルコト勿論ナリ



第七百二十九條 代理ノ爲メ又ハ擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ハ其ノ目的ヲ爲替手形ニ記載セサルトキハ第三者ニ對シテ眞ノ裏書讓渡タリ

本條ハ第七百二十六條ニ胚胎セシモノニシテ譬ヘ眞正ニ他人ニ移轉セシムル意志ナキモ若シ手形面ニ代理又ハ擔保ノ爲メニスル事柄ヲ明記セサレハ第三者ニ對シテハ眞正裏書讓渡人ト推測セラル、モノナリ蓋シ手形ノ性質上正當ナル推定ナリ

第七百三十條 代理ノ爲ニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏書讓受人ハ裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ヲ行フ但シ特別ノ記載アルニアラサレハ眞ノ裏書讓渡ヲ爲スヲ得ス

本條ハ廿六年法律第六號ヲ以テ改正セラレタルモノニシテ改正前ハ若シ手形ニシテ代理ノ爲メ裏書讓渡ヲナシタル時ニ於テモ特別ノ明記ナキ以上ハ眞ノ裏書讓渡ヲナスノ權ヲ與ヘタリ然ルニ此ノ法律ニ依リ全ク正反對ノ規定ヲナシ特別ニ明記ナキ以上ハ眞ノ裏書讓渡ヲナスヲ得サル旨ヲ定メラレタリ之ノ改正ハ至當ノ事ニシテ改正以前ニ比シ頗ル當ヲ得タルモノトセサルヲ得ス如何トナレハ代理ノ爲メニスル裏書讓渡ハ本人ニ代リ支拂呈示ヲナシ又ハ拒證書ヲ作爲シ以テ償還請求權ヲ保全スル等ノ場合ニスルモノナリ要スルニ代理ノ爲ニスル裏書讓渡ハ單ニ處分權ノ執行ヲ委任セラレタルニ止マリ所有權ヲ移サレタルニ非ラサレハ他人ニ對シ裏書讓渡ヲナシ所有權ヲ移轉シ得ヘキ筈ナケレハナリ故ニ若シ代理者ニ眞ノ裏書讓渡ヲナスノ必要アル時ハ其ノ事柄ヲ特記スヘキモノトス例ヘハ商業者代理人ヲシテ商品仕入ノ爲メ遠隔シタル地ニ出張セシメ物品買入ヲ爲スニ當リ手付又ハ代金ノ支拂ヲ爲スノ必要アル場合ニ現金持參ノ不便并ニ危險ニ代ヘ爲替手形ヲ以テ支拂ヲナシムル等ノ時ハ其事柄ヲ記シ眞ノ裏書讓渡ヲナスノ權ヲ附與スルコト得ルモノ通常代理ノ爲ナ



ル明記アリ而シテ所有者ト同一ナル裏書讓渡ヲナスコトヲ得ト記載ナキニ於テハ本條正文ノ通推測ハ適當ナルモノトス

第七百三十一條

擔保ノ爲ニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルキハ其裏書讓受人ハ裏書讓渡人ト同一ノ權利義務ヲ行フ但シ債權ノ辨濟ヲ受ケサル場合ノ外眞ノ裏書讓渡ヲナスコトヲ得ス

本條モ前條ト同ク明治廿六年法律第九號ヲ以テ改正セラレ擔保ノ爲ニスル裏書讓渡ハ其目的ヲ明記シタルキハ本債務ノ辨濟ナキハ外完全ナル爲替上ノ權利ヲ與ヘサルモノトス蓋シ改正以前ノ如キ擔保ノ爲メニスル爲替手形ニテモ眞ノ裏書讓渡ヲナシ得ヘキモノトスレハ擔保ノ爲メニスルト又ハ通常ノ場合ニスルト少シモ異ナル處ナク全ク無効ノ記載タルニ過キサレハナリ本條并ニ前條ニ規定セラレタル代理又ハ擔保ノ爲ニスル裏書讓渡ハ處分權ヲ執行スルニ止マリ期限内債務辨濟ノ保證物件トシテ

差入ル、ニ止リ眞ノ處有權ヲ移シタルモノニアラサルハ單ニ占有シ居ルニ止マルモノナリ然レモ占有ノミニシテ如何ナル場合ニニテモ眞ノ裏書讓渡ヲナスコト能ハサルモノトスレハ期限經過シ負債辨濟ヲ受ケサルモ如何トモスル能ハサルヲ以テ如此場合ニハ眞ノ裏書讓渡ヲナスコトヲ許スモノトス

第七百三十二條

裏書讓渡ハ各裏書讓渡人ノ順序カ裏書讓受人ニ至ルマテ間斷ナキニ限リ裏書讓受人ノ爲メ効力アリ但代理又ハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲナシタル爲替手形ハ裏書讓渡人ニ於テ更ニ裏書讓渡ヲナスコトヲ得

手形ノ裏書讓請人ハ各關係者ニ對シテハ連帶ノ權利ヲ有シ而シテ此ノ權利ハ手形ヲ以テ正當ニ移轉獲得シタル時ニ有スルモノナレハ其ノ流通ノ順序ヲ詳ニセサル可ラス蓋シ手形所持人ニ對シ法律ハ手形ノ原因ヲ正當ナリト推測ス且ツ其代金引渡ノ請求ヲ受クルコトナキ保證ヲ與ヘ(第七百十



條特別保護ヲ與フルハ外見上正當ニ轉讓シ讓受人讓渡人トノ順序ニ間斷ナキ時ト限ルモノトス何トナレハ手形ハ融通上ノ必要ヨリ善意ナル所持人ニ對シ正當ナル理由及ヒ手形ニ瑕疵ナキノ確定推測ヲ與ヘ特別ニ保護スルモノナレモ若シ其占有者ニシテ善意ナルニアラサレハ全ク此等特例ノ保護ヲ與フルノ必要ナキナリ然シテ善意ナルヤ否ハ全ク無形ノ事實ニシテ人ノ思想ニ立入ルモノナレハ容易ニ判知シ得ベキ事柄ニアラサル故若シ法律ハ豫メ善意ナルヤ否ノ標準ヲ表示スルニアラサレハ常ニ爭論ノ絶間ナカルヘシ故ニ判決スヘキ標準ヲ掲ケ以テ此等ノ弊害ヲ防キタリ譬へハ滿期日後ノ手形讓渡ヲ受ケタルモノ(第七百二十八條)正規ノ期間ニ呈示又ハ拒證書作成セサル手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタルモノ(第七百二十七條)偽造變造タルヲ知リテ讓受ケタルモノ(第七百八條)及ヒ本條ノ如キ場合等ハ假令其善意ニテ讓受タルモ善意ト看做サス蓋シ裏書間斷アル手形所持人ハ一見正當ノ流通ニアラサルヲ知ルヘキ筈ナルニ自分ノ不注意ヨリ

斯ル不完全ノ手形ヲ受ケタルモノナレハ其損失モ亦當然負擔スヘキモノトス若シ否ラス善意ノ處持人ト同シク裏書讓渡人全体ニ對シ賞還ヲ受クルノ權利アリトスレハ其間斷セシ讓渡人ガ紛失又ハ盜難ニ罹リ手形ヲ失ヒタル善意ノ處持人タリシ人ニ對シテモ猶ホ償還請求ヲナシ得ルカ如キ不都合アル可シ例へハ

表面

爲替手形

甲第一號

一金萬壹圓也

右ノ金額明治廿六年三月三十一日甲野由兵衛又ハ同人指圖人  
へ御支拂可被成候也

東京市日本橋區通一丁目一番地

明治二十六年一月一日

乙野善兵衛

丙田傳兵衛殿



裏面

表面ノ金額丁田長兵衛殿又ハ同人指圖人ニ御支拂可被成候也

京橋區銀座四丁目一番地

明治廿六年一月三日

甲野由兵衛

表面ノ金額成塚治兵衛殿又ハ同人指圖人ニ御支拂可被成候也

日本橋區通三丁目二番

明治廿六年一月十五日

丁田長兵衛

如此流通シ成塚カ處持中盜難ニ罹リタルニ盜賊天野盜太郎ナルモノ再ヒ左記ノ如ク流通セシメタリ

表面ノ金額地田惡兵衛殿又ハ同人指圖人ニ御支拂可被成候也

淺草區三好町十五番地

明治二十六年三月一日

天野盜太郎

表面金額上原三太郎殿又ハ同人指圖人ニ御支拂可被成候也

淺草區田原島町廿五番地

地田惡兵衛

最終ノ所持人上原三太郎ハ窃盜物タルコトヲ知ラス且ツ相當ノ代價ヲ拂ヒ手形ヲ讓受ケタルモノトスルモ此ノ手形ニハ成塚ト天野トニ間斷アルヲ以テ法律ハ一般原則以外何人ニテ自己ノ有シタル權利ノ保護ヲ與フルノ必要ナク又此ヲ保護スルニ於テハ不測ノ弊害ヲ來スニ至ルヘシ故ニ如此不完全ナル手形ノ所持人ハ爲替上ノ權利ヲ主張シ得ヘキモノニアラス然レモ法律ノ希望ハ裏書ノ連續アルヲ以テ足レリトス其裏書ノ眞否正否ハ問フ處ニアラス故ニ其裏書セシ讓渡人僞名ノ者アルモ又幼者アルモ之カ爲メ其効力ニ影響ヲ及ホサス僞名又ハ幼者ニ對シテハ單ニ償還スルヲ得サルニ止マリ其他ニ對シテハ有効ナルモノトス之レ表面完備シ居



ルヲ以テナリ又第七百二十九條及第七百三十條ニヨリ成リタル代理又ハ擔保ノ爲ニスル裏書讓渡人ハ前ニ已ニ述ヘタルカ如ク處分權執行又ハ單ニ保證ノ爲メ寄託スルニ止リ處有權ハ依然トシテ裏書讓渡人ニ存在スルヲ以テ已ニ代理人ニ對シ裏書讓渡シタルニ止ラス更ニ第三者ニ裏書讓渡ヲナスコトヲ得ルモノトス

第七百三十三條 裏書讓渡ノ法律上ノ効力ハ爲替手形ニ裏書讓渡ヲ禁スル旨ヲ記載シタルカ爲メ之ヲ失フコト無シ但之ヲ禁シタル者ニ對スル償還請求權ハ此カ爲メニ消滅ス

手形ハ商業資本融通ノ爲メ發行スルモノナレハ法律ハ此ノ融通機關ノ停滯ヲ望マス故ニ假設裏書讓渡人ニ於テ以後ノ流通ヲ禁スル旨ヲ記スルモ爲メニ流通ノ性質ヲ失フモノニアラス然レモ裏書讓渡人ニ於テ流通ヲ禁シタル時ハ其讓受人ト差引計算アルカ故ナルヘキニ猶ホ之カ流通ヲ許ス加フルニ連帶償還義務ヲ負ハシムルニ於テハ頗ル迷惑スルニ至ル故ニ之ノ際ニハ流通スルコトヲ許スト同時ニ法律ハ流通ヲ禁シタル人ニ對スル償還ノ義務ヲ免除シタリ

第三款 引受

爲替手形ハ振出人受取人及ヒ支拂人ノ署名アルヲ要ス然レモ其署名セラレタルカ故ニ直接ニ權義ノ關係生スルモノニアラス例ヘハ其手形ノ支拂ヲ引受クルヲ以テ初メテ直接ノ義務者トナルモノナリ

爲替手形

一金壹仟圓也

右金額明治廿六年三月三十一日甲野由兵衛又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御支拂可被成候也

東京市日本橋區通壹丁目一番地

明治二十六年三月一日

乙野善兵衛

丙田傳兵衛殿



右ノ如ク乙野ノ振出ニテ甲野カ受取人トナリタル時ハ甲野ト乙野トノ間ニハ無論義權ノ關係生シ居ルナリ何トナレハ乙野ハ甲野ニ對シ壹阡圓支拂ノ義務アルカ故其義務ヲ果ス爲メ丙田ニ依頼シ償却セントスルモノナレバ丙田ハ未タ手形ニ關與セサルヲ以テ譬ヘ乙野ニハ壹阡圓返却スヘキ債務アルモ此手形ニ對シテハ直接ノ義務者トナラサルモノトス然ルニ若シ丙田カ其支拂ヲ承諾シ手形表面ノ末ニ左ノ如ク

本文支拂ノ義引受申候也

東京市京橋區銀座四丁目一番地

明治廿六年三月十日支拂人

丙田 傳兵衛

記載スルニ於テハ最早ヤ振出人ノ義務支拂人ニ移轉シ若シ今后ノ計算上丙田カ振出人ニ對シ返戻スヘキ壹阡圓ノ債務消滅スルモ一旦引受ケタル以上ハ其理由則チ債務消滅ヲ以テ拒ムコトヲ得サルモノトス

本條第二項ハ若シ手形カ振出人ハ手形ニ豫メ引受ノ爲メ差示スヘク若シ差示ヲナサルルルハ支拂人ニ於テ支拂ヲ爲サ、ルモ償還請求權ヲ失フト記載スルコトカ出來若シ此ノ手形ヲ受取タル所持人ハ必ス之ヲ呈示シテ支拂引受ヲナサシメ其引受ヲ拒マレタル時ハ必ス拒證書ヲ作ルヘキモノトス例ヘハ

爲替手形

一金壹百圓也

右金額明治廿六年三月三十一日甲野由兵衛殿又ハ同人指圖人ヘ此手形引換御支拂可成被候也

但シ本手形ハ引受ノ爲メ振出日付ヨリ十五日間ニ支拂人丙田傳兵衛殿ニ大坂ノ地ニ於テ呈示スヘシ若シ之ヲ怠ルルルハ手形所持人ハ償還請求ノ權利ヲ失フヘシ

東京市日本橋區通一丁目



明治二十六年二月一日

乙野善兵衛

大坂道頓堀

丙田善兵衛殿

如此呈示ヲ命セラレタル處持人ハ四月十五日又ハ其以前ノ日ニ於テ引受  
ノ爲メ支拂人ニ差出サ、ルヘカラス然シテ引受ヲ拒マシタルキハ滯滞ナ  
ク拒證書ヲ作ルモノトス若シ之ヲ怠ル時ハ償還請求ノ權利ヲ失フモノト  
ス

第七百三十五條 一覽后定期拂ノ爲替手形ハ別ニ短キ呈示  
期間ノ記載ナキキハ日附后遅クトモ二ケ年内ニ引受ノ爲  
メ之ヲ呈示スヘシ若シ之ヲ呈示セサルトキハ振出人及ヒ  
裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ  
支拂人カ方式ニ依レル引受ヲ拒ミ若クハ引受ノ日附ヲナ  
スヲ拒ムキハ拒證書ヲ作ルヲ得此場合ニ於テハ拒證

書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス若シ拒證書ヲ作ラサ  
ルキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス但其翌日  
迄ニ拒證書ヲ作ラサルキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ  
テ擔保ヲ求ムルヲ得ス

本條ハ一覽后定期拂ノ手形ハ別段手形而ニ二ケ年ヨリ短キ期日ニ一覽ノ  
爲メ呈示スヘキ事ヲ記載シアラサル時ハ必ス二ケ年以内ニ引受ケノ爲メ  
呈示スヘキモノトス若シ之ヲ爲サ、ルキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ  
テ償還請求ヲナス權利ヲ失フモノトス一覽后定期拂ノ爲替手形トハ左ノ  
如ク調成セラレタルモノヲ云フ

爲替手形

一金壹萬圓也

右金額御一覽后三週間目ニ二十一日目甲野由兵衛殿又ハ同人指圖人へ  
此手形引換ニ御支拂可被成候也

引受



東京市日本橋區箱屋町一番地

明治二十六年三月一日

乙野善兵衛

丙田傳兵衛殿

右ノ如ク一覽后定期拂ノ手形ハ一覽ノ爲メ呈示セサレハ支拂期日確定セサルカ故若シ最長期ヲ定メ置カサル時ハ振出人ハ爲替金ヲ準備シ置クヘキ期限ナク又支拂人ハ爲替金ヲ無期限ニ預リ置クノ迷惑ヲ生スルヲ以テ振出日付ヨリ二ケ年ヲ以テ最長期トス其期限内ニ支拂引受ノ爲メ呈示セサル片ハ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ例ヘ手形カ不渡トナルモ償還請求ヲ求ムルノ權利ナキモノト定メタルモノナリ

又本條第二項ノ意味ハ一覽後定期拂ノ手形ニシテ支拂期日確定セシメンカ爲メ呈示シタルニ支拂人ニ於テ方式通りノ引受ヲ拒ムカ又ハ方式通り本文支拂ノ義引受候也ト記載スルモ其日付ヲ記スルコトヲ拒ミタル片ハ直チニ拒證書ヲ作ルモ又ハ呈示期日ノ末日則チ二ケ年目終リノ日迄再三

督促シ記載セシムルコトモ出來若シ二ケ年ノ末日迄方式ニ依ル引受ヲナサルカ又ハ日附ヲ記サル片ハ其翌日ハ必ス拒證書ヲ作ルモノトス若シ此場合ニ拒證書ノ作成ヲ怠ル片ハ第一項同様償還請求權ヲ失フモノトス然シテ何レノ場合ニ於テモ拒證書作成ノ日ハ呈示ノ日トナル故夫レヨリ支拂期日確定スルモノナリ

## 第七百三十六條

引受ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取りタルト

否トナ間ハス爲替手形ノ所持人ニ對シテ滿期日ニ爲替金額ヲ支拂フ義務ヲ支拂人ニ負ハシム又所持人ニ引受ノ旨ヲ記シタル爲替手形ヲ還付シタル后ハ強暴又ハ詐欺ノ場合ヲ除ク外之ヲ取消スコトヲ得ス

本條支拂人ニ於テ一旦期日ニ支拂フヘキ旨引受ケ記載シタル片ハ振出人ヨリ爲替資金ノ送致有無ニ係ラス必ス支拂期日ニハ爲替金額ヲ支拂フヘキ義務アルモノトス又タ一旦引受ノ旨ヲ記シ處持人ニ引渡シタル中ハ暴



行<sup>ワラフ</sup>強<sup>ク</sup>迫<sup>ル</sup>ニヨリ奪<sup>ハ</sup>レルカ又ハ欺<sup>ア</sup>ムカレ編<sup>ミ</sup>取<sup>ル</sup>セラレタル時ノ外其手形引受ヲ取消ス<sup>コ</sup>能ハサルモノトス

抑モ手形支拂人ハ引受ヲ爲スト否トハ自分ノ手手ナルモノトス然レトモ一旦引受ノ旨ヲ記スルニ於テハ處持人ニ對シ契約<sup>ケイギョク</sup>ノ對手トナリ茲ニ直接<sup>チヨウジキョウ</sup>支拂義務生スルモノナレハ后日振出人ヨリ爲替資金ノ送付ナキトカ又ハ自分一己ノ考ヘ違<sup>チガ</sup>ヒ則チ錯誤<sup>サコゴ</sup>ニヨリ引受ケナシタル故支拂ノ義務ナキ杯<sup>ハ</sup>云フ<sup>コ</sup>ヲ許サ<sup>ル</sup>ルモノトス蓋シ通常<sup>ケイギョク</sup>契約トシテモ其成立ハ双方ノ合意ニヨルモノトス自分一己ノ勝手都合又ハ考ヘ違<sup>チガ</sup>ヲ理<sup>リ</sup>由<sup>ユ</sup>トシテ取消ス<sup>コ</sup>能ハサルモノナリ況ンヤ手形ハ其支拂ヲ確實<sup>ケツペン</sup>ニシ以テ信用ヲ維持<sup>キ</sup>センカ爲メ一層<sup>ケン</sup>嚴格ニ方式ヲ定メ以テ其意思ヲ推測スルノ必要アモルノ故斯ク本條ノ規定ヲ要シタル所以ナリ

第七百三十七條 引受ハ支拂人カ爲替手形ニ引受ノ旨ヲ記シテ署名捺印<sup>シヨクイネン</sup>ノミヲ爲スニ因リテ成ル此方式ニ依ラサル

引受ノ効力ハ第八百五條ノ規定ニ從フ

本條ハ手形引受ノ方式ヲ指示シタルモノナリ則チ爲替手形面ニ引受ノ旨ヲ記シ署名捺印スルカ又ハ別ニ引受ノ<sup>コ</sup>ヲ記載セス單ニ署名捺印スルヲナスモ引受トシテ有効ナルモノナリ然レモ若シ手形面ニ署名捺印セシモ本文支拂ノ義引受申候也ト記載セス本手形正ニ一制仕リ候也又ハ之ト同シキ意味ノ文字ヲ記サレタルキハ引受トシテ効力ナキモノナク如何トナレハ手形ハ署名捺印スル時ハ手形上ノ義務ヲ負擔スルノ意思ニテ記名調印セラレタルモノト一般ニ推測ヲ下スルナレモ若シ正ニ一<sup>ニ</sup>て仕候也ト記載シアルニ於テハ一般ノ推測ヲ以テ判定<sup>ハ</sup>スル<sup>コ</sup>難ク其記載セラレタル文字ノ意義ニ解釋<sup>カクシヤク</sup>ヲナスヘキモノナレバ單ニ一<sup>ト</sup>セシ而已ニテ引受ニ諾否ヲ表シタルモノトスル<sup>コ</sup>能ハサレハナリ

又タ嚴格ニ本文支拂ノ義引受候也ト記載セサルモ其文字ニヨリ引受ノ意味ヲ解セラル<sup>コ</sup>カ又ハ別紙<sup>ベツシ</sup>ニ引受ヲ記シタル證書ヲ渡スカ如キ本條方式



ニヨラサルモノモ支拂人ニ於テハ第八百五條ノ規定ニ基キ爲替資金ヲ受  
取リタルトノ不利益ナル推測ヲ受クルモノトス

第七百三十八條 即日ニ引受ヲ爲サス又ハ條件若クハ其他  
制限ヲ以テ之ヲ爲シタルキハ引受人ハ其引受ノ爲メ當然  
羈束セラル、モ所持人ハ之ヲ拒ミタリト看做スヲ得若  
シ爲替金額ノ一分ニ付テノミ引受ヲ爲シタルハ他ノ部  
分ニ付テハ其引受ヲ拒ミタリト看做ス

本條ハ爲替義務ハ支拂人ノ意思ニヨリ變更ヲ受クルモノニアラサルコトヲ  
規定セラレタルモノナリ則チ呈示シタル即日ニ引受ヲナサ、ルカ又ハ或  
ル事柄ノ生シタル時ニ於テ支拂フト云フカ如キ條件ヲ附シテ引受ヲナス  
カ或ハ其他ノ制限例ヘハ營業店ノ外ナル田舎ノ隠宅ニテ支拂フトカ又ハ  
支拂期日ヲ變更シテ支拂ヲナスト云フカ如キ制限ヲ附シテ引受ヲ爲シタ  
ル時ハ手形所持人ハ支拂ヲ拒マレタルモノト看做シ拒證書及ヒ其他償還

請求保全ノ爲メ擔保ヲ提舉スルコトヲ請求スル手續ヲナスコトヲ得ルモノナ  
リ然レモ支拂人ニ取リテハ其不完全ナル引受ヲ爲シメルニ係ラス當然引  
受ノ爲メニ束縛セラレ其引受ケタル義務ノ履行ヲ求メラル、ニ於テハ拒  
ムコトヲ得サルモノトス

又引受人ハ其支拂金ノ幾部分ヲ引受ケタルキハ其他ノ部分丈引受ヲ拒マ  
レタルモノトナリ全部拒マレタルモノトナルニアラス何ントナレハ譬ヘ  
全部引受ケサルモ所持人ハ手形面ノ全額支拂ヲ受クルヲ以テ満足スヘキ  
モノニシテ其支拂ヲナスヘキモノハ皆連帶義務ヲ負フモノナレハ其關係  
者ノ利益ノ幾部分ノ引受ニテモ不承諾ヲ唱ヘ支拂ヲ肯ムコトヲ許サ、ルモ  
ノトス

第七百三十九條 所持人引受ノ拒證書ヲ作りタルキハ其作  
成ヲ遲滞ナク振出人又ハ裏書讓渡人ニ通知スヘシ右ノ通  
知ヲ爲シタル所持人ハ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シテ爲



替金額及ヒ拒證書ノ費用並ニ戻爲替ノ費用ヲ滿期日ニ支拂フ付テノ擔保ヲ求ル權利ヲ有シ各裏書讓渡人ハ自ラ擔保ヲナシタルト否トヲ問ハス前者ニ對シテ右同一ノ權利ヲ有ス但拒證書ノ交付ヲ受クルニアラサレハ擔保ヲ供スル義務ナシ

當事者ノ一人カ爲シタル通知及ヒ其受ケタル擔保ハ其後者總員ノ爲メニモ効力ヨリ

本條ハ若シ手形カ支拂人ニ於テ引受ヲ爲サ、ルカ又ハ條件若クハ制限ヲ以テ引受ヲナシタルニ處持人ハ之レニ満足セス拒マレタルモノト看做シ時ハ速ニ拒證書ヲ作り而シテ其拒證書ヲ作りタルヲ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ通知ヲナシ爲替手形金ノ支拂擔保ヲ求ムル事ヲ得ルモノトス尤モ之ヲ求メラレタルモノハ拒證書ノ引渡ヲ受ケサレハ擔保ヲ提供スルノ義務ナキモノトス又タ爲替手形ニ裏書ヲナシタル讓渡人ハ自分カ處持

人ニ對シ担保品ヲ差出シタルト否トヲ問ハス自分ヨリ前ノ讓渡人又ハ振出人ニ對シ斯ノ場合ニハ擔保ヲ差出サシムルノ權利アルモノトス

又其擔保金額ハ爲替金ニ止ラス拒證書作成ノ費用戻爲替ノ費用迄擔保ヲ差出サシムルヲ出來ルモノトス

又タ當事者ノ一人カナシタル引受拒絕ノ通知及ヒ其一人カ受ケタル擔保ハ自分ヨリ後者總員ノ爲メ効力アルモノトス譬へハ甲者ヨリ乙者ニ於テ爲替手形ヲ振出シ丙者ニ渡シタルハ丙者ハ丁者ニ裏書讓渡ヲナシ丁者亦戊者ニ戊者ハ己者ニ裏書讓渡ヲナシ己ナル處持人ハ支拂引受ノ爲メ乙者ニ手形ヲ差出シタルニ乙者ハ其手形ノ引受ヲ拒ミタリ茲ニ於テ速ニ拒證書ヲ作り己者ハ戊者及丁丙甲者ノ四名ニ對シ拒證書ノ作成ヲ通知シタリ然ルニ丙者ハ別段己者ニ擔保ヲ供シタルニアラサルモ后日ノ危險ヲ免レンカ爲メ甲者ニ對シ擔保品提供スヘキヲ請求シタリ依リテ甲者ハ丙者ノ請求ニ應シ大藏省預金局へ爲替金及ヒ戻爲替ノ費用拒證書ノ費用迄



供託セリ如此此場合ニ於テ甲者カ提供シタル擔保ハ獨リ丙者ノ利益ニ止  
 マラス其后者ナル丁戊巳ノ三人共其提供シタル擔保ニ對シ利益ヲ主張シ  
 得ルモノトス又タ此如轉輾シタル手形ノ場合ニ於テ巳者ハ戊者ニ通知シ  
 其他ノ者ニ通知ヲナサ、ルモ戊者ハ丁及丙甲ノ三人ニ對シ通知ヲナシタ  
 ル片ハ巳者ハ戊者ノ通知ヲナシタル甲丁丙ノ三人ニ對シ擔保ノ請求ヲナ  
 ストヲ得ルモノトス蓋シ戊者ノナシタル通知ハ巳者ニ於テモ有効ナルモ  
 ノナレハナリ

第七百四十條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ擔保ヲナスニ換ヘ

テ前條ニ掲ケタル一切ノ金額ヲ即時ニ所持人ニ支拂ヒ又  
 ハ即時ニ供託所ニ寄託スルヲ得

本條ハ拒證書作成ノ通知ヲ受ケ且ツ擔保ヲ差出スヘキ旨ノ請求ヲ受ケタ  
 ルモノハ其擔保ヲ爲ス代リニ爲替金及ヒ拒證書作成ノ費用並ニ戻爲替ノ  
 費用等ヲ直ニ所持人ニ支拂フ事モ又ハ其金額ヲ供託所ニ寄託スルヲモ出

來ルモノトス必覺到底支拂ヲナサチバナラヌ金額ナレハ訴訟及ヒ其他ノ  
 手數費用ヲ掛ケ又ハ利息ヲ嵩ムノ必要ナキ故如此支拂ヲナス方便利ナル  
 故斯ク定メラレタルモノナリ

第七百四十一條 擔保又ハ寄託ハ後ニ至リ爲替手形ノ引受

アリタルトキ又ハ爲替金額若クハ償還金額ノ支拂アリタ  
 ルトキ又ハ所持人カ時効若クハ懈怠ニ因リテ爲替手形上  
 ノ權利ヲ失ヒタルキハ其生シタル費用ヲ引去リテ之ヲ還  
 付スルヲ要ス

本條ハ第七百三十九條ニ基キ擔保ヲ提供シタルモノ及ヒ第七百四十條ニ  
 ヨリ一切ノ金額ヲ即時ニ供託所ニ寄託シタルモノカ其後ニ至リ支拂人カ  
 爲替手形ノ引受ヲナスカ又ハ支拂人ト引受ヲナス直チニ爲替金ヲ支拂ヒ  
 タル時若シクハ他ノ裏書讓渡人ニ於テ爲替金額ヲ償還シタル時又ハ手形  
 處持人カ時効若クハ自分ノ怠リヨリシテ爲替上ノ權利ヲ失ヒタル時ハ擔



保及ヒ寄託ニ就テノ費用ヲ引去リ其殘部ノ還附ヲ受クルヲ得ルモノトス本條后ニ至リ替爲手形ノ人受ケアリタル時トハ一旦支拂人ニ於テ爲替資金ノ送致ナキヨリ其手形ノ引受ヲ拒ミタルモ其後ニ至リ振出人ヨリ爲替資金送付アリタル時ハ改メテ引受ヲナス場合ヲ云フナリ則チ此ノ場合ハ手形支拂確實トナリタル故后日危險ヲ免カレンカ爲メノ擔保ヲ提供スルノ必要ナキヲ以テ還付スヘキモノトス

又々爲替金額若クハ償還金額ノ支拂アリタルキトハ支拂人ニ於テ引受ヲ拒絶シ居リタルモ支拂期日シナク振出人ヨリ爲替資金ノ送附アリタル時ニ於テ引受ノ手續ヲ爲サス直チニ爲替金ノ支拂ヲナシタル場合及ヒ自己ヨリ前ナル裏書讓渡人又ハ振出人ニ於テ償還ヲナシタルキハ處持人ニ對シ最早擔保又ハ寄託ヲナシ置クノ必要ナキ故取戻スヲ得ルモノトス又々時効云々トハ例ヘハ處持人カ支拂人ヨリ支拂拒絶セラレタル后三ケ年間振出人ニ對シ爲替金ノ請求ヲナサ、ル時又ハ裏書讓渡人ニ對シ通知ヲ

ナシタル而已ニ止メ三ケ年間訴訟ヲ起サス空シク經過スルカ又々拒證書作成及ヒ還償請求ノ通知ヲ怠リタル時ハ爲替上ノ權利消滅スル故隨テ其權利保全スル目的物ヲ提供シ置クノ必要ナキ故取戻スヲ得ルモノトス本條支拂人カ引受ヲナサ、ルヨリ此ノ如キ担保ヲナシ又ハ寄託ヲナスニ至リタルモノナラハ毫モ裏書人ニ於テ斯ル手數ヲ生スルニ付キ關係アラサルヲ以テ其入費支拂ノ義務ナキカ如シト雖モ手形ノ裏書人ハ處持人ニ對シ一般ニ連帶義務ヲ有スルモノナレハ支拂人ニ於テ支拂ハサル時ハ其全部ノ義務ヲ引受ケ支拂ハサレハナラヌモノナル故譬ヘ自分ニ於テ關係セサルモ其費用ヲ支拂フヘキモノト定メラレタルモノナリ

第七百四十二條 第七百四十條ノ規定ニ從ヒテ爲替金額及ヒ費用ヲ所持人ニ支拂ヒタル者ハ其所持人ニ對シテ裏書讓渡ヲ求メ且ツ爲替手形ト共ニ受取證ヲ記シタルモ還計算書ノ交付ヲ求ムルヲ得



本條ハ第七百四十條ノ規定ニ從ヒ擔保及ヒ寄託ヲナス直チニ所持人ニ對シ支拂ヲ爲シタルモノハ手形所持人ヲシテ裏書讓渡ヲナスシメ且ツ同時ニ費用ヲ計算シタル償還計算ニ受取ヲ記サシメ受取ルヲ得ルモノトス蓋シ如此一時ニ支拂ヒタル裏書人ハ所持人ノ權利ヲ襲承シテ振出人又ハ自分ヨリ前ナル讓渡人ニ對シ償還請求ヲ求ムルノ權利ヲ存スルモノナレハ手形ノ裏書及ヒ受取ヲ記シタル計算書ヲ受取ル必要アルヲ以テナリ

第四款 榮譽引受

榮譽引受ハ支拂人ニ於テ引受ヲ武セサル時ニ當リ振出人裏書讓渡人ノ名譽ノ爲メ引受ヲナスヲ云フ爲替手形ハ商業資本ノ融通ノ爲メ商家ニ於テハ尤モ必要ナルモノナリ然レモ之ノ手形ノ遲滯ナク流通スルハ全ク振出人又ハ裏書讓渡人ノ名譽ト信用ニヨルモノナリ而シテ支拂人ノ引受ヲナス、ル場合ハ多クハ爲替資金ノ送致ナキ時ニアリ故ニ一度振出シタル

手形又ハ裏書讓渡シタル手形ニシテ引受ヲナス、ルヤ其名譽及ヒ信用ヲ倍フ、甚タシク爾后發行スルモ再ヒ流通スルコトナク爲メニ商業上最大利便ナル機關ヲ用フルコト能ハサルヘシ故ニ斯ル場合ニ於テ振出人又ハ裏書讓渡人ノ知己朋友若クハ取引先ニ於テ此等ノ人ノ名譽及ヒ信用ヲ維持スル爲メ引受ヲナス場合

第七百四十三條 支拂人カ引受人ヲ拒ミタル爲替手形ニ同

地ニ於ケル豫備支拂人ヲ掲ケタルトキハ其爲替手形ナド證書ト共ニ引受ノ爲メ遲延ナリ豫備支拂人ニ呈示ス可シ本條ハ豫メ振出人ニ於テ爲替資金ノ都合又ハ其他場合ヲ慮リ支拂人ノ外ニ其支拂地ニ豫備リ拂人ヲ掲ケ置キタル場合ニ豫想ノ如ク支拂人ニ於テ引受ヲナス、ルニ於テハ速カニ拒證書ト共ニ爲替手形ヲ引受ケノ爲メ豫備支拂人ニ呈示スヘキモノトス蓋シ商家ノ常トシテ暖時ニシテ貨借共位、置ヲ異ニシ今日豫備支拂人ニ於テ振出人ニ對シ借方ノ位置トナリ手形支



拂ヲ引受クルニ於テハ却テ現金送致ノ手數ヲ煩ハスヨリ優ルヲアルモ翌日ニナレハ借方ノ位置ヲ轉シ却テ貸方トナリ若シ之ヲ引受クルニ於テハ巨額ノ貸金トナルヨリ之レヲ拒絕スルカ如キ不得止場合ナキニアラス故ニ法律ハ第七百三十九條ト同シク遲延ナク引受ノ爲メ呈示スヘキヲ命ジ所持人ニ於テ之レヲ怠リ必要ナル期日ヲ看過シ爲ニ損害ノ生セルヲアルモ償還請求權ヲ失フモノトス蓋シ何人ニテモ自己ノ怠慢ヨリ生シタル是害ヲ他人ニ對シ賠償ヲ求ムルノ權ナキヲ以テナリ

第七百四十四條 豫備支拂人ヲ掲ケサルトキト雖モ支拂人及ヒ第三者ハ拒マレタル爲替手形ヲ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メニ引受クルコトヲ得然レトモ所持人ハ此如キ參加ヲ許諾スル義務ナシ

本條ハ爲替手形ニシテ支拂人ヨリ引受ヲ拒マレ且ツ別ニ豫備支拂人ヲ記載セサル場合ニ於テ第三者又ハ支拂人カ自ラ進テ參加シ榮譽引受ヲナス

コトヲ許シタルモノナリ

支拂人ニシテ既ニ手形ノ引受ヲ拒絕シ然シテ再ヒ自ラ進テ榮譽引受トナルハ拙著シタル行爲ノ如シ然レトモ決シテ然ラス凡ソ手形ノ關係トシテ支拂人ノ氏名ヲ手形面ニ記載セラル、而已ニテハ未タ何等ノ權義ヲ生スルモノニアラス唯タ支拂ヲ引受ケ而シテ後始メテ直接ノ義務者トナルモノナリ故ニ支拂人ニ於テ振出人又ハ裏書讓渡人ヨリ爲替資金ノ送致ナキ場合ハ勿論引受ノ拒絕ヲナスコトヲ得ルモ他ニ豫備支拂人ノ記載ナク且ツ榮譽引受ヲナスモノナク加フルニ振出人トハ從來引取上ノ交誼アルニ於テハ其名譽ノ爲メ一旦當然ナル義務者トシテ引受ヲナスヲ肯セサルモ榮譽引受人トナリ名譽及ヒ信用ヲ維持スルハ德義上嘉スヘキ行爲ニシテ少モテ着シタルモノニアラス然レトモ手形所持人ハ前條ノ如ク豫定シタル手形關係者ニアラサルヲ以テ其參加許否ノ權ヲ有ス決シテ其參加ノ爲メ羈束セラル、モノニアラス全故ニ若シ其參加者ニ信用ヲ置カサルニ於テ



ハ斷然之レヲ拒絶ス第七百三十九條ニ基キ償還權ノ保然ヲ計ルヲ得ルモノナリ

第七百四十五條 二人以上ノ參加人アルトキハ最モ多數ノ義務者ノ榮譽ノ爲メニ引受ヲ爲ス者ヲ以テ榮譽引受人トス若シ受榮譽者ヲ記載セサルトキハ振出人ヲ受榮譽者ト看做ス

本條若シ手形面ニ豫備支拂人ヲ定メス而シテ榮譽支拂人トナルヘキ參加申立ツルモノ二人以上アリタル時ハ其引受ニヨリ最モ多數ノ義務者受益スルモノヲ以テ榮譽引受人トナス必竟手形ノ義務者ハ各連帶ノ義務ヲ負フ而已ナラス自己ヨリ前ナル裏書讓渡人又タ振出人ニ對シ償還請求權ヲ有シ而シテ榮譽引受セラレタル裏書讓渡以後ノ裏書讓渡人ハ受榮譽裏書人ト同様擔保又ハ寄託ノ責務ヲ免カル、モノナレハ法律ハ尤モ多數ノ義務者ノ爲メ引受ルモノヲ以テ榮譽引受人トスル所以ナリ

又タ何人ノ爲メ引受ヲナセハ最モ多數ノ義務者ノ利益トナルヤト云フ振出人ノ爲メ引受ヲナセハ此ノ起シタル受益者ノ多數ナルハナシ如何トナレハ引受ケラレタル以後一切ノ義務者ニ對シテ有効ナルモノニシテ振出人ヨリ前ナル義務者アラサレハナリ故ニ受榮譽者ノ明記ナキ場合ハ振出人ノ爲メ引受タルモノト看做スモノナリ

第七百四十六條 豫備支拂人ノ引受其他所持人カ許諾シタル參加人ノ引受ハ受榮譽者及ヒ其後者ニ擔保ヲ供スル義務ヲ免カレシム

爲替手形ノ所持人支拂人ニ支拂ノ爲メ呈示シ若シ支拂人ニ於テ其支拂ヲ拒絶スル時ハ法定ノ條規ヲ履ミ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ支拂擔保ノ請求ヲナスノ權利アリ之ノ請求ヲ受ケタルモノハ必ス擔保スルカ又ハ現金ヲ供託スルノ義務アルモノトス然レモ若シ豫備支拂人アリテ其支拂ヲ引受クルカ又ハ所持人ノ許諾シタル參加人ノ引受ケアリタル時ハ其受榮



譽者以後ノ裏書讓渡人ハ之ノ義務ヲ免カル、モノトス即チ已ニ爲替手形ニシテ支拂引受ヲ受クル時ハ確實シタル債權ト化スルヲ以テ擔保スルノ必要ナキナリ

第七百四十七條 榮譽引受ハ支拂人カ支拂ヲ爲サ、ルトキ

ニ於テ參加人ニ滿期後爲替金額ヲ支拂フ義務ヲ負ハシム

爲替ノ支拂人支拂ヲ引受サルモ未タ支拂ヲ拒絶シタルモノニアラス爲替手形所持人ニ於テ支拂引受ヲ請求スルハ自己ノ權利ヲ保全スルニ止マルモノナリ故ニ一旦支拂引受ノ爲メ呈示シ引受ヲ拒絶セラル、モ支拂期日ニ至リ更ニ支拂ノ爲メ呈示セサルヘカラス此時ニ於テ振出人ヨリ爲替資金ノ送致アル時ハ前ニ未タ資金送達カラサルヲ以テ引受ヲ拒絶セシモ當然支拂ヲナスヘシ然レモ之ノ時ニ至ルモ未タ資本ノ到達ナリ又ハ他ノ事情ノ爲替金ノ支拂ヲナサザル時ニ始メテ榮譽引受人ニ支拂ノ義務ヲ生スルモノトス故ニ榮譽支拂人ニ於テ始メ支拂引受ヲナシタル時ハ直接義務ノ

負擔ニアラスシテ後日支拂期日ニ至リ支拂人ニ於テ支拂ヲ拒絶スルニ於テ引受支拂フヘキ保證ニ止マリ直接義務者トナルハ滿期日後支拂人ニ於テ支拂ハサル時ニ於テ生スルモノトス

爲替手形

一金壹萬圓也

右金額來五月五日甲野由兵衛殿又ハ同人ノ指圖人へ此手形引換ノ上御支拂可被成候也

日本區通二丁目一番地

明治廿六年三月一日

乙野善兵衛

内田傳兵衛殿

右乙野善兵衛殿榮譽ノ爲メ支拂引受仕候也

大坂府東區

明治廿六年四月十五日

丁田長兵衛



第七百四十八條 榮譽引受ハ參加人爲替手形ニ之ヲ記載シテ署名捺印シ且拒證書若クハ其附箋ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

爲替手形ノ事項ハ凡テ手形面ニ記載スルヲ要ス榮譽引受モ又タ此ノ原則ニ基キ手形面ニ署名捺印シ且榮譽引受ノ旨ヲ記載スヘキモノトス若シ右ノ如ク趣意記載ナク署名捺印ノミスル時ハ第七百五十一條ニヨリ其傍ニ記載セラレタル債務者ノ保證ト見做サル、モノナリ又拒證書或ハ附箋ニ其旨ヲ附記スルハ受榮譽者ニ對シ償還請求權ヲ保全スルニハ必ス榮譽引受ヲナス趣意ノ記載アル拒證書ヲ遅延ナク送致スルノ必要アレハナリ若シ之レヲ怠リタル時ハ其怠慢ヨリ來ル處ノ損害ハ榮譽引受人ニ於テ負擔スヘキモノトス

第七百四十九條 拒證書ハ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ參加人ニ交付シ參加人ハ遅クトモ拒證書作成ノ翌日

受榮譽者ニ榮譽引受ヲ爲シタル旨ヲ通知シテ拒證書ヲ交付スルコトヲ要ス若シ此事ヲ怠ルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付責任ヲ負フ

本條ハ手形所持人ニ於テ拒證書ノ費用ヲ受取リタル上之ヲ參加人ニ交付シ參加人ハ遅クモ其證書作成ノ翌日榮譽引受ヲ爲シタル旨ヲ通知シ拒證書ヲ送付スヘキモノトス若シ此事ヲ怠レハ是レヨリ生スル一切ノ損失榮譽引受人ニ於テ負擔スヘキモノトス如此規定セサルトキハ支拂人ト振出人トノ間ニ於テ計算上損失ヲ生ス壁ヘハ支拂人ニ於テ拒ミタルモ手形所持人ハ別ニ參加人アルヲ以テ之ニ満足セシ故別段支拂引取ノ拒絶アリシコトヲ通知セム故ニ振出人ニ於テ之ヲ知ル由ナク爲替資金ヲ支拂人ニ向ケ送致シタルニ後日榮譽引受人ヨリ突然償還請求ヲ受ケ一度支拂ヒタル爲替資金ヲ再ヒに押フカ如キ不幸ヲ來スコトアルヘシ故ニ法律ハ拒證書作成ノ翌日マテ必ス振出人ニ通知スヘキ義務ヲ榮譽引受人ニ負擔セシメ若シ



此ノ期間ヲ過チタルトキハ之レヨリ生シタル損失自ラ負擔スヘキモノトナシタルハ至當ノ規定ナリ

第七百五十條 受榮譽者及ヒ其前者ハ擔保ヲ求ムル權利ヲ

有ス然レトモ所持人ハ第七百四十四條ニ依リテ榮譽引受

ヲ許諾セサルトキニアラサレハ之ヲ有セス

本條ハ手形所持人カ許諾ヲ與ヘサル受榮譽者又ハ其前者ハ擔保ヲ求ムルノ權利アルモノナリ如何トナレハ自己ノ爲メ榮譽引受人アルモ所持人ニ於テ許諾セス擔保又ハ寄託セサルヘカラサル場合ニ於テハ受榮譽者ニ對スル義務者即チ其人以前ノ裏書人又ハ振出人ニ對シ擔保請求ヲナスコトヲ得ルハ當然ナリ然ラサレハ振出人及裏書讓渡人ニ對シ償還スルモ果シテ満足ヲ受クルヤ否確定セサレハナリ然レトモ若シ所持人ニ於テ參加人ヲ許諾スルニ於テハ之ノ權利ナシ蓋シ榮譽引受ニヨリ受榮譽擔保請求スル必要ナケレハナリ

### 第五款 保証

本來手形ハ信用上流通スヘキ商業資本融通ノ機關ナレモ信用ナルモノハ一ノ世評ニ過キサレハ信用乏シキ人ノ發シタル手形ハ勿論世評隆々タルモ之レト取引ヲナサ、ル人ハ世間ノ想像信用ヲ得ニ安心セス取引ヲ肯セサルコトアリ斯ル場合共振出人ハ自己ノ知己又取引先ニ相談シ保証ニ立テ以テ此ノ有益ナル機關ノ運轉ヲナスコトヲ得ルモノナリ譬ヘハ甲者乙者ヨリ書籍六百冊ヲ現金賣買ニテ買受ケタリ然レモ甲者當時所持金ナキ故十日後支拂フヘキ爲替手形又ハ約束手形ヲ振出シ代價ニ充テントコトヲ乙者ニ依頼シタルモ是迄甲者ハ商業ヲ營ミ居リタル者ニアラザルヲ以テ甲者一人ノ振出ニテハ他ニ流通セントスルモ其取引先ニ於テ承知セサル故手形ヲ以テハ書籍賣買ノ義破談スルノ外ナキ旨ヲ告ケラル此際甲者ハ其手形世間ニ遲滞ナク流通スル程ノ信用アル人ノ保証ヲ添ヒ以テ取引ヲナスコ



トヲ得ヘシ要スルニ保證ハ手形ノ信用ヲ増シ且ツ流通上圓滑ナラシムル爲メ規定セラレタルモノナリ而シテ此ノ保證義務ハ何人ニテモ負擔シ得ヘキモノナレバ一旦爲替義務者ハナリタルモノハ保證人トナルコトヲ得サルモノナリ譬ヘハ振出人支拂人又裏書讓渡人ノ如キハ爲替ニ付キ既ニ義務ヲ負ヒ居ル故假令保證人ニスルモ何等ノ効ナキヲ以テナリ

第七百五十一條 爲替手形ニ於テ爲替債務者ノ署名ヲ自己

ノ署名ヲ添フル第三者ハ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負フ

本條ハ保證トナルニハ別段ノ方式ヲ要セス單ニ振出人ト連署スルヲ以テ振出人ト連帶ノ義務ヲ負フモノナリ然シテ保證ハ振出人而已ナラス書拂人ニモ又タ裏書讓渡人ニモ保證人ヲ付ケ得ルモノナリ則チ書拂人ト連署シテ書拂引受ヲナス時ハ書拂人ト同様ナル責任ヲ負ヒ裏書讓渡ノ際其讓受人讓渡人ヲ信用セサル時ハ其手形ノ正否モ又タ不明ナル故斯ル不愷ナル手形ノ取引ヲ拒ム其時讓渡人ハ更ニ讓受人ノ信用スル保證人ヲ付ケ取

引ヲ請フコトアル可シ然シテ此ノ保證人モ前同様讓渡人ト連帶ノ義務ヲ負フモノトス

第七百五十二條 前條ノ義務ヲ負擔スルニハ別ニ書面上ノ

陳述ヲ以テスルコトヲ得

本條ハ保證トナルニハ手形面ニ記載スル而已ナラス別紙ニ其理由ヲ記載シテ保證トナルコトモ出來得ルト云フ規定ナリ抑モ保證ハ既ニ説キタルカ如ク保證ヲ添ユル人ノ信用ヲ補フ爲メナレバ保證ヲ添フル人ヨリ云フ時ハ甚タ喜ハシカラサルコトナク何ントナレハ自分ハ自分一己ノ信用ニテ手形ヲ振出スモ取引ヲ爲シ與ル、人ナキコトヲ表示スルモノナレハナリ換言スレハ自分ハ商業社會ニ信用欠乏シ居ルト云フコトヲ自白スルニ當レハナリ然レバ若シ此ノ自白ヲ手形面ニ記載セス別紙ニ記載スルニ於テハ其對手人ノ外之ヲ知ル人ナキ故信用ヲ維持スルニ宏大ナル利益有若シ否ラスコト手形面ニ記スルニ於テハ之ト取引スル總テノ人ハ振出人ノ信用欠乏ヲ承知



スルニ至レハナリ又タ別紙ニ記載スルト手形面ニ記載スルトハ保證人ニ於テ大ニ利害ヲ異ニスルコトアリ即チ手形面ニ記載スルルハ其手形ノ取引セラレタル總テノ人ヨリ爲替義務ヲ責メラル、モ別紙ニ記シタルルハ單ニ當事者間ニ止ムカ故債權者ノ數ヲ減スルコトナルナリ又タ數通ノ手形(俗ニ組手形ト云フモノニシテ甲乙丙又ハイロハト云フカ如キ同一ノ手形ヲ三枚又ハ四枚ヲ發行シ其内一枚支拂スルニハ他ハ無効トナルヘキヲ云フ)ノ時ハ手形面ニ記スルニ於テハ一々皆ナ記セサレハナラヌモノナレモ若シ別紙ニスルルハ一通ニテ數通ニ通用シ得ルノ利益アリ

第七百五十七條 爲替保證ノ義務ハ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ制限スルコト得然レモ其制限ハ契約ヲナシタル當事者間ニノミ効力アリ

抑モ手形ノ保證人ハ總テ其債務本人ト連帶ノ義務ヲ負擔スルヲ本則トスレモ保證ニ立ツ際明カニ契約シ其義務ヲ制限スル時ハ當事者間ニ於テハ

其契約ハ有効トナルモノトス譬ヘハ手形金額ノ内何程ハ本人ニ於テ支拂ハサルルハ金辨スヘシト云フカ如ク又ハ連帶ノ義務ヲ負擔セサルトカ又ハ手形ノ正當ニ成立セシコト而已ヲ保證スルモノニシテ金額ニ付テハ保證セサルト云フ如キ制限ヲ定メ得ルモノナリ然シ其制限ハ契約セシ當事者間ニ止マリ若シ手形カ第三者ニ轉スルルハ第三者ニ向テ其制限ヲ主張スルコトハ出來サルモノトス

第六款 支拂

手形ハ振出ニヨリ發生シ裏書ニテ流通シ支拂ヲ以テ手形ノ生存茲ニ終局ヲ告クルモノトス本款ハ以下數條ニ於テ其支拂フヘキ貨幣支拂フヘキ方法等ヲ定メタルモノナリ

第七百五十四條 爲替金額ハ爲替手形ニ記載シタル貨幣ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ若シ特ニ貨幣ノ種類ヲ表示セサルト



キハ支拂地ニ於テ商人間ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂ヲナス意思ナリト相定ス

貨幣ハ種類ニヨリ時價ニ差異アルモノナレハ手形上支拂フ可キ幣貨ハ如何ナルモノニテ支拂フヘキヤ豫メ法定シ以テ濫争ノ基礎ヲ消滅セリ則チ若シ手形面ニ金貨ニテ支拂フヘキ旨ヲ記載シアル時ハ必ス金貨ヲ以テ支拂ヒ若シ金貨又ハ銀貨等ト特ニ記載アラサルトキハ普通商人間ニテ通用スル貨幣ニテ支拂ヘハ差支ナキモノトス故ニ金貨ト明記シアル時ニ於テ銀貨ヲ以テ支拂ハレタルトキハ斷然其支拂ヲ拒絶シ直チニ拒證書ヲ作成スルコトヲ得又タ貨幣ノ種類記載ナキトキニ銀貨又ハ紙幣ヲ以テ支拂ハントスルニ手形所持人金貨ニアラサレハ受取ラスト云フ時ハ支拂人ハ其請求ニ應シ金貨ヲ以テ支拂フ義務ナキモノトス此時ハ支拂人ハ手形所持人ノ費用ヲ以テ銀行又ハ寄託所ニ流通貨幣ヲ以テ供託スルヲ得然シテ後日之カ爲メ損失ノ生シタル時ハ支拂人ハ其損失ヲ負擔スルヲナク手

形所持人ニ於テ負擔スヘキモノトス

第七百五十五條 支拂ハ第七百七十八條ノ場合ヲ除ク外ハ支拂人カ引受ヲ爲シタルト否トヲ問ハス満期日ニ支拂人ノ方ニテ之ヲ受クルモノトス  
支拂恩惠期日ハ之ヲ許サス然レトモ其地慣習ノ支拂日ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

本條ハ手形支拂ノ手續ヲ定メラレタルモノニシテ支拂人ヨリ支拂ノ爲メ持參スルカ又ハ手形所持人ヨリ受取ノ爲メ赴ムヘキカ又若シ支拂ノ引受ヲナサル手形ノ支拂ヲ請求スルニハ何處ニ向テ請求スヘキヤヲ定メラレタルモノナリ而シテ手形支拂ハ義務者ナル支拂人ヨリ持參シ支拂ヲナスヘキモノニアラスシテ満期日ニハ手形所持人ヨリ其引受ヲナシタルト否トニ關セス支拂人方ニ於テ受取ルヘキモノトス尤モ第七百七十八條ノ如ク支拂人ト支拂フヘキ場處及ヒ支拂人ヨリ指示セラレタル人アルトキ



ハ其ノ場所ニ於テ支拂人ニ呈示シ受取ルヘキ義務アルモノトス斯ノ如ク  
 法定シタル理由ハ手形ハ融通ノ爲メ發行スルモノニシテ何人ヨリ何人ニ  
 轉帳セシヤ霍拂人ニ於テ知ルヘキ由ナケレハ若シ支拂人ヨリ持參シ義務  
 辨濟スヘキモノトスレハ何處ノ何人ニ持參シテ可ナルヤ取調上困難スヘ  
 キカ故所持人ナル權利者ヨリ受取リ手續ヲナスノ義務アルモノト定メラ  
 レタルナリ

又タ支拂期日<sup>オシケイキジツ</sup>后三日間ハ支拂人ノ爲メ恩惠期日トシテ支拂期日内ニ認ム  
 ル外國モアレトモ本國ニ於テハ斯ル期間ヲ與ヘサルモノトス然レモ土地  
 ノ習慣ニテ例ヘハ一週間内水曜日木曜日ノ外金員ノ支拂ヲナサ、ル習慣  
 アルトキハ其習慣ニ從ヒ水曜日又ハ木曜日迄猶豫期日トスヘキモノトス

第七百五十六條 滿期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其後ノ

業日ヲ以テ支拂トス

本條ハ滿期日則チ支拂日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其次ノ業日ニ支拂フ

ヘキモノトス一般ノ休日ハ日曜大祭ヲ指シタルモノナリ則チ之ノ休日カ  
 支拂ナレハ其翌日カ若シ又翌日モ大祭ナレハ其翌々日ニ於テ支拂フヘキ  
 モノトス

第七百五十七條 一覽拂爲替手形ハ呈示ノ日ニ滿期トナル

若シ日附後二ケ年内ニ呈示ヲ爲サ、ルトキ又ハ二ケ年内  
 ノ呈示期間ヲ其手形ニ定メサルトキハ日附後二ケ年ヲ以  
 テ滿期ト爲ル若シ正當ノ時期ニ呈示ヲ爲サ、ルトキハ所  
 持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還諸求權ヲ失フ  
 本條ハ一覽拂手形ノ支拂期日ヲ定メラレタルモノナリ一覽拂ノ手形ハ文  
 字夫レ自ラノ如ク手形一覽次第支拂フヘキ旨記載セラレタルモノナレハ  
 支拂ノ爲メ呈示セラレタル其日ハ即チ支拂期限トナルモノナリ此手形ヲ  
 所持スルモノハ何時ニテモ呈示スルヲ得レモ手形ニハ種々錯誤ヲ來ス  
 恐レアリ且ツ其手形支拂濟ナル迄支拂人ニ於テ支拂金準備シ置カサルヘ



カラス故ニ若シ支拂期限ノ最長期ヲ定ムルコトナキトキハ支拂人ノ迷惑頗ル甚タシカルヘシ茲ニ於テ法律ハ二ケ年ヲ以テ最長期トス二ケ年以内ニ於テ呈示スヘキ記載ナキトキハ手形振出日付二ケ年ヲ以テ滿期日トス之ノ二ケ年内ニ所持人支拂ノ爲メ呈示スヘク之ヲ怠リタルトキハ裏書人及振出人ニ對シ償還請求ノ權利ヲ失フモノトス而シテ此場合ニハ支拂人ハ爲替金ノ紛失及ヒ盜難其他ノ危険ヲ避ケンカ爲メ所持人ノ費用ヲ以テ爲替金ヲ寄託スルコトヲ得ルモノトス寄託中該金ノ紛失盜難セラレタルトキハ手形所持人則チ債權者ノ損失ニ歸スルモノナリ

第七百五十八條 債權者カ爲替金額ヲ滿期日ニ受取ラサルトキハ支拂人ハ債權者ノ費用及ヒ危険ニテ其金額ヲ供託所ニ寄託スルコトヲ得此場合ニ於テハ支拂人ハ置シキ怠慢ニ付テノミ責任ヲ負フ  
凡ソ金錢ヲ自己ノ手元ニ備ヘ置ク程危険ナルコトナシ譬ヘハ紛失盜難及ヒ

燒失等種々ナル損害ノ生スルモノナレハ支拂フヘキ金員ハ速カニ支拂フハ義務者ノ得策ナリ故ニ通常ノ借金ナレハ速ニ返金センカ爲メ債權者ノ宅ニ持參シ返濟スルコトヲ得レトモ手形ニ於テハ何人カ手形ノ債權者ニシテ所持シ居ルヤ知ルコトヲ得サルモノナレハ持參シテ支拂ハントスルモ支拂フコト能ハス然レトモ自分ノ手元ニ置クトキハ如此不測ノ危険ニ際會スル恐レアリトス之ノ際ハ義務者ノ爲メ供託所ニ寄託シ置クコトヲ以テ尤モ安全ナリトス然シテ如此寄託スルノ必要ヲ來シタルモノハ債權者ノ怠慢ヨリ來ルモノナレハ其費用及ヒ危険ハ總テ債權者ニ於テ負擔スヘキモノトス尤モ其寄託スルニ際シ支拂人ニ於テ甚ダシキ怠慢例ヘハ今ヤ破産セントスシ世評高キ銀行ヲハ一座ノ取調ナク同銀行ニ寄託シ而シテ世評違ハス破産シタル場合ノ如キハ支拂人ニ於テ其損失ニ任セサルヘカラス蓋シ如此損失ハ自己ノ怠慢ノ直接ナル原由ヨリ來リタルモノナレハ支拂人ニ於テ負擔スルハ至當ナリ



第七百五十九條 債權者ハ滿期日前ニ支拂ヲ受クル義務ナシ若シ滿期日前ニ支拂ヲ爲シタルトキハ債務者其危險ヲ負擔ス

本條ハ手形ノ支拂期日以前ニ手形處持人ニ於テ支拂ヲ受クル權利及ヒ義務ナキ旨ヲ定メラレタリ抑モ手形ノ處持人ハ期日前ニ手形金ヲ受取ルハ<sup>ヒソシヤク</sup>皮想上利益アリテ損失ナキカ如シト云ヘ<sup>モ</sup>然ラス蓋シ現金ハ<sup>過</sup>過誤ノ生シ易キ危險多キモノナレハ<sup>シメ</sup>屢々不慮ノ災難ヲ蒙ル<sup>コト</sup>アル故ニ或場合ノ如キハ現金トシテ處持スルヨリ手形トシテ處持スルノ利益ナルヨリ特更ニ現金ヲ手形トシテ處持スル等ノ<sup>コト</sup>間々アルモノナリ然ルニ未タ期日ノ來ラサルニモ係ラス支拂人ヨリ現金ヲ捉借セラルレハ受取ル義務アルモノトスレハ其迷惑<sup>イワズ</sup>ナカラサルヘシ然レトモ支拂人及ヒ處持人任意ニテ授受スル<sup>コト</sup>ハ法律ニ於テ禁セス此際損失ノ生シタル時ハ支拂人ハ其損失ヲ負擔スヘキモノトス例ヘハ支拂期日以前ニ支拂ヲナシタル期日ニ至リ其手

形如何セシヤ再ヒ流通シテ第三者ノ手ニ存在シ支拂請求ヲ受ケタルカ又ハ其期日ニ至リ正當ノ所持人手形ノ盜難ヲ<sup>ハツク</sup>發見シタルカ如キ場合ニ於テハ支拂人ハ自分ノ責任ヲ以テ支拂ヒタル故再度ノ支拂ヲ負擔スヘキモノトス抑モ支拂ヲ受クル義務ナキモノニ強テ支拂ヲ<sup>シヨウダク</sup>承諾セシメタルハ支拂人ノ利益ヨリ危險ヲ<sup>カ</sup>昌シタルモノトスレハナリ

第七百六十條 債務者ハ滿期ノ時又ハ後ニ支拂人ニ支拂ヲ爲スヲ以テ其責<sup>セ</sup>ヲ免カル但シ其際債務者ニ甚シキ怠慢アリタシキ怠慢アリタルトキハ此限ニ在ラス

本條ハ支拂人カ支拂期日又ハ其期日後ニ手形所持人ニ支拂ヲナセハ手形ニ對スル責任ヲ免ル、モノトス然レトモ支拂ノ際甚タシキ怠慢アル時ハ其怠慢ニ對スル責ニ任セサルヘカラス蓋シ支拂人カ手形金ヲ支拂フ際注意スヘキ事柄第一手形ノ處持人タル<sup>コト</sup>ヲ確<sup>カ</sup>ムル<sup>コト</sup>第二手形振出人ノ氏名實印ヲ調査スル<sup>コト</sup>第三裏書人ノ氏名及ヒ捺印ヲ調査スル<sup>コト</sup>第四裏書ニハ



ナキヤ否第五手形ニ支拂金受取リタル旨ヲ記載セシメ氏名捺印セシ  
 第六其手形ヲ受取リ置ク之レナリ此等ノ一ニ付キ甚シキ怠慢アル  
 ハ其怠慢ニ對シ責任ヲ負フモノトス

七百六十一條 支拂人受取證ヲ證シタル爲替手形ノ交付  
 ト引換ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

債權者ハ一分ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス但一分ノ支拂ノ場  
 合ニ在テハ爲替手形ニ其支拂ヲ記入シ且其支拂ニ付テノ  
 別段ノ受取證ヲ債務者ニ交付ス可シ

本條ハ手形處持人カ手形金ヲ受取ニハ受領シタル旨ノ文字ヲ手形ニ記入  
 シ而シテ典手形ヲ引換ルニアラサレハ爲替金ヲ受ルコト能ハサル旨ヲ定メ  
 ラレタルモノナリ第二項ハ手形權利者ハ債務者カ手形ノ一分ノ支拂ヲ拒  
 ムコトヲ得ス何程少ナキモ必ス受取ラザルベカラス此場合ニハ手形面ニ受  
 取リ高ヲ記入シ別段ニ受領證ヲ支拂人ニ交付スヘキモノトス

本條ノ現今ハ手形ノ趣意ニ反シタルモノナレハ權利者ノ權利ヲ害セス各  
 債務者ノ受益スルモノナレハ一分ノ支拂ニテモ必ス受取ラサルヘカラズ  
 ト法定セラレタルモノナリ如何トナレハ爲替上ノ義務ハ各連帶義務ナル  
 ハ其内金何程ニテモ入金スレハ之ヲ支拂ヒタル以後裏書人夫レ才ケ責任  
 カ輕クナリ而シテ之レカ爲メ債權者ノ權利ヲ減殺セラル、等ノ不利スル  
 コトナケレハナリ

第七百六十二條 爲替手形ヲ數通ニシテ振出シタルトキハ  
 債務者ハ其中ノ孰レニ依リテ支拂ヲ爲スモ此ニ因リテ責  
 ナ免カル然レモ裏書アリ一通又ハ支拂人ノ引受ヲ記シタ  
 ル一通ヲ所有者トシテ占有スル第三者ノ權利ヲ妨ケス  
 第七百十條及ヒ第七百十一條ノ規定ハ一爲替手形ノ數道  
 ノ引渡及喪失ニモ之ヲ適用ス

本條ハ第七百四條ノ規定ヲ履ミ副本手形數通ヲ振出シ置キタル時ハ債務



者ハ其何レニヨリテ支拂フモ其責ヲ免ル、モノトス如何トナレハ手形ハ一ノ合意ノ證據タルニ過キサレハ一ノ合意ニシテ其義務ヲ履行スレハ例ヘ其證據タル副本幾通アルモ再ヒ其義務ヲ履行スヘキ理由ナケレハナリ然レモ支拂ヒタル以外ノ副本ニシテ若シ夫レニ裏書アルカ又ハ支拂人ノ引受アリタル時ハ其副本所持人ノ權利ヲ妨ケサルモノトス蓋シ支拂引受ヲ記入シタル時ハ支拂人ハ確定シタル義務者トナリ必ス之レニ對シ支拂フヘキ義務アルモノナリ故ニ如此引受ヲ記シタル手形アル時ハ其引受記入ノ手形以外ニヨリ支拂ヲ受ケタル手形所持人ニ對シ擔保ヲ提洪スヘキヲ請求ス若シ手形所持人ニ於テ擔保ヲ洪セサル時ハ支拂人ハ手形支拂ノ義務ナキモノナレハ爲メニ他手形ニ對シ再度ノ請求ヲ受クルモ別段損失ヲ蒙ルコトナク又タ引受ヲ記サル裏書ナル副本ノ手形所持人ハ支拂人ヨリ支拂拒絕セラル、モ自分ヨリ以前ノ裏書讓渡人ハ充分責任ヲ以テ裏書讓渡セシモノナレハ譽ヘ支拂人カ他ノ正本ノ手形ニヨリ支拂ヲ

ナスモ之レカ爲メ裏書讓渡人ニ對シ償還請求ヲナスノ權利ヲ妨ケラルヘキモノニアラス

本條第二項ハ第七百十條ニ規定セラレタル原因ノ消滅シタル手形引渡ヲ受ケタルモノ及ヒ第七百十一條ニ盜難粉失滅失シタル無効ノ公示ヲナセシ數通手形中全体又ハ其内一通ニ對シテハ第一項同様ナリトス

第七百六十三條 引受人ハ一爲替手形ノ數通中ニテ其引受ヲ記セサルモノニ對シテハ擔保ヲ供セシメタル上ニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ引受ヲ記シタル爲替手形數通アル場合ニ在ラス之ヲ合シテ引渡サ、ルトキモ亦同シ若シ擔保ノ提供ヲ爲スニ拘ハラズ引受人カ支拂ヲ拒ム時ハ所持人ハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

本條ハ一ノ手形中第一番第二番第三番ト數通振出し置キタルモノニテ引受ヲ記セサル手形ヲ以テ支拂ヲ請求スルモノアル時ハ後日引受ヲ記シタ



ル手形ヲ以テ支拂ヲ請求ヲ受ケタル時ニ支拂ヲナサズバナラヌ危険ヲ擔保セシ上ニアラサレハ支拂ヲナスノ義務ナキモノトス又タ引受ヲ數通ニ記シ置キタル時ニハ其數適合シテ來ルカ又タ後日他ノ請求ヲ補フ丈ノ擔保ヲ受クルニアラサレハ支拂ヲナスノ義務ナキモノトス如此セサレハ支拂人ハ再度支拂フカ如キ不幸アルヲ以テナリ然シテ手形處持人之ノ現定ヲ遵守シ擔保ヲ供シテ支拂ヲ請求スルモ支拂人ニ於テ支拂ヲナサル時ハ再度支拂ノ危険ヲ恐ル、ニアラスシテ支拂ヲ承諾セサルモノナルニヨリ直チニ拒證書ヲ作ルヲ得ルモノトス

第七百六十四條 滿期ノ時又ハ後ニ於テ爲替手形上ノ正當ノ所持人ニ爲ス支拂ハ其所持人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ限り裁判所ノ命令ヲ以テノミ之ヲ差押フルコトヲ得

本條ハ正當所持人ノ權利保證ノ條ナリ支拂滿期日ノ手形所持人ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ第七百十條則チ手形ノ原由ノ消滅シタル時無効ノ公示ヲナシタル場合ニ限り裁判所ノ命令ヲ以テノミ其支拂ヲ差押フルヲ許シ其外ハ如何ナル手續ヲ以テスルモ差押フルヲ得サルモノトス蓋シ手形ハ證券中尤モ信用ヲ有シ法律ハ可成流通ヲ欲スルモノナリ然ルニ濫シニ其支拂ヲ差押フルヲアリテハ手形ノ發達ヲ障礙スル事故裁判所ニ其事實ヲ申告シ而シテ裁判所ノ判斷ヲ以テ一應理由アリトセラレタル場合ニ限り全所ノ命令ヲ以テ而已差押フルヲ得ルモノトセハ破産宣告家資分散ノ場合ニ於テハ法律ハ財産上ニ於テ能力ナキモノト認ムルモノナリ

又第七百十條及ヒ第七百十一條ハ一ハ手形ノ原由消滅シ一ハ不正ノ手形タルヲ以テ之レ又支拂差押ヲナスヲ得ルモノトス

第七百六十五條 支拂ニ對シ前條以外ノ方法ヲ以テスル故



障シヨウ又ハ債務者ノ知ラサル人ニ爲ス支拂ニ付テハ第四百條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

本條ハ手形支拂人カ手形拂金ヲ受ケタル時前條以外ノ故障ヲナシ又ハ知ラサル人ニ拂渡シチナスニ就テハ第四百條ヲ適用スルト云フコトナリ假ヘハ爲替ノ所持人死亡シテ相続人數人アリテ未タ確定セサル時又ハ其相続人定リタルモ幼者ナリシ時又ハ其爲替ヲ婦人ニ讓渡シタル場合ニ於テ婦人カ他人ト結婚シタルトキノ如キハ皆ナ獨立シテ受取ノ權利ナキモノナリ或ハ又タ粉失シタル手形盜取セラレタル手形ヲ以テ支拂ヲ請求スルモノアル時ハ細密ノ取調ヲ要スルモノトス如此場合ニハ第四百條指圖證券ノ發行人ハ呈示人ノ眞偽ヲ調査スルノ權利アルモ其義務ナシ然レトモ惡意又ハ甚タシキ怠慢ニ付テハ此カ爲損害ヲ受ケタル者ニ對シテ其實ヲ負フヨリ支拂人ハ調査スルノ權利アルモノトス然レモ法律ハ支拂人ニ必ス如此調査セサルヘカラサル義務ヲ負ハシメサルヲ以テ顯然タル瑕疵ノ外

一應正當トシテ支拂ヒタル時ハ支拂人ニ於テ其損失ヲ負擔スルコトナシ

### 第七百六十六條 第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ在

テハ爲替手形ニ付キ自己ノ所有權ヲ説明シ且裁判所ノ命令ヲ得タル者ハ判決ノ確定前ニ擔保ヲ供シテ爲替金額ノ支拂ヲ求メ又ハ擔保ヲ供セスシテ爲替金額ヲ供託所ニ寄託スルヲ求ムルコトヲ得此寄託ノ場合ニ在テモ第七百五十八條ノ規定ヲ適用ス

手形ハ元來商業資金ノ融通ノ爲メ發行セラル、モノニシテ殆ント所持人ハ現金ヲ有スルト差異ナキモノナリ故ニ謂ナキ故障ヲ以テ支拂ヲ拒絕セラル、カ如キハ其迷惑尠カラサルヲ以テ法律ハ支拂差押ヲ僅少ノ場合ニ於テ而已許セリ本條ハ此主意ヲ貫徹センカ爲メ定メラレタルモノニシテ譬ヘハ手形ハ成立ノ原由ヲ失ヒ又ハ盜難紛失等ニ係ルモノナリト爭ハル、モ裁判所ニ對シ手形所持人カ自分ニ慥ナル處有權アルコトヲ疎明シ裁判



所ノ命令ヲ得タル時ハ裁判カ確定セサルモ其手形ニ對シ擔保ヲ供託シテ  
 拂金ヲ受取ルコトヲ得ス保證書ヲ出サスシテ銀行其他供託所ニ支拂人ヲシ  
 テ裁判落着スル迄納メシムルコトヲ得ルモノトス此場合ハ第七百五十八條  
 ニ基キ處持人カ之レ等ノ費用ヲ出シ且ツ損失等ノ危險ヲ負擔スヘキモノ  
 トス尤モ寄託スル際ニ支拂人非常ナル怠慢アル時ハ其怠慢ニ對シテハ支  
 拂人損失ヲ負擔セサルヘカラス蓋シ支拂人ニ於テ少シク注意スレハ斯ル  
 損失ノ來ルコトナキニ其注意ヲ怠リタルモノナレハ法律上自己ノ怠慢ヨリ  
 來ル處ノ損失ヲ他人ヲシテ賠償セシムルノ理ナケレハナリ

第七百六十七條 支拂人カ正當ノ理由ナクシテ滿期日ニ爲

替金額ノ支拂又ハ寄託ヲ拒ムトキハ所持人ハ其次ノ業日  
 ニ拒證書ヲ作り且所持人カ償還請求ヲ爲サント欲スル者  
 ニ拒證書ノ作成ヲ通知スルコトヲ要ス然レモ所持人ハ爲  
 替手形ニ明記アルニ因リテ拒證書作成ノ義務ヲ免カルル

コトヲ得

本條ハ支拂人カ滿期日ニ於テ正當ノ理由ナク支拂ヲ拒ミ且寄託ヲモナサ  
 ル時ハ處持人ハ其次ノ業日マテニ拒證書ヲ作り連帶義務者中其何レニ  
 テモ償還請求ヲナサント欲スルモノニ拒證書作成ヲ通知スルモノトス其  
 拒證書作成ヲ通知スル理由ハ償還請求ヲ受ケタルモノハ自分ヨリ前ナル  
 義務者ニ對シ償還請求ヲ受クルニ手形不渡ノコトヲ通知セサルヘカラサル  
 故ナリ然レモ手形面ニ拒證書ヲ作ルニ及ハサル旨記シアル時ハ拒證書ヲ  
 作ルニ及ハス但シ手形處持人ニ於テ拒證書作成ノ義務ヲ免除シタル以後  
 ノ裏書人ニ對シ請求スル時ハ同様拒證書ヲ作成スルニ及ハサルモ若シ其  
 裏書以前ノ人ニ對シ償還ヲ受ケント欲スル時ハ第一項ノ如ク拒證書ヲ作  
 リテ之ヲ通知スベキモノトス

第七款 榮譽支拂

榮譽支拂



元來手形ハ信用ニヨリテ流通スルモノナレハ振出シタル手形カ故障ナリ支拂人ヨリ支拂ハル、ヲ以テ名譽トスルモノナリ然ルニ不幸ニシテ不渡トナリ振出人又ハ裏書人ニ償還ヲ請求セラル、カ如キ事アリテハ振出人ハ勿論之ニ經由セシ裏書讓渡人ノ名譽不信用ヲ來ス、甚シク再ヒ之ノ有<sub>キ</sub>益ナル商業機關ニ假リ資本ノ融通ヲナサントスルモ流通ノ途ヲ失スル、アルヘシ故如此場合ニ於テ振出人又ハ裏書讓渡人ノ名譽ヲ維持スル爲メ友人親戚又ハ取引先ニ於テ支拂引受ヲナスモノ則チ榮譽引受人トス蓋シ本款ハ支拂人ニ於テ苦情ナク支拂ハル、ニ於テハ設クルノ必要ナキモ人事百般實事ニ就テハ豫想セサル出來事族出スル故ニ萬一ノ場合則チ支拂人ニ於テ支拂ハサルトキハ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メ代テ支拂ヲナス時ノ規定ヲ定メラレタリ

第七百六十八條

拒マレタル爲替手形ハ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽引受人支拂人又ハ第三者之ヲ支拂フヲ得

一旦支拂人ニ以テ支拂ヲ拒マレタル手形ヲ振出人裏書讓渡ノ利益名譽ノ爲メ支拂人又ハ第三者ハ支拂ヲナスヲ得ルモノナリ然シテ支拂人ニ於テ支拂ヲ拒ミナカラ榮譽引受トナリテ支拂ヲナストハ如何ニモ解セラレサルカ如シト雖モ大ナル理由アリテ存スルモノナリ抑モ支拂人トナリテ支拂ヲナス時ニハ單ニ爲替資金ヲ受取ルノ權利ニ止マリ併モ其資金ハ法律上ノ推測トシテ已ニ受取リタルモノトノ認定ヲ受クルヲ以テ舉證上ノ利益ナル地位ニ立ツモノナリ然ニ榮譽支拂人トシテ支拂ヲナスニ於テハ爲替所持人ノ權利則チ償還請求權ヲ繼承シ其舉證上ノ利益ナル推測ヲ受クルヲナキカ故ニ支拂人トシテハ支拂ヲ拒絶スルモ榮譽支拂人トシテハ支拂ヲナスモノ往々アル所以ナリ

第七百六十九條

豫備支拂人其他ノ參加人ノ引受ヲ記シタル爲替手形ハ拒證書作成ノ後直ニ榮譽引受人ニ支拂ノ爲メ之ヲ呈示スヘシ



本條ハ法式トシテ呈示ヲ命セラレタル條ナリ即チ手形面ニ支拂人ノ外ニ第一支拂拒絶ヲ受ケタルルノ豫備トシテ支拂人ノ記載アル時又ハ之ノ記載ナキモ支拂引受ヲ支拂人カ拒絶セシ時ニ第三者参加シテ榮譽ノ爲メ引受ケントノ申込アリ所持人之承諾ヲ與ヘ記名セシメタルルハ拒ミ證書ヲ作りタル后直チニ此人々ニ呈示スヘキモノトス若シ此人口ニ呈示セサル時ハ法式ヲ全フセサル者故振出人又ハ裏書ニ對シ償還請求ヲナスノ權利ヲ失フモノトス

第七百七十條 榮譽支拂若クハ其拒絶又ハ其提供ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ支拂拒證書又ハ其附箋記載スヘシ其拒證書ハ爲替手形ト共ニ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ榮譽支拂人ニ交付ス

本條ハ榮譽支拂ヲナシタルル又ハ其支拂ヲ拒絶セラレタルル及ヒ支拂アルヘキノ申込ヲナシタルルハ一々其場合ニ支拂拒證書又ハ其附箋ニモ記

載スヘキモノトス而メ其拒證書ハ手形支拂ヲ受ケタル時ハ拒證書ノ費用ヲ受取リ榮譽受拂人ニ渡スヘキモノトス蓋シ支拂人ハ之ノ證書ニヨリ裏書人又ハ振出人ニ對シ所持人ノ權利ヲ以テ償還請求ヲナスニ必要ナル書類ナレハナリ

第七百七十一條 榮譽支拂人ハ引受人振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ處持人ノ權利ヲ承繼ス但其權利ヲ主張スルニハ所持人ト同一ノ義務ヲ履行スルヲ要ス

本條ハ榮譽支拂人ノ權利ヲ定メラレタルモノナリ則チ榮譽支拂人ハ引受ヲナシタル支拂人手形振出人并ニ其手形ヲ裏書讓渡ヲナシタル讓渡人ニ對シテハ手形處持人ノ權利ヲ其繼承クヘキモノトス尤モ其權利ヲ行フニ付テハ所持人カ履行スヘキ義務例ヘハ拒證書ヲ作り又ハ費用計算書及ヒ償還請求ヲ受ケタシトノ通知書ヲ償還ヲ受ケタントスル者ニ對シ送附スル類之ナリ



第七百七十二條 榮譽支拂ハ受榮譽者ノ後者總員ヲシテ責

ヲ免カレシム

本條ハ榮譽支拂ヲナシタルキ手形上ノ義務ハ受榮譽者以後ノ裏書人ヲシテ其義務ヲ免カレシムルモノトス例ヘハ一郎カ二郎ニ向テ三郎ニ支拂フヘキノ爲替手形ヲ發シタルニ三郎ハ四郎ニ裏書讓渡ヲナシ四郎ハ五郎ニ五郎ハ六郎ニ讓渡シ六郎ハ滿期日ニ至リ二郎ニ對シ支拂ヲ請求シタルニ支拂ヲ二絶セラレタリ然ル處七郎ナル者アリ三郎ノ名譽ノ爲メ其手形金ヲ渡シタル場合ニ於テハ三郎以下四郎五郎六郎共爲替上連帶ノ義務ヲ免ル、モノトス如何トナレハ不渡トナリタル爲替上ノ義務ハ處持人ヨリ其處持人ニ讓渡シタル讓渡人ニ全部償還ヲ求メ漸次振出人ニ至リテ止マルモノトス一旦三郎ノ爲メ償還辨濟セシモノナレハ夫ヨリ以後ナル四郎五郎六郎ハ當然義務ヲ免カル、モノナリ

第七百七十三條 榮譽支拂ヲ提供スル者二人以上アルキハ

支拂人ヲ以テ榮譽支拂人トシ之ニ次テハ最も多數ノ義務者ヲシテ責ヲ免カレシムル者ヲ以テ榮譽支拂人トス

本條ハ支拂人ニ於テ拒マレタル手形ヲ拂込マント申込者二人以上アル時ハ先ツ支拂人ヲ以テ榮譽支拂人トス其次ハ尤モ多ク義務者ノ義務ヲ免カシムルモノヲ以テ榮譽支拂人トナストノ意味ナリ支拂人ヲ以テ第一ノ榮譽支拂人ト定メラレタルハ支拂人振出人ノ依頼ヲ受ケ支拂ヲナスモノナレハ爲替義務者ノ尤モ多數ニ免除ヲ與フルモノナルヲ以テナリ然レトモ支拂人ニ於テ若シ振出人ノ爲メニ支拂ヲナスニアラスシテ裏書讓渡人ノ爲メニ支拂ヲナスニ於テハ支拂人タル資格ニ於テスルニアラサル一般參加人ト少シモ異ナル處ナキヲ以テ此場合ハ何レカ尤モ多數ノ義務者ノ責任ヲ免除スルヤ否ヲ調査シ定ムヘキモノトス

第七百七十四條 處持人ハ榮譽支拂ヲ受クルヲ拒ムニ因リテ受榮譽者及ヒ其后者ニ對スル償還請求權ヲ失フ



本條ハ爲替所持人ハ榮譽支拂ヲナサントスル者ニ對シ其支拂ヲ拒絕シタル時ハ其拒絕セラレタル受榮譽者及ヒ其以後ノ裏書人ハ榮譽支拂ヲ爲シタルト同シク一同其義務ヲ免カル、モノトス蓋シ所持人ハ其何人タルヲ論セス手形金ヲ受取ルヲ以テ其目的ヲ充テシモノナルニ自ラ好デ其支拂ヲ拒絕セシモノナレハ再ヒ之ニ向テ請求スルノ權利ヲ失フハ當然ナリトス然レモ如此場合常ニアルニアラスシテ尤モ稀ナルヘク例ヘハ非常ナル好事家ニテ何トナク之ヲ拒ムカ又ハ受榮譽者ハ親戚朋友又ハ恩人ニシテ此等ノ人ニ迷惑ヲ掛ケ危險ヲ蹈マシムルヲ好マサルハ之レヲ拒絕スルコトアルヘシ或ハ然ラスシテ振出人ト計算上其爲替金ヲ受取ルニ於テハ更ニ送致スル手數ヲ除クノ好都合ナル時ニ於テモ亦タ拒絕スルコトアルヘシ此等ノ場合ハ受榮譽者及ヒ其以後ノ裏書渡人ニ對シ償還請求權ヲ負フモノトス

第八款 償還請求

手形ハ振出人ノ手ヨリ出テ支拂ニヨリテ其効用ヲ止ムルモノナリ然レモ若シ支拂人ニ於テ手形處持人ニ對シ満足ナル支拂ヲナサ、ル時ニハ如何スヘキヤ斯ル場合ニ債權者ノ權利ハ裏書人及ヒ振出人ニ對シ爲替金額并ニ不渡ニ係ル費用一切ノ償還ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス然シ此ノ請求ヲナスニハ種々ナル法式ヲ守ルヘキヲ要ス則チ本款ニ於テ其守ルベキ法式ヲ定メラレタリ

第七百七十五條 支拂人カ滿期日ニ爲替手形ノ支拂ヲ爲サ、ルトキハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ爲替金額及ヒ其利息並ニ不拂ニ用リテ出シタル一切ノ費用ニ付キ償還請求權ヲ有ス

爲替上ノ義務ハ手形ノ經過セシ各人ニ於テ連帶ノ義務ヲ負フモノトス故ニ支拂人ニ於テ若シ支拂ヲナサ、ル時ハ手形所持人ハ總テノ裏書讓渡人



及振出人ニ對シ爲替元金ニ勿論其利子并ニ不渡ニ因リテ生ジタル一切ノ費用例ヘハ引受及ヒ支拂ノ拒證書作成ノ費用辰爲替ノ費用手形相場ノ損失等一切ノ償還ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

第七百七十六條 所持人ハ爲替手形ヲ滿期日ニ支拂ノ爲メ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲サ、ルトキハ滿期日ノ次ノ業日ニ支拂拒證書ヲ作ル可シ但第七百六十一條第二項ニ掲ケタル一分ノ支拂ノ場合ニ於テモ亦同シ

本條償還請求ヲ受ケントスルニハ先ツ支拂滿期日ニ所持人ハ支拂ヲ受クルカ爲メ支拂人ニ手形ヲ出シ示スベシ此際支拂人ガ全部ヲ支拂フニ於テハ所持人モ満足スルヲ以テ受取ノ證ヲ記シ手形ヲ渡セハ夫レニテ事終局スルモ若シ支拂人其支拂ヲ拒ムカ又ハ一部分ヨリ支拂ナキ時ハ所持人ハ償還請求ヲナスガ爲メ猶豫ナク直チニ又ハ其翌日ニ於テ拒證書ヲ作ルヘシ之ノ手續ヲ怠リタルモノハ償還ノ權利ヲ失フモノトス然シテ手形ニハ

三月三十一日支拂フヘキ旨記載アリテ引受ノ爲メ呈示シタル時支拂人カ三月三十一日ハ差支アルヲ以テ更ニ四月二日ニ相違アリ支拂ヲ支拂期日ヲ變更シタル時ニモ所持人ハ償還請求ヲ受クル爲メニハ三月三十一日呈示シ直チニ拒證書作成スヘキモノトス如何ントナレハ四月二日ト變更セシハ支拂人所持人トノ約束ニシテ手形振出人及ヒ裏書人等ノ關知シタルコニアラサレハナリ故ニ若シ之ノ期日ヲ怠レハ例ヘハ四月二日ニ呈示シ拒證書ヲ作ル等時ハ償還請求權ヲ失フモノトス

第七百七十七條 支拂拒證書ハ既ニ引受拒證書ヲ作りタルハトキニモ債務者カ死亡シ又ハ破産若クハ家資分散ヲ受ケ又ハ其所在ノ知サルトキニモ之ヲ作ルヘシ

支拂拒證書ハ償還請求ノ爲メ方式上必要ノモノトス換言スレハ手形ノ不渡ハ拒證書ヲ以テノミ證據立ツルコトヲ得ルモノナリ手形上ノ義務ハ通常債務ト異ニシテ連關スルモノハ總テ連帶義務ヲ負ヒ且ツ其手形ニ満足セ



ラルトセラレサルトハ其連關セシ振出人及ヒ裏書人ノ名譽信用ニ關スルヲ至重ナルモノナリ故ニ不渡ヲ證スルニモ徹重ナル方式ヲ要ス之ノ原則ヲ基キ嚴格ナル拒證書ヲ以テノ外證據立ツルヲ得サルモノトス支拂拒證書ハ假令ヒ引受拒證作成シタル時ニテモ作ラサルヘカラス如何ントナレハ引受ノ際ニハ爲替資金ノ來ラサルヨリ拒ミタルコアルモ支拂滿期日ニ振出人ヨリ既ニ資金ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ支拂ニ應スルコアルヘシ故ニ念ノ爲メ必ス支拂ノ爲メ呈示スヘキモノトス隨テ支拂拒絶ノ節ニモ亦タ之ヲ證スルニ拒證書ヲ作ルヘキモノトス又タ支拂人カ死亡シタル時或ハ身代限リヲナシタル時ハ支拂ヲ爲ス能力ヲ失フモノ故之レ又タ拒證書ヲ作ルヘキモノトス

第七百七十八條 引受人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ滿期日ニ於ケル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ要セス然レトモ他所拂爲替手形ハ他所拂人若シ他所拂人ノ記載ナキトキ

ハ支拂人ニ其爲替手形ヲ支拂フ可キ地ニ於テ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲サルトキハ同地ニ於テ拒證書ヲ作ル可シ

本條爲替所持人カ支拂ヲ引受ケタル引受人ニ對シ爲替上ノ權利ヲ主張スルニハ別段支拂期日ニ支拂ノ爲メ差示シ又ハ不渡ノ節拒證書ヲ作ルコトハ必用ニアラサルモノトス何ントナレハ引受人ニ於テ一旦引受ニナレハ直接ノ義務者トナルコトヲ承諾シタルヲ以テ之ノ人ニ對スルニハ別段斯ル手數ヲ要セサレモ若シ支拂引受ヲナシタルモ特ニ支拂フヘキ人ヲ差圖シタル時(他所拂人爲替手形)又ハ引受人ト支拂人ト同人ナレモ支拂フヘキ地ヲ異ニシタル時(例ヘハ支店ニ於テ支拂フト云フ如キ場合)ハ他所支拂人又ハ支店ニ到テ滿期日ニ呈示スヘキモノトス蓋シ如此規定セラレタルハ引受人ニ於テ他所支拂人又ハ支店ニ於テ指示シタル通り支拂ヒタルヤ否ハ計算上甚タ必要ニシテ之レヲ知ラサルカ爲メ不慮ノ損害ヲ蒙ルコトアルヘキ



ヲ以テ呈示スヘキモノトス然シテ若シ拒マレタル時ハ拒證書ヲ作り直ニ引受人ニ通知シ不渡トナリタルヲ承知セシムルノ要アレハナリ

第七百七十九條

引受人カ破産家資分散ノ宣告ヲ受ケ其他資カノ確ナラサルニ至リタル場合ニ於テ爲替支拂ノ爲メ十分ナル擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ滿期日前ニ支拂拒證書ヲ作りテ償還請求ヲ爲スコトヲ得

本條ハ便宜上且ツハ手形所持人ヲ保護スル爲メニ設ケラレタル條ナリ本條ノ如キ場合ニハ到底支拂期日ニ至ルモ支拂ヲナスノ見込ナキ而已ナラズ家資分散又ハ破産セシモノハ法律上財產ニ關シテハ全ク無能力者ト認ムルヲ以テ支拂期日ヲ待ツノ必要ナク且ツ如此境遇ニ陥リタル事ヲ振出人ニ告知スルニ於テハ爲替資金ヲ送致ニ付キ注意ヲナス等ノ好都合モアルヲ以テ旁々處持人ヲシテ支拂期日前ニ拒證書ヲ作り償還請求ヲナスコトヲ許シタルモノナリ

第七百八十條

所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ノ各員又ハ總員ニ對シ償還請求ヲ爲スコトヲ得又償還請求ヲ受ケタル裏書讓渡人ハ其前者ニ對シテ同一ノ權利ヲ有ス

本條ハ爲替所持人ノ償還請求權ハ振出人及裏書讓渡人ニ對シテハ全員ニ連帶ノ請求ヲナスモ各員則チ振出人又ハ裏書讓渡人ノ内一人又ハ數人ニ對シ全部請求ヲナスコトヲ得ヘキモノトス而シテ裏書人之ヲ償却シタル時ハ更ニ其裏書人ハ自己ヨリ以前ノ裏書人又ハ振出人ニ對シテハ所持人同様償還ノ請求ヲナスノ權利アルモノトス

第七百八十一條

償還請求ヲ爲ス者ハ第七百三十九條ノ規定ニ依リテ引受拒證書作成ノ通知ヲ爲シタルニ拘ハラス尙其償還請求ヲ爲サント欲スル前者ニ書面ヲ次テ其請求及支拂拒證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス其通知ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作りタル日ノ翌日裏書讓渡人ハ所持



人ニ在テハ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日之ヲ爲ス可シ但  
裏書讓渡人ノ通知ハ其後者ノ爲メニモ効力アリ

本條ハ償還請求ヲナス時ハ方式トシテ權利者ニ於テナスヘキ行爲トス則  
チ第七百三十九條ニヨリ一旦引受ノ爲メ呈示シ支拂人ヨリ引受拒絶セラ  
レタルヲ以テ直チニ拒證書ヲ作り裏書人及ヒ振出人ニ對シ右ノ趣キヲ通  
知シ置キタルニモ係ラス更ニ支拂拒絶セラレタル時ハ其償還請求ヲナサ  
ントスルモノニ對シ償還ヲ受ケ勾シトノ請求及ヒ支拂拒絶ノ拒證書ヲ作  
リタル趣キ通知スヘキモノトス而シテ之ヲナスヘキ期日ハ所持人ニアリ  
テハ拒證書ヲ作りタル翌日其償還請求ヲ受ケタル裏書人ニ於テハ通知書  
ヲ受ケ取リタル日ノ翌日ニ償還ヲ受ケントスルモノニ知通スヘキモノト  
ス而シテ之ノ通知ハ通知ヲ受ケタル人ノ以後裏書人ニ對シ有効ナルモノ  
トス例ヘハ甲カ乙ニ對シ丙ニ支拂フヘキ爲替手形ヲ振出シ丙ハ丁ニ丁ハ  
戊戌ハ庚ニ裏書讓渡シタル場合ニ期日ニ至リ庚ナル所持人乙ニ支拂對シ

請求ヲナシタルニ支拂ヲ拒絶セリ依テ償還請求ヲ受ケン爲メ戊ニ拒證書  
作成ヲ通知シ且償還請求ヲナシタリ戊ハ自分獨リニテ損失ヲ負擔スヘキ  
モノニアラサルヲ以テ其前者全員又ハ自分ノ撰擇ニヨリ何人ニモ償還請  
求及拒證書作成ノ通知ヲナスコトヲ得ルモノトス然シテ戊ニ於テ果シテ  
自分以前ノ裏書人ニ對シテ請求及ヒ通知ヲナシタル時ハ之請求及知通タ  
ル庚ニ對シテモ有効ナルモノ故庚ハ其知通ヲ受ケタル前者一同ニ對シ償  
還請求權ヲ有スルモノトス

第七百八十二條 前者ニ對シテ償還請求ヲ爲シタルモ此カ

爲メニ其後者ハ其償還義務ヲ免カレヌ

本條ハ手形債權者ニ於テ飛越ノ請求ヲナタル場合ニ於テモ猶ホ其飛越サ  
レタルモノカ其義務ヲ免カル、ヲ得サルモノトス例ヘハ處持人ナル庚カ  
裏書讓渡人丁及丙二人ニ對シ拒證書ノ作成及ヒ償還請求ヲナシ戊ヲ飛越  
シタルモ之レカ爲メ戊ハ償還ノ義務ヲ免カレタルモノニアラス



第七百八十三條 拒證書作成ノ義務免除ニ因リテ拒證書作成ノ權利及ヒ償還請求權ハ消滅セス然レトモ此場合ニ於テ其免除ヲ爲シタル者ノ後者ニ在テハ其免除ヲ爲シタル者ニ對シ贍本ヲ以テ爲替手形ノ送付ヲ爲スト同時ニ書面ニテ償還請求ノ通知ヲ爲スヲ以テ足レリトス

本條ハ手形權利者カ爲替上ノ權利ヲ主張スルニハ必要行爲トシテ拒證書ヲ作ルヘキモノナルモ振出人又ハ裏書讓渡人ニ於テ若シ手形面ヲ拒證書ヲ作ルノ義務ヲ免除シタル時ハ之ヲ作ラサルカ爲メ免除シタル人ニ對シ償還請求權ヲ失フモノニアラサルモ免除セサル前者ニ對シテハ權利ヲ失フコトアル者ナリ裏書讓渡人ニ於テ拒證書ヲ作ルノ義務ヲ免除スルモ是レカ爲メ處持人ハ全員ニ對シ償還請求ノ權利ヲ失フモノニアラザルヲ以テ拒證書ヲ作り免除セサル裏書讓渡人及ヒ振出人ニ對シ請求及ヒ通知ヲナスコトヲ得ルモノトス又タ免除ヲ受ケタル人ニ對シ償還請求ヲナスニハ

拒證書ヲ必要トセサルモ手形ノ寫及ヒ償還請求書ヲ共ニ送ルヘキモノト

ス總テ如此方式上ノ通知又ハ贍本請求書ノ如キハ書留郵便ヲ以テ交付スルヲ尤モ便益ナリトス蓋シ往々履行セシヤ否ニ付キ爭論アルヲ以テナリ

第八百八十四條 法律第九條ヲ以テ削除

第八百八十五條 償還請求權ハ支拂人カ爲替金ヲ受取りタ

ルトノ抗辨ノ爲メニ効力ヲ失フコト無シ然レモ爲替資金ヲ供スル義務アル者ニ對シテハ其者カ爲替資金ヲ供セザリシトノ抗辨ヲ爲スコトヲ得

本條ハ爲替上ノ義務ハ嚴格ナルコトヲ示サレタルモノニシテ振出人ニ於テ支拂人ニ爲替資金ヲ渡シタルヲ以テ償還請求ニ應シ難シトノ故障ヲ採川セサルモノトス故ニ振出人ニ於テ誠實ナル受托者支拂人ヲ云フヲ撰擇スルコトヲ怠リ爲替資金ヲ送付シタル時ニ若シ不渡トナリタル時ハ其危険ハ振出人ニ於テ負擔スヘキモノトス尤モ振出人ヨリ受托者ニ對シ償還請求



求ヲナスノ權利アルハ勿論ナリ如此爲替上ノ義務ハ嚴格ナルモノニシテ對手間ノ事情ヲ以テ所持人ノ權利ニ故障スルヲ許ササレモ爲替資金ヲ差出スヘキ義務アルモノヨリスル請求ニ對シテハ爲替資金ヲ交付セサハ故支拂フノ義務ナシトノ故障ハ正當ナル申立故此ノ抗辨ハ請求者ニ對シ有効ナルモノトス蓋シ自分ニ於テハ爲替資金ヲ送付スル義務ヲ負ヒナカラ其受託者ニ對シ資金ヲ送付セス却テ其手形金ヲ受託者ヨリ受取ラントスルカ如キハ不正ノ甚シキモノナレハ之ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス

### 第七百八十六條 償還請求ハ左ノ額ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得

第一爲替金額及ヒ滿期日ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息

第二拒證書ノ費用其他必要ナル立替金

第三戻爲替ヲ振出シタルトキハ其費用

手形ハ他ノ證書ト異リ信用ヲ以テ融通セララル、モノナレハ豫メ法律ヲ以テ振出裏書支拂等ニ付キ方式及ヒ程度ヲ嚴定セサルヘカヲス本條モ之ノ原則ニ基キ償還請求ニ關スル不用ノ爭議ヲ避クル爲メ設定セラレタルモノナリ第一支拂期日ノ翌日ヨリ償還ヲ受クル日迄百分ノ十則チ一割ノ利率第二拒證書ノ費用其他必要ナル立替金例ヘハ公證人又ハ執達吏ノ手数料旅費費用及ヒ立會人ノ日常等拒證書作成スルニ必要ナル費用第三戻爲替ヲ振出シタルトキハ其費用則チ戻爲替ノ印紙代爲替相場等ノ如キモノナリ此ノ規定外ハ譬ヘ費用カ何程掛リタル事アルモ其費用ハ償還義務者ニ於テ支拂フノ責ヲナキモノトス蓋シ第一ヨリ第三迄ノ費用ハ手形不渡トナリタル場合ニ通常失費スヘキモノニシテ其他記載外ノ費用又ハ損失ハ普通ニ生スヘキモノニアラサレハ法律ハ如此嚴定シ萬一豫想外ノ失費損失等ヲ蒙リタルモノアリトスルモ其場合甚タ僅少ナルヘク此ノ僅少ナル未確定ノ費用損失アルカ爲メ一定ノ責任ヲ定メサル時ハ爭論絶テ止ム



時ナク手形ノ不信用ヲ來スニ至ルヘシ此レ稀有ナル費用ヲ以テ義務者ノ責任トセス普通ノ失費ヲ以テ限度トナシタル以所ナリ

第七百八十七條 法律九號ヲ以テ削除

第七百八十八條 償還義務者ハ爲替手形拒證書及ヒ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ

本條ハ償還義務者カ支拂義務アルハ勿論ナレモ爲替手形拒證書及ヒ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ受クル迄ハ支拂請求セラル、モ支拂ヲナス義務ナシトセラレタリ若シ本條ノ規定ナキニ於テハ爲替手形或ハ拒證書ノ交付ヲナス單ニ受取ル證アル計算書而已ヲ以テ支拂請求セラル、モ拒ムコト能ハサルニ至リ隨テ種々ナル詐欺ノ其間ニ行ハル、ノミナラス償還義務者ハ自分ヨリ以前ノ裏書讓渡人ニ對シ更ニ償還請求ヲナセシコト能ハサルニ至ル故ニ爲替手形及モ拒證書ノ交付ヲ必要トセシ以所ナリ

且ツ若シ其手形ノ支拂人ノ手ニ入ラス再ヒ第三者ノ手ニ百移スルコトアル時ハ其所持人ニ對シ再度ノ支拂ヲナサシバナラヌモノナレバ是非引渡ヲ受クヘキモノトス又タ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ受クルノ必要ハ自分ヨリ以前ノ讓渡人ニ對シテ償還ヲ請求スル時ノ爲替以外自分ニ於テ支拂ヒタル計算書ノ費用辨濟ヲ受クル爲メ必要ナル證據人其受取ヲ記シタル一切ノ計算書ノ交付ヲ受クルモノトス

第七百八十九條 爲替義務者ハ償還金額ノ支拂ト引換ニテ受取證ヲ記シタル爲替手形及ヒ支拂拒證書ノ交付ヲ所持人ニ求ムル權利アリ

本條ハ前條ノ原則ト同一ニシテ其向フ處ノ權利者ノ位置ヲ異ニシタル已而ナリ則チ前條ハ手形所持人ヨリノ償還義務者ニ對シ償還請求アリタル時ニ義務者ハ手形及拒證書又ハ受取ヲ記シタル計算書ノ提供ヲ受クル迄請求金額支拂ノ義務ナシトノ規定ナリ本條ハ若シ義務者カ償還請求ヲ受



ケサル前ニ於テ支拂ヲ時ハ自分ノ名譽又ヒ費用等ニ付キ夥多ノ利益アルヲ以テ支拂ヲナサントスル際ニハ手形及ヒ拒證書ノ引渡ヲ請求スルノ權利アルモノトス故ニ若シ權利者ニ於テ引渡ヲ拒ミタル時ハ償還義務者此ノ以後ニ生シタル損失及ヒ費用等ニ付キ責任ヲ負ハサルモノトス例ヘハ以後ニ生シタル利益寄托所ニ寄托セシ金員ノ紛失盜難戻爲替ノ費用及ヒ相場并ニ償還請求ヲナセシカ爲メ要シタル費用等之レナリ

### 第九款 拒證書作成

本款ハ手形ノ方式上拒絶セラレタルルルニ作成スルヲ要スル拒證書ノ規定ナリ手形ニシテ若シ支拂人ヨリ引受又ハ支拂ノ拒絶ヲ受クルニ於テハ其振出人及ヒ裏書人ノ名譽ヲ傷フコト少ナカラサル而已ナラス夥多ノ手數及ヒ費用ヲ要スルコト故拒絶セラレタルヤ否ハ尤モ大切ナルモノナリ故ニ嚴重ナル一定ノ方式ヲ定メ之ニ準據シ公證人又ハ裁判所ノ役人作成シタ

ルモノヲ以テノミ證スルコトヲ得ルモノトス故ニ以下數條ノ規定ニヨラサル拒證書ハ作成スルモ拒證書タルノ効力ナク然シテ拒證書作成ヲ必要トスル權利ハ是カ爲メ爲替上ノ權利ヲ主張スルコト能ハサルニ至ル者ナレハ尤モ必要ナル規定ナリ此規定ハ支拂及ヒ引受ニ通シ適用セラルヘキ者トス

第七百九十條 拒證書ハ裁判所ノ役員又ハ公證人之ヲ作ルモノトス若シ其他ニ此等ノ人ナキハ被拒者ニ於テ證人二人ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ但其證人ハ成年ノ男子タルコトヲ要ス

本條ハ拒證書作成ヲナスヘキ能力アル人ヲ定メ裁判所ノ役員又ハ公證人カ作ルヘキモノトス蓋シ拒證書ハ信用上至重ナル關係ヲ有スルモノナレハ如此公吏ニ於テ作ルコト尤モ適當トス然レモ支拂人ノ住地遠隔避匿ニシテ裁判所ノ役員又ハ公證人ノ役場ナキハ不得止ヲ以テ證人二名ヲ立會ヒ拒證書ヲ作ルコトヲ得然シ其證人ハ二十一歳以上則チ丁年者タル男子タ



ルノキモノトス

第七百九十一條

拒證書ハ拒者ノ營業場若シ營業場ナキハ其住居ノ内若クハ傍ニ於テ之ヲ作ルヘシ但拒者不在ナルキ又ハ臨席ヲ肯セス若クハ來人ヲ拒ムキト雖モ亦同シ若シ止ムヲ得サル場合アルキハ裁判所又ハ公證人役場ニ於テ拒證書ヲ作ルヲ得

本條ハ拒證書ヲ作ルヘキ場處ヲ定メタルモノナリ元來拒證書ノ如キハ何處ニ於テ作ルモ効ナキモノ、如シト雖モ法律ハ如此場處ヲ嚴定シ若シ此ノ定メラレタル場所以外ニ於テ拒證書ヲ作リタルキハ拒者ニ於テ承諾ヲ與フル時ノ外(第七百九十三條)法律上無効ノモノトス如此拒證書作成ノ手續ヲ鄭重スル所以ハ名譽ニ關スル重大ナルヲ以テ一應錯誤又ハ姦計等ニヨリ名譽ヲ毀損セラル、ニ於テハ容易ニ取戻ス可能ハサルヲ以テナリ然シテ其作ルヘキ場所ハ拒者ノ營業場アルキハ營業場ニ於テ若シ營業場ナ

キ時ハ住居宅内ニ於テ作ルヘシ然レモ不止得事故アリテ居宅内ニ於テ作ル可ハサルキハ其居宅ノ傍ニ於テ之ヲ作ルモ有効ナルモノナリトス尤モ拒者カ不在ナルキ又ハ拒證書作成ニ立會フヲ承諾セス若クハ住宅内ニ立入ルヲ拒ミタル時モ同ク住居宅傍ニ於テ作ルヘキモノトス若シ又其傍ニ於テモ作成スル可ハサル等万止ムヲ得サル場合例ヘハ雨天ニテ又ハ居宅ノ傍ニ作成スル適當ナル余地ナキ時又ハ拒ハ妨害ヲシテ作成シ能ハサル時等ノ節ハ裁判所内又ハ公證人役場ニ於テ作ルモ有効ナリトス

第七百九十二條

拒者ノ營業場及ヒ住居ノ知レサル場合ニ於テ支拂他ノ官署ニ問合ヲ爲スモ尙ホ知ルヲ得サルキハ拒證書ハ其官署内ニ於テ之ヲ作ルヲ要ス

本條ハ本人ノ住所不明ナルキ拒證書作成スル場合ナリ此ノ場合ハ一應所轄役所ニ就キ住所ヲ調査シ然シテ尙ホ分明ナラサル時ハ官署内ニ於テ作



成スヘキモノトス  
 蓋シ支拂期日ニ支拂人居所分明ナラサルハ明ニ拒絕ノ意思ノ陳述ナキ  
 モ手形處持人ニ迷惑ヲ掛ケシメサルカ爲メ法律ハ拒絕シタルモノト認  
 拒證書ヲ調成セシムルモノナリ

第七百九十三條 法律上定メタル場所ノ外ニ於テモ拒者ノ

承諾アルハ拒證書ヲ作ルヲ得

本條ハ第七百九十一條及ヒ第七百九十二條ニ定メラレタル場所以外ニ拒  
 證書ヲ作リタル時ハ其拒證書ハ無効ナリト云フ原則ニ例外ヲ設ケタルモ  
 ノナリ則若シ支拂拒絕者ニ於テ第七百九十一條規定場所以外ニ於テ作成  
 スルコトヲ承諾スルニ於テハ有効ナルモノトス如此鄭重ニスルハ必竟振出  
 人裏出人ノ名譽ヲ保護シ拒者ノ決心ヲ注意ヲ置ク爲ナレハ已ニ拒者ニ於  
 テ充分熟考シ飽マテ拒ムキ決心ヲ以テ拒證書作成ノ場所ニ同意スルニ於  
 テハ是非拒者ノ居宅内又ハ居宅ノ傍ニスルノ必要ナケレハナリ蓋シ明治

二十六年法律第九號改正前ハ譬ヘ承諾アルモ無効トセシモ同法律ニヨリ  
 本條ノ如ク改正セラレタルモノナリ

第七百九十四條 一般ノ休日ニハ拒證書ヲ作ルヲ得ス然

レモ通常ノ取引時間外ニ於テ之ヲ作ルハ妨ナシ

一般ノ休業日トハ日曜大祭等ノ如キ安樂日ヲ指スモノニシテ何處ニテモ  
 平日ノ疲勞ニ報酬スヘキ日ナレハ遊樂ノ傍ラスル至大ナル事柄ニ決答ヲ  
 與フルカ如キハ鄭重ナル手續上欠クモノトセサル可カラス故ニ此ノ日ニ  
 於テ作成スルコトヲ得サルモノトス然レモ通常營業取引時間手前八時ヨリ  
 午后四時ト云フカ如キ制限ニハ束縛セラレス其時外ニテモ作ルコトヲ得ル  
 モノトス

第七百九十五條 拒證書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要

ス

第一爲替手形ノ全文但最後ノ裏書ニ至ルマテ遺論ナリ記



載スヘシ

百四十二

第二拒者ノ監席又ハ不在

第三引受支拂又ハ保ノ要求及ヒ拒絶並ニ拒絶ノ理由

第四右要求及拒絶ノ日並ニ場取

第五榮譽引受又ハ榮譽支拂アル中ハ其旨

第六年月日場取及ヒ監席總員ノ署名捺印

第七第七百九十三條ノ場合ニ於テハ拒者ノ承諾

若シ拒者カ署名捺印スルヲ欲セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ證書ニ明記スヘシ

本條ハ拒證書ニ記載スヘキ事項ヲ定メラレタルモノニシテ手形ノ經過セ

シ事項ハ第一ヨリ第七マテ遺編ナリ記載スヘキモノトス然シテ其時ニ立

合臨席シタル各人ハ皆署名捺印スヘキモノトス然レモ若シ臨席者中署名

捺印ヲ拒ミタル時又ハ無事ニテ書記スルヲ能ハサル時又ハ實印處持セサ

ル時等ハ明ニ其旨ヲ記載スレハ夫レニテモ尙ホ有効トス

第七百九十六條 第七百九十一條及至第七百九十四條ノ規

定ハ引受又ハ支拂ノ爲メニスル呈示爲替手形數通ノ要求

其他本章ノ規定ニ從ヒ或ル人ノ方ニテ爲ス可キ行爲ニモ

之ヲ通用ス

本條 支拂又ハ引受ケニ就テ支拂人ニ手形ヲ差示スヘキ場所又ハ手形數

通ノ要求ヲナス場所又ハ償還請求ヲナスヘキ場處拒證書交付ノ要求ヲナ

スヘキ場所等手形法ニ於テ呈示要求請求等或ル人方ニ於テ爲スヘキ行爲

ノ場處ハ第七百九十一條ヨリ第七百九十四條迄ノ規定ニ準據スヘキモノトス

第七百九十七條 第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ於

テハ其情況ヲ拒證書ニ明示シ且可成詳細ニ爲替手形ノ旨

趣ヲ記シテ爲替手形ノ全文ニ代フ



本條ハ拒證書ヲ作成スル際第七百十條及第七百十一條則チ手形カ盜難紛失又ハ第三者ノ手ニ占有セラレタル場合ニハ其手形存在セサルヲ以テ全部謄寫スルヲ能ハス斯ル時ニハ其情況ヲ明カニ記載シ成ル可ク全手形旨趣ヲ知了シ得ヘキ様ニ記スヘキモノトス蓋シ數多手形ヲ振出ノ場合ニ於テハ彼我混同ヲ來タス甲ノ者ト思ヒ乙ノ支拂ヲ拒ム等ノ錯誤アルヲ以テ如此詳細ニ記載シ手形全体ニ代ヘキモノトス

第七百九十八條 裁判處ノ役員又ハ公證人ハ其作りタル拒證書ノ全文ヲ日日帳簿ニ記入シ且被拒者ノ求ニ因リテ數通ニ之ヲ作ル義務アリ

拒證書作成ノ費用ハ被拒者之ヲ立替スルヲ要ス

本條ハ裁判所ノ役人及ヒ公證人ニ於テ被拒者ノ依頼ニヨリ拒證書ヲ作成セシキハ其役所ニ備ヘ置ク處ノ帳簿ニ全文ヲ謄寫シ置クヘキモノトス如此クナシ置クヲ法定セラレタルハ拒證書ナルモノハ後日訴訟ノ起リタル時ハ大切ナル證據物トナルヲ以テナリ又タ作成シタル役人又ハ公證人ハ被拒者ノ求メアル時ハ幾通ニテモ之ヲ作ルヘキ義務アルモノトス例ヘハ償還請求ヲ各員總体ニ對シナスル又ハ既ニ作りタル拒證書ヲ紛失セシ時等若シ一通ヨリ多ク與ヘラレサル時ハ爲メニ償還請求權ヲ失フカ如キ不幸ニ陷ユツレアルヘキヲ以テナリ又タ元來拒證書ノ費用ハ償還義務者ニ於テ辨償スヘキモノナレモ若シ本條ノ如キ一時被拒者ニ於テ立換リナスヘキモノトセサレハ僅カノ費用取立ノ爲メ却テ澤山ナル失費掛ル而已ナラス終ニ償還義務者ニ於テ支拂ハ裁判所ノ役人又ハ公證人ニ於テ損失ヲ蒙ル等ノコアルヲ以テ被拒者ニ於テ依頼ヲナス際一時立換ニテ支拂フヘキモノトス

### 第十款 戻爲替手形

本款ニ規定セラレタル戻爲替手形ノ性質ハ普通爲替手形ト毫モ異ナルコ



ナキモノナリ然シテ之ノ手形ハ如何ナル場合ニ於テ振出サル、モノナル  
 カト云フニ本爲替手形ノ支拂人ニ於テ支拂ヲ爲サ、ル時ニ所持人ハ償還  
 請求ノ通知ヲナシ且ツ訴訟ヲ提供スルノ手數及ヒ煩勞ヲ省クカ爲メ戻爲  
 替ヲ作成シ住居所ノ銀行ニ賣却シ即時ニ爲替金及ヒ利子并ニ費用等ヲ入  
 手セントスル際發行スルモノナリ

此戻爲替手形ハ多ク外國ノ取引ニ於テアルモノニソ内國ノ取引ニハ甚々  
 稀ナリ例ヘハ米國ノ某商店ヨリ横濱ワーケル商館ニ宛テ金高壹萬圓ノ爲  
 替手形ヲ振出し東京商人甲ニ渡シタルニ支拂期日ニ至リ横濱ワーケン商  
 館ニ支拂ヲ請求シタルニ不渡トナリ依リテ米國某商店ニ對シ償還請求ヲ  
 爲スモ態々渡航セサル可カラサル等旁々不便ナル故横濱ノ正金銀行ニ米  
 國商店某ニ宛テ爲替元金壹萬圓ニ拒證書作成ノ費用及ヒ其利息并ニ爲替  
 相場ヲ合算シ損失又ハ過分ナラサル現金ヲ入手セントスル時ニ則チ戻爲  
 替手形ヲ作ルモノナリ茲ニ注意スヘキハ戻爲替手形ヲ作り賣却スルニ米

國商店某ニ於テ再ヒ戻爲替手形ニ對シ不渡ヲナスノ模様アル時ハ既ニ横  
 濱銀行ヨリ現金ヲ入手スルニモ係ラス所持人ハ償還請求ヲナスノ權利ア  
 ルモノ故拒證書ヲ作成シ訴訟ヲ提起スルヲ得ルモノナリ  
 爲替相場ニ付キ一言説明シ置ク可キ事アリ抑モ爲替手形ハ商業金運轉ノ  
 道具ナレハ甲地ニ於テ振出シタルモノ乙地ニ於テ現金ニテ引替渡ス様ニ  
 出來居ルモノナリ故ニ甲地ニ於テ現金多ク乙地ノ借方トナル時ハ甲地ノ  
 相場ハ乙地ノ相場ヨリ低ク甲地百圓ノ現金ハ乙地現金百圓以下ニ降ルモ  
 ノトス如何ントナレハ甲地ハ乙地ニ支拂スヘキ現金多キカ爲メナリ例ヘ  
 ハ毎年冬期ヨリ春期ニ掛ケ米國都府ト日本横濱トノ間ニ於テ生糸ノ賣買  
 盛ナル故米國ニテハ日本國ニ仕送ル現金多ク同國銀行ニ振込ミ日本横濱  
 正金銀行ト爲替取組ヲナス故生糸代價ノ現金ハ米國銀行ノ金庫ニ積推シ  
 横濱正金銀行ハ貸方トナリ其手形ヲ處持シ此際米國ニテハ横濱正金銀行  
 ニ返却スヘキ現金澤山ニ預リ居ル故若シ米國ニ對シ横濱ニテ爲替ヲ取組



ムルハ送金ノ費用掛ルヲナク隨テ米國ニテ百圓ヲ受取ラントスルニハ別段余分ノ手数料ヲ支拂フニ及ハス然ルニ之ニ反シ米國ニテ横濱商人ニ現金百圓ヲ渡サントスルニハ態々送金ヲ要スル故其費用モ格段ニ掛リ百圓ノ外其費用ヲ計算シ振込ヲナサレハ横濱ニテ百圓ノ現金ヲ請取ルヲ能ハサルモノナク其差額ヲ爲替相場ト云フナリ又タ爲替相場ハ硬貨ト紙幣トノ相場ノ高低ヨリシテ着シク影響ヲ受クルモノトス

第七百九十九條 處持人ハ償還全額ニ付キ各償還義務者ニ

對シテ戻爲替手形ヲ振出スヲ得

本條ハ爲替手形所持人ニ於テ支拂満期日ニ支拂人ヨリ支拂ヲ拒絕セラレ不渡トナリタル時ハ各償還義務者ニ對シ戻爲替手形ヲ振出スヲ得ルモノナリ故ニ償還義務アルモノナレハ其何人タルモ處持人ノ撰擇次第ナリ例ヘハ自分ヨリ前ナル裏書讓渡人ニ對シ戻爲替ヲ振出スモ振出人ニ對シ振出スモ勝手ナルモノトス

第八百條 戻爲替手形ノ費用ノ額ハ仲買人手敷料仲立人手

敷料郵便税印紙税及ヒ支拂地ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛

テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ固リテ定マル

右ノ相場ハ戻爲替手形ヲ遞次振出ス場合ト雖モ本爲替手形ノ支拂地ヨリ振出地ニ宛テタル一覽拂爲替手形ノ相場ヲ超スルヲ得ス

本條ハ戻爲替手形ノ費用ヲ確定シ義々ノ責任ヲ明了ニシ以テ無用ナル爭論ヲ防クカ爲メ定メタルモノナリ然シテ其費用ハ

第一仲買人仲立人ノ手数料 戻爲替手形賣買ハ單ニ公設ノ取引所ニ於テ割引セラル、モノナレハ之等ニ關係シタル仲買人及ヒ仲立人ノ手数料ヲ支拂ハサルヲ得ス然ルニ其手数料處持人ニ於テ損失ヲ受クヘキ理由ナキ故費用ノ一部トシテ受取ルヲ得ルモノトス

第二郵便税印紙税 郵便税ハ支拂地ニ照會其他ニ使用シ印紙税ハ手数料ヲ貼用スルヲ以テ勿論請求シ得ルモノトス



第三支拂地ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場爲替手形中相場ノ最モ高價ナルモノハ一覽拂爲替手形ナリ何トナレハ一覽拂手形ハ期日ノ制限ナク何時ニテモ義務者ニ對シ支拂ヲ請求シ得ルモノナレハ定期拂又ハ一覽後定期拂手形カ額面百圓ニシテ定價九十圓ナル時ハ一覽拂爲替手形ハ九十五圓ヲ有スルモノ故支拂地ト償還義務者住地トノ間ニ於ケル一覽拂爲替手形ノ相場ノ差額ヲ計算スヘキモノトス本條第二項ハ若シ戻爲替ヲ段々ト所持人ヨリ讓渡人又ハ其讓渡人ヨリ讓渡人ニ振出セシ場合ニ於テモ支拂地ヨリ振出人ノ位處迄ノ一覽拂手形ノ相場ヨリ多額ノ損失ヲ負擔セシムルヲ能ハサルモノトス故ニ其中間ニアル處ノ裏書讓渡人ニ於テ相場上ノ損失ヲ負フコトアリ蓋シ手形償還義務者中ニ惡意又ハ懈山ノ事實ヲ審ニシ其損失ノ實ヲ負ハシメントスルハ頗ル困難ニシテ却テ此ノ僅少ナル損失ヲ償ハシムルカ爲メ種々ナル爭論ヲ起シ手形メ信用ヲ害スルコトアルヘス依テ之ヲ避ケンカ爲メ如此定メラレタルモノナリ

第八百一條 戻爲替手形ニハ拒マレタル爲替手形拒證書及

ヒ償還計者ヲ添フ可シ

本條ハ戻爲替手形ニハ支拂人ヨリ支拂ヲ拒マレタル爲替手形并ニ其拒マレタルコトヲ證スル拒證書及ヒ其戻爲替手形ノ金高ヲ證スル爲メ作リタル償還計算書ヲ添ヒテ振出スヘキモノトス如此書類ノ添字ヲ必要トシタル理由ハ一ハ戻爲替中正當ニアルト云フヲ證シ二ハ若シ戻爲替ノ支拂人ニ於テ支拂ヲナサル時ハ直チニ本爲替ニ基キ出訴スルコトヲ得ルニ付此等ノ書類必要ナレハナリ

第八百二條 戻爲替手形ヲ支拂ヒタル者ハ其前者中ノ一人

ニ宛テ更ニ戻爲替手形ヲ振出スコトヲ得

本條ハ戻爲替ノ支拂人ト指定セラレタル處持人ヨリ戻爲替金ノ請求ヲ受ケ償還ヲナシタルモノハ更ニ自分ヨリ前ナル裏書讓渡人又ハ振出人ニ對



シ戻爲替ヲ振出スコトヲ得ルトノ規定ナリ蓋シ爲替手形ノ償還義務者ハ債権者ニ對シテ一同々等ナル連帶ノ義務ヲ負者ナレモ其償還義務ヲ辨濟スルニ於テハ處持人ノ權利ヲ襲承スルモノナレハ處持人ニ於テ振出し得ヘキ戻爲替手形ハ辨濟シタル義務者ニ於テモ又振出スコトヲ得ルモノトス然レモ第八百條第二項ノ制限ハ守ラサルヘカラサルモノナリ

### 第十一款 資金

爲替資金トハ支拂人ガ手形所持人ニ對シ支拂ヲナサシムル爲メ又ハ既ニ支拂人ガ支拂ヲナシタル時ニ償ノ爲メ振出人又ハ其他ノ者ヨリ仕送ル所ノ金員ヲ云フ  
抑モ民法上ヨリ爲替手形ノ關係ヲ論ズル時ハ一種ノ委托者ノ委任ヲ受ケ支拂ヲナスモノニシテ爲替資金ハ取托者ヲ其委任ノ事項履行シタル償ノ爲メ又ハ履行センカ爲メ委任人ナル振出人ヨリ受取ルモノナリ然レモ爲

替ハ民法上ノ原則ヲ直接ニ適用セス獨立シタル原則ヲ定メ特ニ方式ヲ重シ方式ニテ欠クル處ナキ時ハ其旨意又ハ他ニ別段ノ契約ナルヲモ願ミサルカ如キハ彌々民法ノ原則ト抵觸スルモノナリ故ニ民法上ヨリスル時ハ支拂人ノ義務ハ爲替資金ヲ受取リ支拂方受諾シテ支拂義務生スルモノナレモ爲替法上ヨリスル時ハ然ラス單ニ引受ノ旨ヲ記スルヲ以テ義務發生シ資金ヲ受取リタルヤ否ハ敢テ問フ處ニアラサルモノナリ  
又タ實際ヨリスルモ爲替手形ヲ振り出しト同時ニ支拂人ニ必スシモ資金ヲ送付スルハ欠クヘカラサルモノニアラス如何トナレハ手形振出ヨリ支拂期日迄ハ其間數週間又ハ數日間ヲ隔ツルモノナレハ漸次支拂期日迄ニ遞送スレハ少シモ差支ナク支拂ハレ信用ヲ害スルコトナキヲ以テ手形ノ金高丈ケ同シク金庫ニ貯蓄シ置クノ必要ナケレハナリ

第八百三條 振出人又ハ自己ノ計算ニテ爲替手形ヲ振出サシメタル者ハ明示シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負ヒタル



裏書讓渡人ハ支拂人ニ對シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負フ

本條ハ爲替資金ヲ供スルノ義務者ヲ定メタルモノナリ則チ手形作成ノ當時ノ事情ニヨリ義務者ヲ異ニスルモノトス

第一振出人振出人カ爲替資金ヲ供スルハ普通ノ場合ニシテ振出人ニ於テ受取人ニ對シ支拂フヘキ義務ヲ消却センカ爲メ手形ヲ渡スモノトスレハ支拂人ニ對シ其資金ヲ送ルヘキハ當然ナルモノトス

第二自己ノ計算ニテ爲替手形ヲ振出サシメタル者此ノ場合ハ自分ニ於テハ明ニ振出人トナラス他人ヲシテ手形ヲ振出サシメタル場合ヲ云フ譬ヘハ大阪ニ送金スルニ際シ同地ニハ自分ノ爲替取組先キヨリ不得止銀行ニ委囑シテ手形ヲ振出サシメタル時ノ如キヲ云フ此ノ時ハ其資金ヲ供スル義務アルモノトス

第三 明示シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負ヒタル裏書讓渡人此場合ハ振

出人ハ假設人ナル時又ハ振出人ノ信用ナキ時ニ支拂人ヲシテ強テ引受ヲナサシムル爲メ裏書讓渡人ニ於テ明ニ資金提供ノ事柄ヲ契約シタル場合ナリ

右ノ如ク各場合ニヨリ振出人又ハ裏書讓渡者クハ其代ノ人ニ於テ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ供スルノ義務アルモノトス

第八百四條 現金支拂ノ外爲替資金義務者カ支拂人ニ對シ

テ有スル債權又ハ信用ハ之ヲ爲替資金ニ充ツルコトヲ得

元來爲替ハ現金支拂ノ契約ナレハ其資金モ亦現金タルヘキヲ以テ正則トス然レモ若シ必スシモ現金ニアラサレハ爲替資金トナスコトヲ得ストスルニ於テハ其取引頗ル不便ナルヲ以テ本條ニ現金支拂ノ外義務者カ有スル債權及信用ヲ以テ其資金ニ充ツルコトヲ得ルモノト定メタルモノナリ然シテ爲替資金義務者ノ有シタル債權ハ如何ナルモノニテモ資金ト爲スコトヲ得ルカト云フニ然ラス譬ヘ債權アルモ未タ支拂期日ニ來ラサルモノ



如キハ資金ニ充ツルコトヲ得ザルモノナリ例ヘハ銀行ニ對シ爲替資金義務者ニ於テ定期預金ヲナシ居ルモ未レ其預金ノ引出シ期限ノ來ラサルモノハ保證トナスコトヲ得レモ爲替資金トナスコト能ハサルモノナリ又信用トハ支拂人ニ對シ或ル物品委託販賣ノ事柄ヲ囑託シ置キタルニ該物件既ニ賣却濟トナリ居ル時ノ如キハ其代價ヲ以テ爲替資金トナシ得ルモノ、如キヲ云フ

## 第八百五條

方式ニ依ラサル引受ト雖モ其引受ニ依リテ引

受人カ爲替資金義務者ヨリ爲替資金ヲ受取りタリトノ推定ヲ生ス但參加引受ヲ爲シタルトキニハ此限ニ在ラス

凡ソ支拂人カ支拂期日前支拂引受ノ爲メ手形處持人ヨリ呈示セラレ其際ハ引受ヲナスモ又ハ拒絕スルモ支拂人撰擇隨意ナルコトナリ然ルニ自ラ進テ引受ヲナシタル時ハ一般ノ推測ヨリスルモ振出人ニ支拂フヘキ債務アルカ又ハ振出人ヨリ資金ノ既ニ送附ヲ受ケ居ルカ又ハ其他之ヲ引受クヘ

キ境遇ニ居リタルモノトスルハ正當ノ事ナリ況ンヤ商習慣ニ於テ手形ハ

嚴格ニ行ハレ一旦引受ヲナスニ於テハ再ヒ之ヲ取消スコトヲ得サル故注意ノ上ニ注意ヲ加ヘ引受ヲナスモノナレハ一旦支拂引受ヲナシタル時ハ其資金ヲ受取りタルモノト推測スルハ正當ナルコトナリ然シテ之ノ推測ハ方式ニヨル引受而已ナラス譬ヘ方式ニ於テ欠クル處アルモ此ノ推測ヲ受クルモノトス方式ニヨラサル引受トス例ヘハ口頭ニテ引受ヲナシタル時又ハ引受ノ旨ヲ記シタルモ年月日ヲ記載セサル時又ハ引受及ヒ署名年月日ヲ記スルモ捺印ヲナサル時ノ如キ引受トシテ効ナキモ爲替資金受取りタルヤ否ニ關スル爭ニ就テハ完全引受ヲナシタル時ト同一ノ推測ヲ受クルモノトス然レモ之ノ推測ハ參加人ニ對シテハ適用セラレサルモノトス如何トナレハ參加引受人ハ振出人ノ手形振出ノ際豫想セサル人ニシテ引受ヲナスノ際振出人ニ於テ知ラザルモノナレハ其知ラサル人ニ資金送致シタリトノ推測ヲ下シ得ベキモノニアラザレバナリ茲ニ注意スヘキハ如此



推定セラル、時ハ其結果如何ト云フニ若シ支拂人ニ於テ資金受取ラストノ反對ノ證據ヲ提擧スルニ怠ル時ハ資金請求ノ訴訟ニ於テ敗訴トナルモノナリ

第八百六條 爲替資金義務者ト所持人トノ間ニ在テハ爲替

手形ノ引受ニ依リテ爲替資金ヲ供シタリトノ推定ヲ生セ  
ス

前條ノ規定ハ爲替資金義務者ト支拂人トノ間ニ於テ若シ引受ヲナシタル時ハ爲替資金受取リタルモノト推定スレモ手形處持人ト爲替義務者トノ間ニ於テハ此推定生セサルモノトス例ヘハ手形所持人カ支拂人ニ對シ引受否示ヲナシタル時ニ支拂人異議ナク引受ヲナシタルモ支拂期日ニ至リ未タ資金ノ送致ヲ受ケサル旨ヲ以テ支拂ヲナス依テ處持人カ直テニ償還請求ノ手續ヲナスヘキ筈ナリシニ其手續不案内又ハ或ル事情ニ罹サレ其手續ヲナサ、ル内滿三ケ年ヲ經過シ償還請求權ヲ失フニ至レリ然レト

第七百十四條ニヨリ爲替資金義務者カ此ノ不渡ヨリ利益シタル程度丈ハ譬一時効ヲ經ルモ請スシ得ルヲ以テ其義務者ニ對シ請金ノ訴訟ヲ起シタル時ニ前條ノ規定ヲ引キ支拂人ニ資金送致シタリト拒ムコトヲ得ス必ス送致シタル別段ノ證據ヲ舉ケサレハナラヌモノトス何ントナレハ前條ハ支拂人ト資金義務者トノ推定ニシテ本條ニ於テ明ニ處持人ト資金義務者トノ間ニハ此ノ推定ヲ適用セサルコトヲ定メラレタル以上ハ資金義務者ニ於テ既ニ資金ヲ送附セリトノ理由ヲ以テ其請求ヲ却ケントスルニハ宜シク他ニ明確ナル證據ヲ提供セサレハ其義務ヲ免カル、コト能ハサルナリ

第八百七條 爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル支拂人ハ爲替資金

ノ請求權ヲ爲替ノ原則ニ從ヒテ主張スルコトヲ得

本條ハ手形支拂人カ爲替資金ヲ受取ラントシテ支拂ヲナシタル時ハ手形處持人ト同ジク爲替上ノ原則ニ基キ請求ヲナスコトヲ得ルモノトス抑モ爲替上ノ請求權ハ通常ノ請求ト異ナリ迅速ニシテ且ツ利益多キ手續ヲ利用



シ得ヘキモノナリ而シテ支拂人カ資金ヲ受取ラス其手形ノ支拂ヲナスハ偏ニ振出人ニ對スル義務ト好意ヨリ出ツル者ナリ故ニ此際不渡トナリタル時主張シ得ヘキ處持人ト同一ナル爲替上ノ請求權ヲ與フルモ振出人ニ於テ別段不利益ヲ蒙ムルコトナク却テ不渡トナリ名譽ヲ傷フヘキ筈ナリシニ支拂人ノ支拂ヲ受ケタルカ爲メ其名譽ヲ維持シ得タルモノナレハ法律ハ斯ル義俠者ニ便利及保護ヲ與フルハ蓋シ正當ナルコトナリ

第八百八條

支拂人ニ代リテ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル者ハ支拂人又ハ償還義務者ニ對シテ所持人ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

本條ハ支拂人カ支拂ヲ引受ケタルモ後日愈々支拂ヲナスヘキ時ニ支拂ヲナスノ際支拂人ニ代リニ支拂ヲナシタル者例ヘハ榮譽支拂人又ハ償還請求ノ費用ヲ省ク目的ニテ替書人カ立替支拂ヲナシタルモノハ支拂人ヤ償還義務者ニ將シ手形所持人ト同等ノ權利ヲ主張シ得ルモノトス

第八百九條

振出人及ヒ裏書讓渡人ハ爲替資金ヲ供シタルモ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ニ付キ連帶ノ責任ヲ免カル、コトヲ得ス然レモ其責任ハ別段ノ契約ヲ次テ其契約者間ニ於テノミ之ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

爲替手形ハ別段事實ノ原因ヲ記載スルニ及ハス方式カヘ缺グル處ナキ時ハ其文言ニヨリ連帶義務ヲ負フヘキモノトス然シテ其義務ハ其實發生スルモ又ハ一時ノ便宜上其名儀ヲ貸シタル假想ノモノナルモ之ヲ知ラサル第三者ノ權利ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス此ノ原則ヨリシテ振出人又ハ裏書讓渡人ニ於テ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ支拂フタル時ニ於テモ若シ支拂人カ其義務ヲ怡リ不渡トナリタル時ハ既ニ支拂人ニ爲替資金送致シタルトノ理由ヲ以テ處持人ニ對シ引受及ヒ支拂ニ付キ連帶責任ヲ免カル、コトヲ得サルモノトス併シナガラ別段契約ヲ結ヒタル時ハ其契約對手間ニ於テハ契約ニ基キ連帶責任ニ制限ヲ附シ又ハ廢止スルコトモ出來得ルモノ



ナリ蓋シ契約ノ効力其對手間ニ止マルヲ以テ手形ノ又信用又ハ支拂ニ付キ少シモ害ヲナサ、ルカ故有効トナシタルモノナリ

第八百十條 支拂人ハ爲替資金ヲ受取リタルトキハ勿論假令之ヲ受取ラサルモ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ對シ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ノ義務ヲ明示シテ負擔シタルトキハ引受若クハ支拂ヲ爲サ、ルニ因リテ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ生セシメタル損害ニ付キ責任ヲ負フ但此損害ニ付テノ請求ハ豫メ之ヲ支拂人ニ通知スルコトヲ要セス

此ノ條ハ支拂人ニ於テ振出人又ハ爲替資金ヲ供スル義務ナル裏書讓渡人ヨリ爲替資金ヲ受取リタル時ハ勿論假令其資金ヲ受取ラザルモ別紙ノ契約ヲ以テ引受又ハ支拂ヲナスヘキ義務ヲ明ニ負擔シタル時ニ若シ支拂又ハ引受ヲ拒ミ爲メニ振出人及ヒ爲替資金義務者ニ損害ヲ掛ケタル時ハ其

損害ニ付キ責ヲ負フヘキモノトス抑モ爲替手形ヲ振出シ若シ處持人ニ對シ支拂人ニ於テ支拂ヲナサ、ル時ハ前數條ノ規定ニ基キ償還請求ヲ受ケルモノナリ然ルニ支拂人ニ於テ支拂ヲ恥ルニ於テ振出人又ハ爲替資金義務者ニ於テ一旦爲替資金ヲ送リタルモ係ラス又タ償還請求ニ對シ支拂ヲナシ恰モ二重ノ支拂ヲナスコトニナルモノナリ又タ如此二重ノ支拂ヲナサ、ルモ支拂人ニ於テ一旦債務又ハ信用ニヨリ手形支拂及ヒ引受共約束シ置キナカラ支拂ヲ拒絶スルニ於テハ振出人ニ迷惑ナカラサル而已ナラス爲替金ヲ支拂フテ事足ルヘキニ支拂人ノ不始末ヨリ償還請求ヲ受ケ之レカ爲メ手形金以外ノ費用迄支拂フニ至ルヘキヲ以テ是等ノ損害ハ支拂人ニ於テ負擔スヘキモノトス

此ノ損害請求ハ償還請求ノ如ク別段豫メ通知スルノ手數ヲ要セサルモノトス



第二節 約束手形

爲替手形ト約束手形トノ差異ハ前綴々説キタルガ如ク爲替手形ハ支拂人ニ對シ或ル金額ヲ支拂フヘキ委託ヲ爲替表面ニ記載シ振出人ノ振出ニ係リ約束手形ハ振出人カ支拂人ヲ兼ル故自ラ相違ナク支拂フトノ約束文言ヲ手形面ニ記載スルニ止マルモノナリ故ニ爲替手形ニハ振出人支拂人受取人ノ三者關係シテ成立スルモノナレモ約束手形ハ振出人及ヒ受取人ノ二者ニテ成立スルモノナリ然シ其適用スヘキ爲替上ノ原則ハ支拂人ニ關スル規定ヲ除ク外毫モ爲替手形ト異ナルヲナシ其手形ハ左ノ書式ノ如ク作成スヘキモノトス

金壹萬圓			
番號	第五號	受取人	乙野善兵衛
期限	廿六年四月十五日	日限	全年四月一日

第五號 約束手形

印紙

一金萬圓

右金額明治廿六年四月十五日貴殿又ハ貴殿ノ指圖人へ此手形引換ニ無相違支拂可申上候也

日本橋區通一丁目三番地

明治廿六年四月一日

甲野由兵衛

乙野善兵衛殿

右ノ如ク調成シ流通ノ際ハ爲替手形ト同様ノ裏書ヲ以テ讓渡ヲナスモノトス

第八百十一條 契約手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一振出ノ年月日及ヒ場所



第二支拂金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三受取人ノ氏各又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨

第四満期日

第五振出人ノ署名捺印

本條ハ約束手形ノ方式ヲ規定シタルモノニシテ第七百十六條ニ定メラレタル爲替手形ト異ナル處ナク唯<sup>ズ</sup>僅ニ支拂人ノ氏名ヲ除ク而已ナリ蓋シ約束手形ハ振出人ニ於テ支拂人ヲ兼ヌルモノ故振出人ノ外別段ノ規定ヲ要セサレハナリ

### 第八百十二條 約束手形ハ振出人ノ指圖ニテ之ヲ振出スコ

トヲ得ス

手形モ一ノ契約ナルコトハ既ニ述ヘタル處ナリ凡ソ契約ハ二人以上ノ對手アルニアラサレハ取結ヒ得ヘキモノニアラス故ニ本條ニ於テ振出人ガ自

ラ請取人トシテ手形ヲ振出スコトヲ得サルモノト定メラレタル所以ナク蓋シ振出人ニシテ又タ受取人ヲ兼ヌルニ於テハ同時ニ同一ノ人カ一方ニハ債權者トナリ一方ハ債務者トナリ恰モ右手ニテ金員ヲ請求シ在手ニテ支拂ヲナスカ如キ奇觀ヲ呈シ<sup>ス</sup>頗ル不都合ナルベシ斯ル不都合ナル手形ハ例令裏書讓渡トナルモ素ヨリ無効<sup>ト</sup>ノモノナレハ其讓渡ニヨリ効果ヲ生スルト決シテナシ損害スレハ此手形ニヨリ權利ヲ生ジ義務ヲ負擔スルカ如キコトナキモノトス

### 第八百十三條 約束手形ニ別段ノ支拂地ヲ掲ケサルトキハ

振出ノ場所ニ於テ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ約束手形ニ別段ノ支拂地ヲ掲ケサルトキハ振出人ノ手形ヲ振出シタル場所ヲ以テ手形支拂ノ場處トスルモノナリ爲替手形ハ之レニ反シ振出人ノ外ニ支拂人アルヲ以テ若シ別段ノ支拂地ヲ記載セサルハ支拂人ノ住地ニ於テ支拂ヲ爲スベキモノトス推定第七百二十一條然レモ約束手



形モ爲替手形ト同シテ支拂地ヲ振出人ノ住地ニノミ限ラス殊ニ約タスル  
 一ヲ得ルモノトス例令ヘハ大坂ノ商人甲乙二人東京見物ノ爲メ滞在中甲  
 ハ乙ノ所有物ヲ買取リ代價ハ約束手形ヲ以テ支拂フガ如キ場合双方共大  
 坂ニテ現金取引スル方便ナルヲ以テ特ニ大坂ノ住地ヲ以テ支拂地ト定  
 ムルカ之レナリ

第八百十四條 約束手形ノ振出人ハ其振出ニ依リテ満期日

ニ支拂ヲナス義務ヲ負擔ス

振出人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ引受ヲモ支拂ノ爲メノ呈示ヲモ  
 拒證書ノ作成ヲモ要スルコトナシ然レ一覽後定期拂ノ約束手形又ハ他所拂  
 人掲ケタル約束手形ニ有ツテハ其振出人ニ關シテモ第七百三十五條及第  
 七百七拾八條ノ規定ヲ適用ス

本條ハ約束手形ノ性質ヨリシテ手形ヲ振出ストキハ其行爲ノミニヨリテ  
 直チニ満期日ニ支拂ヲナス義務ヲ負フモノナリト云フニアリ爲替手形ハ

既ニ説キタルカ如ク振出人ト支拂人ト異ニシテ振出人ハ受取人ニ對シ手  
 形ヲ振出ニ於テハ相當ノ義務アルヲ手形ヲ作成シ渡シタルモノト推測セ  
 ラル然レモ其支拂人ハ受取人ニ對シ引受ヲナサ、ル間ハ何等ノ關係ナキ  
 故其支拂ヲ引受クルト否トハ全ク隨意ナルモノナリ故ニ之ヲ引受ケサレ  
 ハ支拂ノ義務ナク否ラサレハ支拂ノ義務負擔スルモノトス然ルニ約束手  
 形ハ振出人ト支拂人ト別段異ナルニアラスシテ全一人ナレハ單ニ約束  
 手形ヲ振出ヲ以テ直チシ其手形ノ支拂義務ヲ生スルモノトス本條第二項  
 ハ約束手形ハ如此性質支其振出人ニ對シテ爲替上ノ權利ヲ保全スルニハ  
 爲替手形ノ如ク引受ノ爲メ又ハ支拂ノ爲メニ呈示シ或ハ拒證書ヲ作ルコ  
 トヲ要セサルモノトス然シ一覽後定期拂ノ手形又ハ他所拂人ヲ定メタル手  
 形ハ支拂期日權定ノ爲メ又ハ支拂義務ヲ確實ニスル爲メ第七百三十五條  
 及ヒ第七百七十八條ノ規定ニ基キ二ケ年以内ニ呈示シ又ハ拒證書ヲ作ル  
 ヘキモノトス



第八百十五條 右ノ外爲替手形ニ關スル規定ハ性質上牧觸  
セサルモノニ限り約束手形ニモ之ヲ適用ス

第八百十一條ヨリ第八百十四條ニ規定セラレタル外爲替手形ニ關シ定メ  
アル條項ニシテ性質上抵觸セサル東ノハ約束手形ニ適用スヘキモノトス  
蓋シ手形ノ爲替手形及ヒ約束手形ノ間ニ於テ大差ナキヲ以テナリ

### 第三節 小切手

小切手ハ銀行ニ對シ發行スル一ノ信用證券ナリ抑モ小切手ハ現金ヲ自宅  
ニ貯蓄シ常ニ起ルヘキ危險ヲ避クルカ爲メ其金員ヲ銀行ニ預ケ必要ノ生  
シタル時ニ小切手ニテ金額ヲ指示シ支拂ヲナサシムルモノナリ然シテ其  
狀ハ恰モ自己ノ金員ヲ金庫ニ蓄ヒ置キ必要ノ生シタル時ニ金庫ヨリ取出  
シ使用ナスト少シモ異ナルコトナキモノトス故ニ小切手ハ爲替手形ヨリハ  
一層支拂確實ニシテ且ツ便利ナルモノトス

第八百十六條 小切手ハ寄託其他ノ方法ニ依リ銀行ニ對シ

テ繼續スル信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依頼シ之ヲシテ記  
名セラレタル人又ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ呈  
示ヲ受ケ次第或ル金額ヲ支拂ハシムル證券タリ

抑モ小切手トハ俗ニ曰フ銀行引切手ニテ富有ナル人カ自分ノ内ニ貯金シ  
置キ盜難又ハ紛失ヲ泰ノ夏ヲ避クル爲メ銀行ニ預金ヲナシ入用アル時ハ  
小切手ヲ以テ銀行ヨリ取出シ支拂ヲナスノ便ニ供スルモノナリ然シテ其  
手形ヲ發スル者ハ銀行ニ金員ヲ寄託シ置ク人ナルカ又ハ其他銀行ト取引  
上ノ方法ヨリ繼續スル信用ヲ有スル人ナルヲ要ス此等ノ信用アル人カ其  
銀行ニ依頼シテ小切手ニ記名セテタル人又ハ其人ヨリ指圖セラレタル人  
若クハ手形ノ處持人ニ支拂請求ノ爲メ呈示ヲ受ケ次第支拂フヘキノ證券  
ナリ其書式ハ通常左ノ如シ



金五千圓		番號	甲第一號
當座引出小切手		受取人	甲野傳兵衛
甲第一號	甲野傳兵衛殿渡	日付	廿六年四月十日
一金五千圓			
右金額名指人又ハ此小切手持參人へ御一覽次第御支拂可被成候也			
也			
明治廿六年四月十日			
京橋區銀座四丁目五番地			
乙野善兵衛			
銀行御中			

此小切手ハ銀行ニ對シテ而已發シ且ツ支拂上爲替手形ヨリ一層確實ナル

故前記ノ通り其方式至テ簡易ナルモ錯誤ノ生スルカ如キ憂少ナキスノト

第八百十七條 小切手ニハ年月日ヲ記シ振出人署名捺印ス

可シ又小切手ハ一覽拂トスルニ非サレハ之ヲ振出スルコ

トヲ得ス其他銀行ト明示又ハ默示ニテ約定シタル振出ノ

方式ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

本條ハ小切手ノ要件ヲ定メラレタルモノナリ然シテ小切手ハ爲替手形ト

異ニシテ一覽拂ニアラサレハ之ヲ振出スコトヲ得サルモノトス何ントナレ

ハ小切手ハ現金支拂ト同視スヘキモノナルニ何月幾日ト云フカ如ク定期

拂ニスルニ於テハ爲替手形ト同シキ結果ニ歸ス且ツ通流上不便ナルカ故

ニ嚴格ニ一覽直拂ノ外振出スコトヲ得サルモノナリ如此小切手ハ多ク持參

人拂ニシテ且ツ性質上一覽拂ノモノナレハ銀行紙幣ト毫モ異ナルコトナク

流通上甚タ便利ナリトス故ニ後日小切手ノ社會ニ信用ヲ受クルニ於テハ



銀行紙幣發行ノ必要ヲ欠クニ至ルヘシ  
 小切手ニ年月日及ヒ振出人署名捺印スヘキモノト定メラレタルハ其振出  
 當時振出人ニ於テ銀行ニ對シ繼續シタル信用ヲ有シ居リタルヤ否又ハ小  
 切ハ正當ニ作成セラレタル者ナノヤ否調査スルヲ必要ナルカ故記名捺印  
 スヘキモノトス

若シ又タ銀行ト別段契約セシキハ其契約カ明示又ハ默示何レニテモ之ヲ  
 遵守スヘキ義務アルモノトス例ヘハ銀行ニテ得意先ニ對シ小切手帳及通  
 帳ノ二冊ヲ渡シ其内一冊ハ小切手ヲ振出際振出銀行ト契約セシ要件又ハ  
 符號ハ詳細ニ記入シ置キ以テ詐欺ヲ防キ又他ノ一冊ハ銀行ニ爲シ貸方計  
 算ヲ爲ス要ニ供ス然シテ之ヲ記載スルニハ銀行ト約束セシ一定ノ方式ニ  
 從フヘキモノトス他ナシ如此銀行ノ定ムル一定ノ方式ニ從フヘキモノト  
 セシハ計算上錯雜ヲ免シ方ニハ偽造又ハ變造ノ危險ヲ防キ小切手ノ信用  
 ヲ確實スル爲メ必要ナレハナリ

第八百十八條 小切手ハ裏書ヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得

若シ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シ  
 タルトキ又ハ無記名式ニテ振出シタルトキハ交付ニ因リ  
 テ之ヲ轉付スルコトヲ得

本條ハ小切手ノ流通ニ關スルノ條ナリ蓋シ小切手モ通常爲替ノ如ク指圖  
 式又ハ無記名式ニテ振出スヲ得ルモノトス然シテ差圖式ナル時處有權  
 ヲ轉スルニハ二個ノ方法ニテ轉付スルヲ得ルモノトス則チ

甲差圖式裏書

表面ノ金額甲野善兵衛又ハ其差圖人へ支拂可被成候也

神田區錦町一丁目五番地

明治廿六年四月一日

乙野安兵衛



乙 別段文言ナク單ニ表面ニ住處氏名捺印ノミナラス

神田區錦町一丁目五番地

明治廿六年四月一日

乙野安兵衛

此ノ二個ノ内何レノ式ニヨルモ裏書人ノ勝手ナリトス然レモ若シ甲ノ書式ニヨリ裏書セラレタル時ハ再ヒ甲野ニ於テ他人ニ轉付セントスル時ハ又甲ノ書式ノ通り裏書スルヲ要スルモノトス

乙ノ書式及ヒ無記名式ニテ振出サレタル小切手ヲ轉付スルニハ別段裏書ヲ要セサルモノトス故ニ所持人ノ利益ヨリスル時ハ裏書人ハ連帶債務者ナル故一人ニテモ多キ時ハ夫レ程利益アルモ小切手ノ性質ヨリ論スレハ乙ノ書式及ヒ無記名式ヲ以テ適當トスルモノナリ何ントナレハ小切手ハ現金同様一ノ通用貨幣トモ云フヘキ流通ノ用ニ供スルモノナレハナリ

第八百十九條

小切手ハ引受ヲモ拒證書ヲモ要スルコト無シ

又小切手ハ日附後三ヶ年ヲ以テ時効ニ權ル小切手ハ同地内ニ於テハ日附後五日内又振出地ト支拂地ト同シカラサルトキハ十日内ニ其支拂ヲ請求ス可シ

本條ハ小切手ニハ引受ノ爲メ呈示スルヲモ又ハ若シ支拂拒マレタル時拒證書ノ作成ヲモ要スルモノニアラスト他ナシ小切手ハ振出人カ銀行ニアル預金ヲ以テ支拂フト云フ約束證券ニシテ銀行ハ單ニ振出人ノ代理トシテ支拂ヲナスモノナリ此ノ代理者タル銀行カ不渡トナシタルハ本人則チ振出人自身カ不渡トナシタルト同一ニ歸スル故別段振出人ニ對スルニ呈示又ハ拒證書作成ヲ必要トセサル以所ナリ

又小切手ハ爲替手形ト同ク振出口付後三ヶ條ノ經過ニテ時効ニ係ル故ニ權利者ハ其權利ヲ主張シ支拂ヲ請求スルヲ能ハサルニ至ルモノトス

小切手ハ振出サレタルヨリ支拂地及ヒ振出地同一區域内地ナレハ五日以



内若シ又振出地ト支拂地ト異ナルニ於テハ十日以内ニ其手形ノヲ請求ナスベキモノトス

### 第八百二十條

呈示ノ上ニテ支拂ヲ受ケサル片ハ同地内ニ

於テハ日附後十日内又振出地ト支拂地ト同シカラサル場

合ニ於テハ二十日内ニ所持人ハ裏書讓渡人若クハ拂出人

ニ對シ裏書讓渡人ハ其前者若クハ振出人ニ對シテ償還請

求權ヲ有ス但右ノ期限ヲ過キタルモ裏書讓渡人カ請求ヲ

受ケタル翌日ニ爲シタル償還請求ハ有効ナリ

振出人ニ展シテハ振出人カ信用ヲ有セス又ハ信用消盡シ又ハ依頼ヲ取消

シタルトキハ右期間ノ滿了後ト雖モ償還請求權ヲ有ス

振出人ハ爭アル場合ニ在テハ其小切手帳及ヒ通帳ヲ裁判所ニ差出ス義務

アリ

本條ハ爲替及約束手形ノ規定ト大ニ異差テリ爲替及ヒ約束手形ノ償還請

求權ハ拒證書ヲ作成シ及ヒ償還ヲ受ケタシトノ通知ヲナスニ於テハ三年

間此權利ヲ保有シ得ルモノナリ然ルニ小切手ニハ拒證書作成ノ規定ナク

逆ニ振出上ノ關係ヲ完結シ成ル可ク計算上ノ錯雜ヲ避クルヲ欲スルカ

故若シ不渡トナリタル時ハ振出口付ヨリ同地内支拂小切手ハ十日内他所

拂小切手ハ廿日内ニ於テ裏書讓渡人及ヒ振出人ニ種シ償還請求ヲナサ、

ル時ハ償還請求權利ヲ失フモノトス然レモ數多裏書讓渡人ノ手ヲ經過セ

シ小切手ハ不慮ノ損失ヲ裏書讓渡人ニ與フルコトアルヘキヲ以テ假令十日

又ハ廿日ノ期限經過スルモ裏書讓渡人ニ於テ償還請求ヲ受ケタル翌日ニ

於テ其裏書又ハ振出人ニシ償還請求ヲナシニ於テハ有効ナルモノトス

例ヘハ甲者ヨリ乙銀行ニ捧シ丙者ニ支拂フヘキ小切手ヲ振出シタルニ丙

者ハ丁者丁者ハ戊者ニ轉帳シ五日目ニ乙銀行ニ支拂ヲ請求シタルニ乙銀

行ハ五日ニ支拂資力ヲ失ヒ破産者トナリタルカ故該小切手ノ支拂モ拒絕

セリ依テ戊者ハ制規ノ期日即チ十日目ニ丁者ニ協シ償還請求ヲナシタリ



丁者ハ此時始メテ不渡トナリタルコトヲ知り其心外ニ驚キ手續不案内ヨリ  
 彼是狼狽スル内其日ヲ經過シタリ若シ本條正則ノ如ク十日間ヲ經過セシ  
 故償還請求權ヲ失ヒタルモノトスルニ於テハ丁者ナル裏書人ノ迷惑尠ナ  
 カラサルコトナリ加之ナラス譬へ此際充分手續ヲ承知シ少シモ遲滯スルコ  
 ナク直チニ乙者ニ償還請求ヲナシタルモノ丙者ハ到底更ニ又甲者ナル振出  
 人ニ償還請求ヲナスノ餘時ナキコトナルヘシ斯ル場合ヲモ償還請求權ヲ失  
 フモノトスルニ於テハ少シモ過失ナキ善良者ニ損失ヲ負擔セシムル等頗  
 ル無理ナル規定トナル故其例外ヲ設ケ裏書讓渡人ニ於テハ譬へ期限經過  
 スルモ後者ヨリ請求ヲ受ケタル翌日ニナシタル償還請求ハ有効ナルモノ  
 ト定メラレタルモノナリ

本條等二項ハ振出人ノ惡意又ハ懈怠ノ場合ニ於テ小切手處持人ハ期限ニ  
 束縛ヲセラレス償還請求權ヲ有スルモノトス例へハ振出人カ銀行ニ△シ  
 預金ヲナサス小切手ヲ振出スカ又ハ預金アルモ既ニ他ノ小切手ニ支拂ノ

ナシ殘金ヲ餘サマル時又ハ預金及ヒ小切手支拂ノ契約取消シタル時ノ如  
 キハ期限ニ係ラス償還請求權ヲ有スルモノトス尤モ之ノ規定ハ振出人ニ  
 對シテノミ行ハレ其地ノ裏書人ハ此場合ト雖モ十日又ハ廿日ノ期限ニ償  
 還請求ヲ受ケサル時ハ其請求ニ應スル義務ナキモノトス  
 本條第三項ハ振出人ハ若シ小切手ニ付キ争ノアリタル時ハ其何人カ舉證  
 者ノ位置ニ居ルモ小切手帳及ヒ通帳ヲ裁判所ニ差出スノ義務アルモノト  
 ス蓋シ此等ノ帳簿ヨリ銀行ニ備へアル帳簿ハ一層確實ニシテ且ツ明細ナ  
 ルヘキモ取引頻繁ナル故之ヲ呈示スルハ頗ル迷惑トナリ且ツ斯ル争ノ原  
 因ハ振出人ノ振出シタル小切手ヨリ生シタルモノナレハ其義務ヲ負ハシ  
 メタルハ不得止コトナリ茲ニ注意スヘキハ若シ差出スヘキ義務アルニモ係  
 ハラス其通帳及ヒ小切手帳ヲ隱匿シ呈示セサル時ハ不利益ナル事柄ヲ自  
 認シタルトノ推測ヲ受クルモノナリ

第八百二十一條 振出人又ハ所持人ハ小切手ニ横線ヲ附シ



其横線内ニ特ニ銀行ノミニ支拂フ可キ旨ヲ記載スルコト  
ヲ得

本條ハ小切手ニ限リ特ニ制限ヲ付シ銀行ノミニ支拂フベキ旨ヲ記載シ振  
出スコトヲ許セリ

抑モ如此銀行ノミニ支拂フヘキ旨ヲ記載セラレタル小切手ハ銀行ニアラ  
サレハ支拂ヲ爲サ、ル故盜難紛失等ノ場合ニハ尤モ安心ナルモノナリ又  
之ヲ受取リタル銀行ハ現金受授スルニアラスシテ他ニ帳簿上貸借計算ニ  
止マル故頗ル便利ナルモノトス

如此制限ヲ附スルニハ別段ノ記載ヲ要セス唯手形而適當ノ場所ニ横線ヲ  
平衡ニ畫キ其内ヘ某銀行ト特定シタル時ハ其銀行ニ於テ掛拂ヲナシ又ハ  
單ニ銀行ト記載セラレタル時ハ何レノ銀行ニテモ掛拂差承ナキ様流通ス  
ルモノナリ

第八百二十二條 小切手ハ支拂金ヲ受取ル時受取證ヲ記シ  
テ之ヲ交附スルコトヲ要ス

本條ハ爲替手形ト同シク支拂ヲ受ケタル小切手ニハ受取證ヲ記シ引渡ス  
ヘキモノトス蓋シ手形及ヒ小切手ハ總テ現金同様見做サル、故之ヲ處持  
セシモノハ一旦支拂濟トナリタルモノナルモ受取證ノ記載ナキ以上ハ再  
ヒ流通シテ現金引替ヲナスコトヲ得又支拂ヒタル銀行ニ於テモ受取證ヲ記  
載セシメス金員ヲ渡シタルモ再ヒ此小切手ハ流通シ小切手金ノ鼠拂請  
求ヲ受ケタル時ハ二度拂ヲナスノ損失ヲ負フカ故必ス受取證ヲ記シ取リ  
置クヘキモノトス

第八百二十三條 日附ヲ爲サス若クハ虚偽ノ日附ヲ爲シテ  
小切手ヲ振出シ裏書讓渡シ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者  
又ハ日附ナキ小切手ヲ受取リ支拂ニ若クハ之ニ受取證ヲ  
記スル者又ハ相當ノ信用ナクシテ小切手ヲ振出シ若クハ  
正當ノ理由ナクシテ依頼ヲ取消ス者ハ小切手金額ノ百分  
ノ十ノ過料ニ處ス若シ刑法上ノ刑ニ處ス可キ行爲アルト



キハ併セテ其刑ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス  
 本條ハ小切手ノ日附ヲ脱漏シ又ハ虚偽ノ日附ヲ以テ小切手ヲ振出シ又ハ  
 裏書ヲナシ若クハ之ニ受取證ヲ記載シタルモノ又ハ日附ナキ小切手ヲ受  
 取撤拂ヒ若クハ之ニ受取證ヲ記シタル者又ハ銀行ニ抹シ政拂ヲ受クル程  
 ノ相當ノ信用ナキモノカ小切手ヲ振出シ若クハ正當ノ理由ナクシテ一旦  
 振出シタル小切手ヲ拂ノ依頼ヲ取消シ他人ニ迷惑ヲ懸ケタル者ハ其小切  
 手ノ金高ノ百分ノ十ノ過料ニ處スルモノトス尤モ其日付ヲ偽造變造シ又  
 ハ詐欺センカ爲メ小切手ヲ發行シタルモノハ刑法上ノ罰ト併科スルモノ  
 トス然シテ其處罰ノ方法ハ第二百六十一條  
 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其命令ニ對シテ即  
 時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 ノ規定ニ基キ裁判所命令ヲ以テ言渡スヘキモノトス

元來小切手ハ銀行發行ノ殘弊ニ亞クヘキ流通力ヲ有スルモノ故如此キ規  
 定ヲ設ケテ安全及ヒ信用ノ保護スルノ以所ナリ  
 以工第六百九十九條ヨリ第八百二十三條ニ到ル各本條ニ於テ充分爲替手  
 形及約束手形ノ性質并ニ方式等詳解セシモ尙ホ讀者一覽ノ便利ヲヨリ爲  
 替手形ノ假例ヲ設ク手形法ノ活用ヲ指示スヘシ蓋シ爲替手形ハ手形法全  
 体ニ涉ルヲ以テ其原則ノ活用ヲ盡知スルニ於テハ其他ノ手形ハ習ハスシ  
 テ應用シ得ルニ至ルヘキヲ以テナリ

手形振出ノ事

- 振出人 甲野由兵衛
- 受取人 乙野善兵衛
- 文拂人 丙田傳兵衛

右三人ノ關係ニテ金額壹萬圓ノ爲替手形ヲ明治廿六年三月一日振出シ全  
 年五月卅日支拂フヘキ様作成セントスルニハ左ノ書式ニ基キ調成スルヲ



ヲ要ス

金壹萬圓			
印			
番號	支拂人	受取人	日附
第壹號	丙田傳兵衛	乙野善兵衛	廿六年三月一日
期限	全年五月三十日		

爲替手形

第一 壹號  
一金壹萬圓

右金額廿六年五月卅日乙野善兵衛殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御支拂可被成候也

東京市京橋區銀座四丁目一番地

明治廿六年三月一日  
甲野由兵衛印

丙田傳兵衛殿

右書式ノ手形ハ指圖式定期拂ノ手形ト云フ序テニ手形ノ種類ヲ左ニ掲グヘシ

第一 指圖式手形 無記名式手形

此ノ手形ノ區別ハ受取人指名セラル、否トニアリ則チ指圖式ノ才形ハ受取人何某又ハ其何ノ某ヨリ指名セラレタル人ニ支拂フヘキ手形ヲ云ヒ無記名式手形ハ特ニ受取人ヲ指名セス手形持參人ナレハ何人ニテモ支拂フヘキ約束ヲ掲ケタル手形ヲ云フ其書式ハ本書第三頁四ノヲ終覽スベシ

第二 定期拂手形 一覽拂手形 一覽後定期拂手形

定期拂手形トハ前記書式ノ如ク廿六年五月三十日ト支拂期日ノ確定シタル手形ニ云フ

一覽拂手形トハ前ニ差示シタル書式中右金額ノ下廿六年五月三十日ト記載シアル箇處ヲ右金額御一覽次第云々ト記載セラレタル手形ニシテ支拂期日ハ債權者ナル處持人ノ隨意ニ任セタル手形ヲ云フ



一覽後定期拂手形トハ前書式右金額ノ下御一覽後十日目又ハ一週間目ト記載セラレタル手形ヲ云フナリ

第三 他所拂手形

此手形ハ振出地ト支拂地テ異リタル手形ヲ云フ例ハ東京ノ振出ニテ大阪ノ支拂物ナルモノヲ云フ

第四 他人拂手形 自拂手形

他人拂手形ハ振出人ノ外ニ支拂人ヲ掲ケタル手形ヲ云ヒ自拂手形トハ約束手形又ハ爲替手形ニテモ振出人カ自ラ支拂人トナリ手形シタル手形ノ如キモノヲ云フ

前書乙野善兵衛カ支拂期日則チ廿六年五月三十日迄自分處持シ支拂ヲ受ケタル時ハ手形ノ活動茲ニ終局ヲ告クレモ若シ否ラスシテ乙野善兵衛ニ於テ廿六年三月十日ニ現金ノ必要ヲ來シ丁田傳兵衛ナル人ニ割引讓渡ヲナス時ハ裏書ヲ以テ流通セシムルヲ要ス

手形裏書

右流通ヲナス裏書讓渡ニハ二様ノ書式アリ

甲

表面ノ金額丁田傳兵衛殿ハ同人指圖人ニ御支拂可被成候也

日本橋區通一丁目八番地

明治廿六年三月十日

乙 野善兵衛 印

乙

手形裏面

日本橋町通一丁目八番地

明治廿六年三月十日

乙 野善兵衛 印

右甲書式裏書ヲ記名式裏書讓渡ト云ヒ乙書式ヲ白地式裏書又ハ無記名式裏書讓渡ト云フ其差異ハ甲裏書ニテ讓渡シタルモノ再ヒ他ニ流通セント



スルニハ必ス裏書ヲ以テ移轉スヘキモノトス若シ裏書ヲ省キ讓渡シタル時ハ其讓受人ハ氣毒ナカラ處持人タル効力ナキモノトス  
乙裏書ニヨリ讓受ケタルモノハ無記名手形ノ場合ト同シク再ヒ他ニ流通スルニハ裏書ヲ要セス單ニ手渡ヲ以テ所有權移轉スルモノトス  
前記丁田傳兵衛ハ三月十五日戊田長兵衛ニ裏書讓渡ヲナシ戊田長兵衛ハ己田喜兵衛ニ四月十五日裏書讓渡ヲナシタリ

引受

此手形ハ己田喜兵衛ニ移轉シタル手形面ニ振出人又ハ裏書人ヨリ支拂引受ノ爲メ呈示スルコトニ付別段制限アラサルヲ以テ支拂人ノ義務ヲ確ムル爲メ四月廿五日引受ノ爲メ處持人己田喜兵衛ヨリ支拂人ニ呈示セリ此時丙田ニ於テ苦情ナク之ヲ引受ケ支拂期日即チ五月三十日ニ支拂ヲナスニ於テハ最早他ノ手續ヲ要セサレハ丙田傳兵衛ニ於テハ甲野由兵衛ノ振出シタル手形ニ尿シテ支拂ノ義務ナキ旨ヲ以テ斷然引受ヲ拒絕セリ

引受ニ關スル注意ノ要件

- 一 他所物手形ニシテ振出人カ手形面ニ引受ノ爲メ必ス呈示スヘキコトヲ命シ且之ヲ怠レハ償還請求權ヲ失フベキモノトス
- 一 覽後定期拂手形ハ若シ短キ期日ニ引受ノ爲メ呈示スヘキコトヲ記載シアラサル時ハ振出日付後二ヶ年内ニ必ス呈示スヘキモノトス之レヲ徴レハ償還請求權ヲ失フモノトス
- 一 支拂人ニ於テ即日引受ヲナス又ハ條件ヲ附シ引受ヲナシタル時或ハ引受以外ノ意味ヲ記載シ署名捺印シタル時又ハ署名セシモ捺印ヲ肯セサル時ハ支拂拒絕トナル故速ニ拒證書ヲ作成スルコトヲ要ス
- 前記ノ如ク支拂人丙田傳兵衛支拂ヲ拒絕セル故處持人ハ爲替權利ノ安全ヲ云ルガ爲メ裁判所役員則チ執達吏ニ依頼シテ拒證書ヲ作成セシメタリ茲ニ注意スヘキハ甲野由兵衛カ振出シタルガ如キ手形ニアラスシテ特ニ四月十五日迄引取ノ爲メ呈示スベキコトヲ明記シアルカ又ハ一覽後定期拂



ノ手形ナル時ハ必ス引受ノ爲メ呈示スヘキモノナリ而シテ呈示ノ上支拂人ヨリ引受拒絶セラレタル時ハ拒證書ヲ作成スルコトヲ要ス若シ其手續ヲ怠タル時ハ償還請求權ヲ失フモノナリ然レモ乙野由兵衛ノ振出シタル手形ハ之レト同一ニアラス引受ノ爲メ呈示スルモ否ラサルモ所持人ナル己田喜兵衛ノ随意ナルカ故ニ之ヲ拒絶セラレタル時モ拒證書ヲ作成スルト否ラサルトハ亦隨意ナルモノナレモ支拂人ニ引受ヲナサシムルニ於テ左ノ利益アリ

一支拂人カ支拂引受ヲ承諾スルニ於テハ満期日ニナリ爲替資金ノ到着スルト否ニ關セス支拂人ハ所持人ニ余シ爲替上ノ義務則チ連帶ノ義務ヲ負ハシムル利益アリ

二若シ支拂人支拂ヲ拒絶スルニ於テハ拒絶證書ヲ作成シ償還義務アル者ニ擔保品提供スヘキコトヲ請求スルヲ得ルノ利益アリ

拒證書

前記ノ如ク丙田傳兵衛ニ於テ支拂ヲ拒ミタル故所持人己田喜兵衛ハ償還義務者ヨリ擔保品ヲ受取ル目的ヲ以テ遅延ナク執達吏ヲシテ左ノ拒證書ヲ作成セシメタリ

拒證書

東京市日本橋區箱屋町十四番地平民

爲替手形處持人 戊田喜兵衛

東京市神田區錦町一丁目三番地平民

全支拂人 丙田傳兵衛

明治廿五年四月廿六日爲替手形所持人己田喜兵衛ノ依頼ニ依リ支拂人丙田傳兵衛カ手形支拂引受ヲ拒絶セシニ付キ其理由ノ陳述ヲ聞キ此ノ調書ヲ作成ス

一本件引受拒絶セラレタル甲野由兵衛カ振出シタル爲替手形ハ左ノ如シ



第壹號

爲替手形

一金壹萬圓

右金額廿六年五月卅日乙野善兵衛又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御支拂可被成候也

東京市京橋區銀座一丁目一番地

明治廿六年三月一日

甲野由兵衛

丙野傳兵衛殿

表

表面ノ金額丁田傳兵衛又ハ同人指圖人ニ御支拂可被成候也

日本橋區通一丁目八番地

明治二十六年三月十日

乙野善兵衛印

裏

表面ノ金額戊田長兵衛殿又ハ同人指圖人ニ御支拂可被成候也

日本橋區通二丁目九番地

明治二十六年三月十五日

丁田傳兵衛印

面

書面ノ金額己田喜兵衛殿又ハ同人指圖人ニ御支拂可被成候也

日本橋區通三丁目十番地

明治二十六年四月十五日

戊田長兵衛印

一本件拒證書作成ノ際拒者丙田傳兵衛立會ノ上引受拒絶ノ理由左ノ如ク申立タリ

曰ク甲野由兵衛ハ平素商業上取引先ナルモ本件爲替手形ニ對シ資金送致ナキ而已ナラス支拂及ヒ引受ニ付キ何タル委頼無之且取引計算上如此多額ノ貸借無之依テ手形支拂引受ヲナスコ能ハサル旨陳述セリ  
一右支拂引受ノ要求ヲナシタル月日場所ハ昨四月廿五日拒者丙田傳兵

小切手

百九十五



衛ノ營業店神田區錦町一丁目三番地ニ於テ爲ス全日直チニ引受拒絕セラレタリ

此調書ハ明治廿六年四月廿六日神田錦町一丁目三番地支拂人丙田傳兵衛ノ吳服販賣店ニ於テ作成シ各臨席者ニ讀聞セタル處相違ナキ旨ヲ申立テタリ依而署名捺印セシメタリ

此ノ拒證書作成ノ時間ハ午前八時ヨリ全三十分ニテ結了ス

臨席者

己田喜兵衛

手形處持人

拒者

丙田傳兵衛

下谷區裁判所執達吏

天野太郎

右拒證書出來スルヤ直チニ償還義務者則チ振出人甲野及ヒ裏書乙野丁田戊田ノ四名中乙田カ隨意撰擇スルノ資力慥ナル戊田ニ向ヒ拒證書作成ノ

通知ヲナシ且ツ全時支拂期日ニ至リ支拂ヲ受クル迄爲替壹萬圓并ニ拒證書作成費用ニ充ル丈保證品ヲ差入ルベキヲ左ノ書面ヲ以テ求メタリ

拜啓貴殿廿六年三月一日付甲野山兵衛殿振出ニ係ル第一號爲替手形支拂人丙田傳兵衛ニ對シ昨廿五日支拂引受ノ爲メ呈示シタル處拒絕セラレ候ニ付本日下午裁判所執達吏天太郎殿ニ依頼シ拒證書作成仕リ候間滿期日迄爲替金壹萬圓年ニ拒證書作成ノ費用金拾錢合計壹萬圓拾錢ニ對スル保證書御差入相成度商法第七百三十九條ニ基キ右請求仕リ候也

東京市日本橋區泊屋町十四番地

明治廿六年四月廿六日

己田喜兵衛印

戊田長兵衛殿

右請求ヲ受ケタル戊田ハ現金直チニ己田ニ支拂フカ又ハ請求通り擔保品ヲ差入ル、カ或ハ即時ニ大藏省預金局へ供託スルノ義務アルモノヲ以テ